

2026 年 7 月

食料安全保障月報 (第 61 号)



令和 8 年 7 月 31 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021 年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2026 年7月食料安全保障月報(第 61 号)

目 次

概要編

I 2026 年7月の主な動き	1
II 2026 年7月の穀物等の国際価格の動向	4
III 2026/27 年度の穀物需給(予測)のポイント	4
IV 2026/27 年度の油糧種子需給(予測)のポイント	4
V 今月の注目情報「豪州の穀物等の生産・輸出動向」	5

(資料)

1-1~3 穀物等の主要輸出国の生産量(過去 10 年平均との増減比較)	1 0
1-4 穀物等の国際価格の動向	1 3
1-5 サプライチェーン等に関する状況	1 4
2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 5
3 穀物等の期末在庫率の推移(穀物全体、品目別)	1 6
4 加工食品の主な輸入原材料(穀物等を除く)の状況	1 8
5 食品小売価格の動向	2 2
6 海外の畜産物の需給動向(ALIC 提供)	2 3
7 FAO 食料価格指数	2 4

今月のコラム

「南米・チリの食事情②:チリにおける肉を巡る食料安全保障」	2 5
-------------------------------	-----

品目別需給編

I 穀物	
1 小麦	1
<米国> 2026/27 年度の作付面積は前年度から 5.7%減少する見込み	
<カナダ> 2026/27 年度の作付面積は前年度から 5.6%減少する見込み (カナダ統計局)	
<豪州> 2026/27 年度の輸出量は前年度から 30.8%減少する見込み(ABARES)	
<EU27> 2026/27 年度の実産量は前年度から 6.4%減少する見込み(EC)	
<ロシア> 2026/27 年度の実産量は前年度から 2.0%減少する見込み	
<ウクライナ> 2026/27 年度の実産量は前年度から 0.4%減少する見込み	
<中国> 2026/27 年度の実産量は史上最高となる見込み	
2 とうもろこし	9
<米国> 2026/27 年度の実産量は、前年度から 6.0%減少する見込み	
<ブラジル> 2026/27 年度の実産量は、前年度から 0.7%増加する見込み	
<アルゼンチン> 2026/27 年度の実産量は、前年度から 12.7%減少する見込み	
<ウクライナ> 2026/27 年度の実産量は、前年度から 2.9%減少する見込み	
<中国> 2026/27 年度の実産量は、前年度から 1.9%増加する見込み	

3 コメ	1 5
<タイ> 2026/27 年度の輸出量は、前年度から 7.1%増加する見込み	
<米国> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 25.8%減少する見込み	
<中国> 2026/27 年度の消費量は、前年度からわずか(0.02%)に減少する見込み	
<インド> 2026/27 年度の期末在庫量は、前年度から 5.6%減少する見込み	
<ベトナム> 2026/27 年度の輸入量は、前年度から 15.2%増加する見込み	
II 油糧種子	
大豆	2 1
<米国> 2026/27 年度の生産量は前年度から 5.0%増加する見込み	
<ブラジル> 2026/27 年度の生産量は前年度から 3.3%増加する見込み	
<カナダ> 2026/27 年度の作付面積は前年度から 3.1%増加する見込み (カナダ統計局)	
<中国> 2026/27 年度の生産量は前年度から 0.5%増加する見込み	
<アルゼンチン> 2026/27 年度の生産量は前年度同の見込み	
(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について(2026/27 年度)	2 7
(参考2)単位換算表	2 8
(参考3)クロップカレンダー	2 9

表紙写真:カナダのオンタリオ州の大豆。栄養生長期終盤を迎えており、作柄は平
年並みである。
(撮影日:2026 年7月7日)

(概要編)

I 2026 年7月の主な動き

主要穀物等の生産量等について

7月の米国農務省(USDA)の需給報告によれば、2026/27年度の各品目の生産量等の状況は以下のとおり。

小麦の生産量は、ロシア、ウクライナ等で上方修正されたものの、カナダ等で下方修正され、前月から0.1百万トン下方修正された。前年度からは、トルコ、モロッコ、インド、シリア、イラン等で増加するものの、米国、EU、豪州、アルゼンチン、カナダ、カザフスタン、ロシア等で減少し、世界全体の生産量は前年度から23.8百万トン減の820.0百万トンとなる見通し。

とうもろこしの生産量は、カナダ等で上方修正されたものの、EU、ケニアで下方修正され、前月から3.3百万トン下方修正された。前年度からは、中国、セルビア、カナダ等で増加するものの、米国、アルゼンチン、インド、EU等で減少し、世界全体の生産量は前年度から30.6百万トン減の1,297.1百万トンとなる見通し。

大豆の生産量は、ロシア等で下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から0.4百万トン上方修正された。前年度からは、ブラジル、米国等で増加するものの、ロシア、パラグアイ等で減少し、世界全体の生産量は前年度から12.2百万トン増の441.7百万トンと史上最高となる見通し。

期末在庫量は、小麦、とうもろこし及び大豆とも前年度から減少となっている。消費需要は引き続き旺盛であり、注視が必要。

FAO(国連食糧農業機関)が公表した6月の食料価格指数(最新値)については、植物油及び肉類の価格指数が上昇したものの、砂糖、穀物及び乳製品の価格指数が下落したことにより、5月の130.8から130.3に下落(参考:2025年6月128.1)。

海上運賃については、バルチック海運指数(穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数)が、6月末時点2,501(5月末時点3,224、2025年平均値1,679)。



写真:ウクライナ・ドニプロペトロウシク州の出穂期を迎えた春小麦。

撮影日:2026年7月6日



写真:ロシア・欧州部南部クロスノダール地方のひまわり(油糧種子)。

収穫は8月前半の見込み。

撮影日:2026年6月28日

ウクライナの生産・輸出動向

7月のUSDAの需給報告によれば、2026/27年度のウクライナの小麦の生産量は、前月予測から50万トン上方修正されたものの、収穫面積が減少することを受け、前年度から0.4%減少し2,400万トンとなる見込み。また、輸出量は、前月予測から50万トン上方修正され、前年度から4%増の1,450万トンとなる見込み。

2026/27年度のとうもろこしの生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が増加するものの、収穫面積が減少することを受け、前年度から3%減少し3,000万トンとなる見込み。また、輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度同の2,300万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、2026/27年度冬小麦の単収は、乾燥の影響があった前年度を上回るのは確実と予測されている。2026/27年度春小麦の作付けは、ほぼ完了しているとみられ作付面積は18.9万ヘクタールとなっている。7月13日現在、2026/27年度の小麦の収穫進捗率は5.5%で111.3万トンが収穫されている。

とうもろこしの作付けもほぼ完了しているとみられ、作付面積は437.5万ヘクタールとなっている。

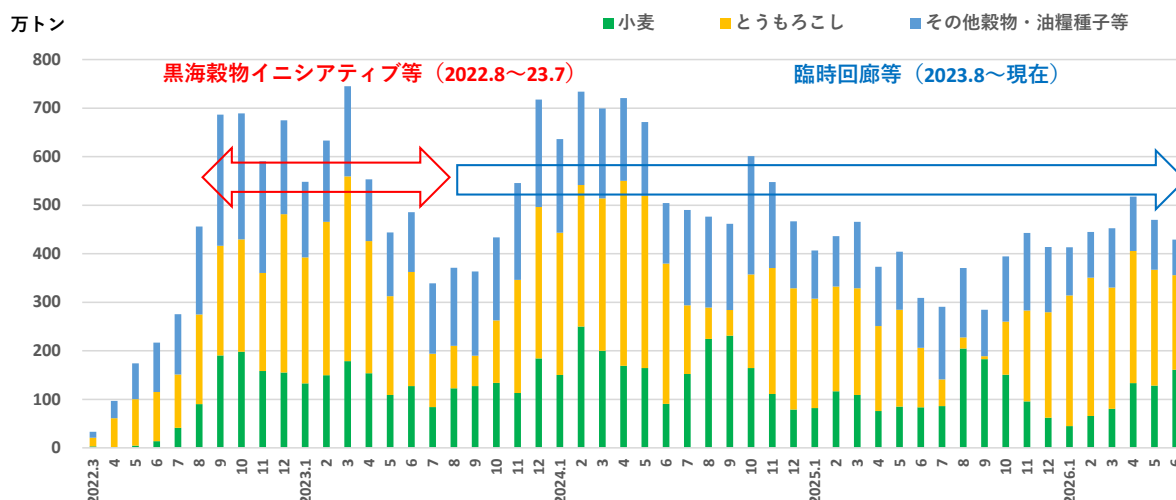
ウクライナ経済・環境・農業省(2026.6.19)によれば、2026/27年度小麦の収穫見通しは2,200～2,300万トンと、前年度からわずかに減少。とうもろこしは3,200万トン超の見通し。

臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意(黒海穀物イニシアティブ)により、同年8月以降、オデーサ港等3港からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。

黒海穀物イニシアティブの停止後、ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関(IMO)に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊のほか、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出等が行われているものの、ロシアによるウクライナの港湾インフラ等に対する攻撃が続いており、引き続き輸出動向について注視が必要。

(参考) ウクライナの輸出量の推移(月毎)(2022年3月～2026年6月)



出典:ウクライナ経済・環境・農業省、ウクライナ穀物協会のデータをもとに農林水産省で作成

注:データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計

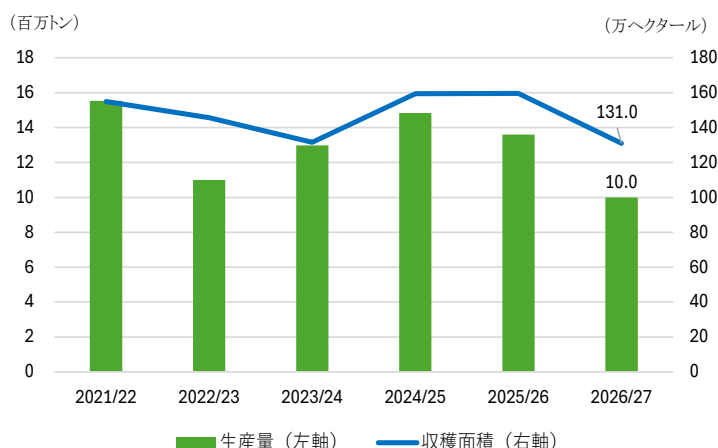
1 フランス:2026/27 年度とうもろこしは作付面積の減少や乾燥と猛暑により生産量が減少

USDA によれば、フランスのとうもろこし生産量は、過去5年平均で EU 全体の 22%を占めている。2026/27 年度のとうもろこしの生産量は、前月予測から 24%下方修正、前年度及び過去5年平均から 26%減の 1,000 万トンとなり 1990/91 年度以来、最低の生産量となる見込み。これは、収穫面積が前月予測から 13%下方修正、前年度から 18%減の 131 万ヘクタールと 1969/70 年度以来最低となるとともに、単収が前月予測から 13%下方修正、前年度から 10%減の 7.63 トン/ヘクタールとなることによる(図1)。

西欧州に停滞している高気圧の影響で、フランス全土で乾燥と記録的な猛暑に見舞われている。とうもろこしは、多くの水分を必要とし、長期の高温によって大きな影響を受けるため、深刻な打撃を受けている。

また、フランス農業省の発表によれば、収穫面積が 19 万ヘクタール減少しており、これは生産者が肥料及び燃料の高騰により、採算性の悪い圃場を休耕とした可能性がある。生育が悪いことから更に多くの面積がサイレージ用に転用されると見込まれる。

図1:フランスのとうもろこしの生産量・収穫面積の推移



出典:USDA「PS&D」(2026.7.10)をもとに農林水産省で作成

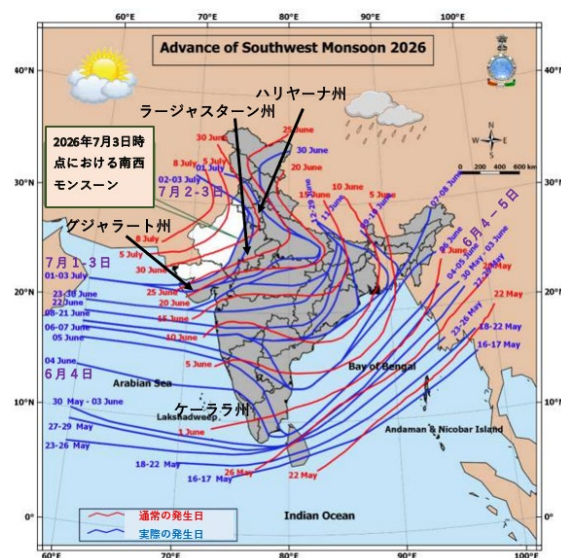
2 インド:エルニーニョ現象への懸念が高まる中、南西モンスーンが進行するもカリフ(雨期)作物の作付進捗は前年度に比べ遅れている

インド気象局(IMD)「2026 年7月降水量・気温月間予測」(2026.7.3)によれば、南西モンスーンは、平年より約3日遅い6月4日、南部ケーララ州に到達。7月3日時点で北部のグジャラート州、ラージャスターン州及びハリヤーナ州へ拡大した(図2)。

同「2026 年6~9月南西モンスーン期の降水量長期予測」(2026.5.29)によれば、モンスーン期間中にエルニーニョが発生し、7~9月にかけて影響が強まる可能性が高いとされている。インドの年間降水量の約 70%をもたらすモンスーンは、エルニーニョ・南方振動(ENSO)に大きく左右される。そのためエルニーニョの発生により、降水量が平年値(過去 50 年平均)の 90%に留まると予測。また平年を下回る確率は 84%と予測されている。

そのような中 2026/27 年度のカリフ(雨期)作物の作付けが開始。インド農業・農民福祉省「作付進捗週報」(2026.6.26)によれば、カリフ(雨期)作物の作付面積は、前年度(1,394 万ヘクタール)から 36.5%減少し 884 万 6,000 ヘクタール。品目別では、コメ(前年比 25.15%減)、豆類(同 57.32%減)、とうもろこし(同 15.56%減)及び大豆(同 65.34%減)と、いずれの品目も降雨不足により前年に比べ作付けが遅れている状況。

図2:南西モンスーンの北上(2026 年7月3日時点)



出典:インド地球科学省/インド気象局(IMD)HP より

II 2026 年7月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、6月末、210ドル/トン台半ばで推移。7月に入り、米国の高温乾燥予報とフランスの熱波による作柄に対する懸念、米国農務省需給報告で世界の期末在庫量が市場予想を下回ったこと、ロシアとウクライナの対立激化等を受け上昇し、7月中旬現在、230ドル/トン台前半で推移。

とうもろこしは、6月末、160ドル/トン台前半で推移。7月に入り、米国の高温乾燥予報とフランスの熱波による作柄に対する懸念等を受け170ドル/トン台半ばまで上昇したものの、米国の高温が和らぐ予報等を受け下落し、7月中旬現在、170ドル/トン台前半で推移。

コメは、6月末、500ドル/トン台半ばで推移。7月に入り、エルニーニョ現象の予測を受けた東南アジア諸国の備蓄需要が落ち着いたことを受け下落し、7月中旬現在、460ドル/トン台前半で推移。

大豆は、6月末、410ドル/トン台前半で推移。7月に入り、米国の高温乾燥予報による作柄に対する懸念、中国の大量買付け、米国農務省需給報告で世界の期末在庫量が市場予想を下回ったこと等を受け上昇し、7月中旬現在、440ドル/トン台半ばで推移。

(注:小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場の期近終値で7月14日まで、コメはタイ国家貿易取引委員会公表価格で7月15日まで)

III 2026/27 年度の穀物需給(予測)のポイント

7月の USDA の需給報告によれば、2026/27 年度の世界の穀物全体の生産量は、前年度から、小麦、とうもろこし、コメは減少し、穀物全体でも減少となり、前年度から 2.1%減の 29.49 億トン。

消費量は、前年度から、小麦、コメは増加、とうもろこしは減少し、穀物全体では増加となり、前年度から 0.1%増の 29.85 億トンと、消費量が生産量を上回る見込み。

貿易量は、前年度から、コメは増加、小麦、とうもろこしは減少し、穀物全体では減少となり、前年度から 5.1%減の 5.28 億トン。

期末在庫量は、7.72 億トンと前年度から減少し、期末在庫率も前年度を下回り 25.9%となる見込み(P15 資料2参照)。

(注:数値は7月の USDA「PS&D」による)

IV 2026/27 年度の油糧種子需給(予測)のポイント

7月の USDA の需給報告によれば、2026/27 年度の油糧種子全体の生産量は、前年度を上回り 7.20 億トン。

消費量も前年度を上回り 7.17 億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度を上回り 1.46 億トンとなるものの、期末在庫率は前年度を下回り 20.4%となる見込み。

(注:数値は7月の USDA「PS&D」による)

V 今月の注目情報: 豪州の穀物等の生産・輸出動向

2026/27年度の豪州の冬作物(小麦、大麦、なたね等)は、作付期(4～7月)前から初期にかけて、東部の一部地域で乾燥型の天候となったことを受け、記録史上2番目の豊作となる前年度に比べ、厳しいスタートとなった。2026/27年度の作付予測を公表した豪州の生産・輸出動向等についてまとめた。

注: 文中の「2026/27 年度」等は市場年度で、豪州の小麦は 2026 年 10 月から 2027 年 9 月、なたねは 2026 年 11 月から 2027 年 10 月。市場年度は国や作物によって異なる(品目別需給編参照)。

1 豪州の生産・輸出動向

(1) 生産動向

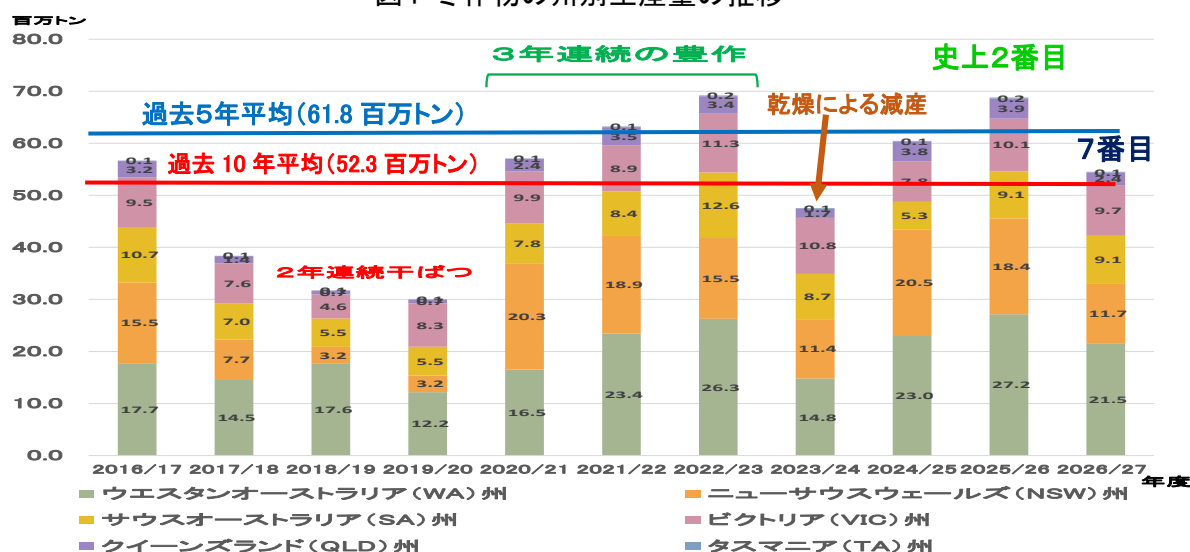
豪州農業資源経済科学局(ABARES)の「Australian Crop Report」(2026.6.2)によれば、2026/27 年度の冬作物(小麦、大麦、なたね等)の作付面積は、前年度から 6.7%減の 23.6 百万ヘクタールと予測され、過去5年平均を 3.0%下回るものの、過去 10 年平均を 2.5%上回る。2026/27 年度の冬作物の生産量は、単収の低下及び作付面積の減少を受け、史上2番目の豊作となる前年度(68.8 百万トン)から 20.7%減の 54.5 百万トンとなる見込み。過去5年平均(61.8 百万トン)を 11.8%下回るものの、過去 10 年平均(52.3 百万トン)は 4.2%上回る(図1)。

記録上7番目に多い生産量となる見込みだが、中東情勢の影響により、肥料の供給をめぐっては、不確実性が依然として残っており、また乾燥した冬となる可能性が高まっていることから、現時点での予測には下方リスクが存在する。予測生産量を達成するためには適切かつ時宜を得た肥料供給と十分な降水量の確保が極めて重要となる。

豪州の大規模畑作(小麦、大麦、なたね等)の生産量は、歴史的に見ると変動が激しく、過去 10 年間で生産量の大幅な減少(干ばつ年)と記録的な生産量の豊作年両方が見られる。近年は土壌水分を保全し、水利用の効率性を向上させる農業技術の改善に加え、種子の品種改良や農場規模が小規模から大規模へと全般的に移行しており、それを受けた平均単収の向上を通じた生産量の増加が見られる。

過去5年間(2021/22～2025/26 年)、各生産地域で厳しい気候条件に見舞われながらも、上記の改善を受け、2025/26 年度のような予測を上回る成果が実現している。

図1 冬作物の州別生産量の推移



資料: ABARES「Australian Crop Report」(2026.6)をもとに農林水産省で作成

(2) 州別の生産動向

ABARES によれば、2026/27 年度の冬作物の州別作付面積は、中東情勢を受け燃料及び肥料価格が大幅に上昇したにも関わらず、作付シーズン序盤の好天により、ウエスタンオーストラリア(WA)州(9.1 百万ヘクタール、対前年度比 0.1%増)、サウスオーストラリア(SA)州(4.1 百万ヘクタール、対前年度比 2.4%増)、ビクトリア(VIC)州(3.7 百万ヘクタール、対前年度比 0.4%増)及びニューサウスウェールズ(NSW)州南部では、作付面積が平均に近い水準で維持される見込み。

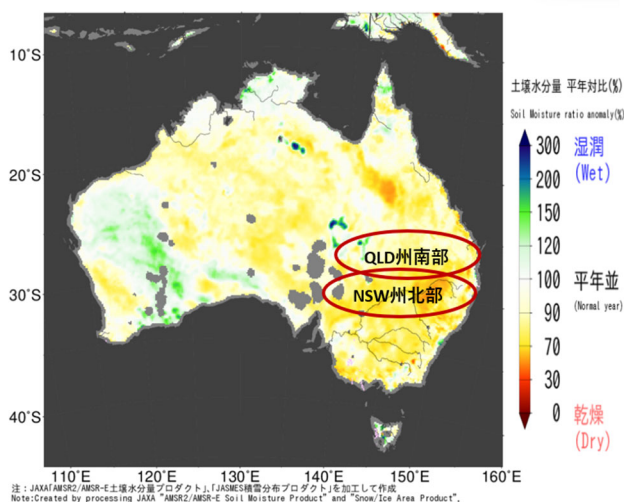
上記生産地域では、2～4月にかけての降水量が平年並み又は平年を大幅に上回る水準となったため生産者は今次冬作物の作付計画を推進する意欲を高めている。

一方、NSW 州北部とクイーンズランド(QLD)州南部では、乾燥状態が続き、2026/27 年度の冬作物の作付面積の大幅な減少が予測されている。5月中旬まで、NSW 州北部及び QLD 州南部一帯で極度の乾燥状態が続いたため、土壌水分量が非常に低くなった(図2)。これに資材費の高騰が追い打ちとなり、多くの生産者が冬作物の作付面積を大幅に削減するか、又は作付けを全く行わないと予測されていた。しかし5月下旬の降雨により、総降水量や種子・肥料の入手状況次第では作付面積が更に拡大する可能性がある。冬作物の今後の作付期において、主要な資材価格及びその入手可能性に不確実性が伴うものの、直近及び予測される気候条件が 2026/27 年度の作柄を左右する主要因と見られている。

豪州気象局「3カ月(6～8月)予報」(2026.5.21)によれば、QLD州、NSW州、VIC州、SA州、WA州の各農作地域において、冬の降水量が平年を下回る確率が60～80%と見込まれている。豪州南部のほとんどの作付地域では、土壌水分量が良好なため、作物の冬季の降雨への依存度が低くなるものの、定着及び生育を支えるには十分な降雨が必要となる。一方、北東部の作付地域では降雨が平年を下回ると見込まれており、生産面でのリスクが引き続き懸念されている。

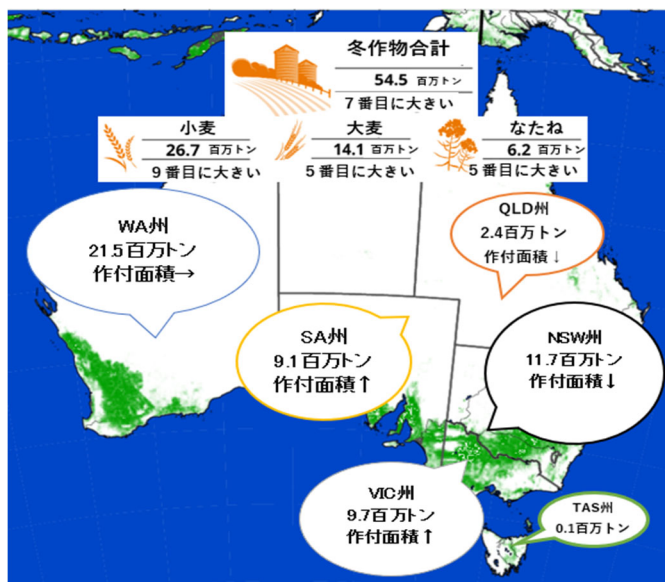
2026/27 年度の冬作物の州別生産量は、SA 州が前年度から 0.3%増の 9.1 百万トンとなる一方、WA 州が同 20.9%減の 21.5 百万トン、NSW 州が同 36.6%減の 11.7 百万トン、VIC 州が同 3.6%減の 9.7 百万トン、QLD 州が同 38.4%減の 2.4 百万トン(図3)。

図2 豪州の土壌水分量(平年対差)(2026 年4月)



出典: 農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

図3 2026/27 年度の冬作物の州別生産量



資料: ABARES「Australian Crop Report」(2026.6)をもとに農林水産省で作成

(3)小麦の生産動向

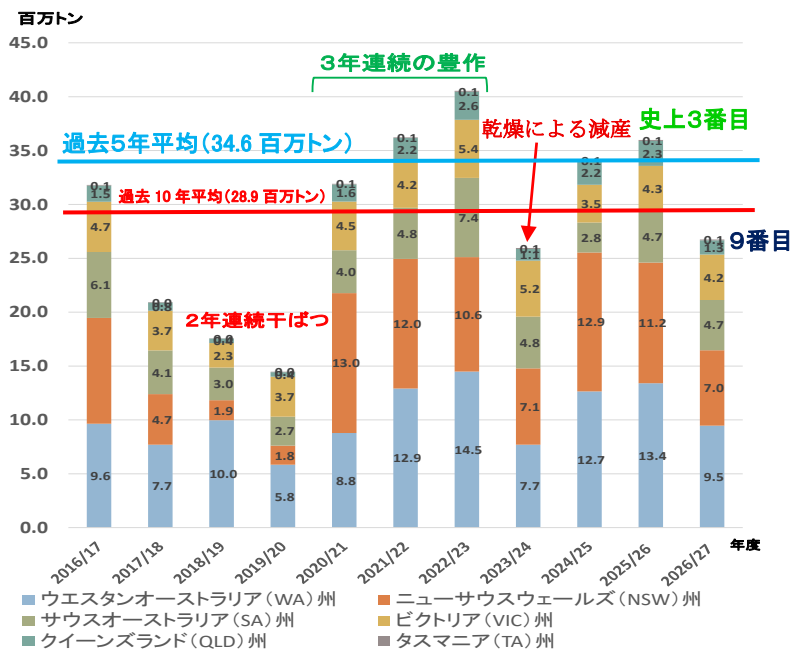
ABARES によれば、2026/27 年度の小麦の作付面積は、前年度(12.4 百万ヘクタール)から 12.0% 減の 10.9 百万ヘクタールと予測され、2019/20 年度(9.9 百万ヘクタール)以来の最小規模となる。

これは、他作物に比べ小麦の収益性が低下していることや北部の作付地域で極めて乾燥した天候が続いていることを反映している。

2026/27 年度の小麦生産量は、前年度(36.0 百万トン)から 25.7% 減の 26.7 百万トンと予測されており過去 5 年平均(34.6 百万トン)を 22.6%、過去 10 年平均(29.0 百万トン)を 7.7% 下回る水準となっている(図4)。

2026/27 年度の大麦の作付面積は、大麦価格の高騰及び小麦やなたねに比べ肥料投入量が比較的少ないことを反映し、前年度(4.8 百万ヘクタール)から 3.8% 増の 5.0 百万ヘクタールと予測されている。

図4 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料:ABARES「Australian Crop Report」(2026.6)をもとに農林水産省で作成

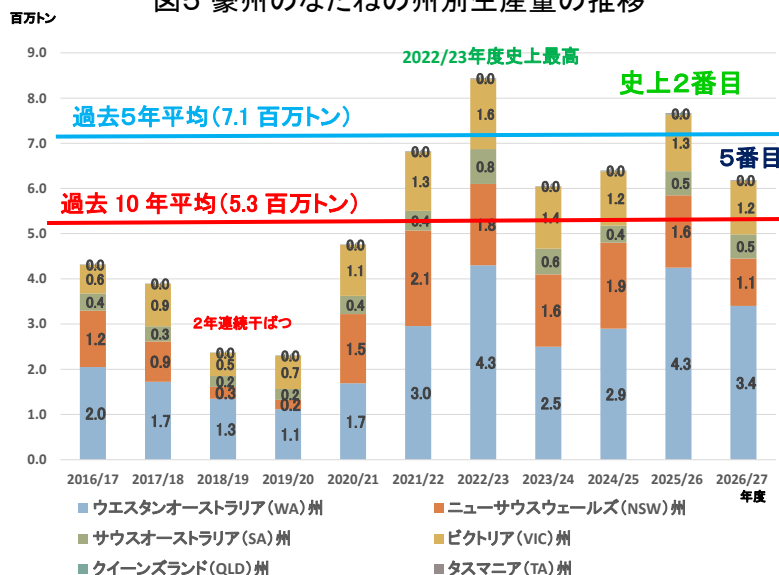
(4)なたねの生産動向

ABARES によれば、2026/27 年度のなたねの作付面積は、前年度(3.7 百万ヘクタール)から 5.6% 減の 3.5 百万ヘクタールと予測されており、WA 州、VIC 州、SA 州ではわずかな増加が見込まれるものの、NSW 州での大幅な作付面積の減少がその増加分を相殺する見込み。

肥料価格の高騰や需要の増加に関わらず、土壌水分が十分に確保できる生産者は、穀物と比べ粗利益率が高くなると見込まれるなたねの作付面積維持又は拡大を、輪作で選択している。

2026/27 年度のなたねの生産量は、前年度(7.7 百万トン)から 19.5% 減の 6.2 百万トンと予測されており、過去 5 年平均(7.1 百万トン)を 12.6% 下回り、過去 10 年平均(5.3 百万トン)を 16.7% 上回る水準となる(図5)。

図5 豪州のなたねの州別生産量の推移

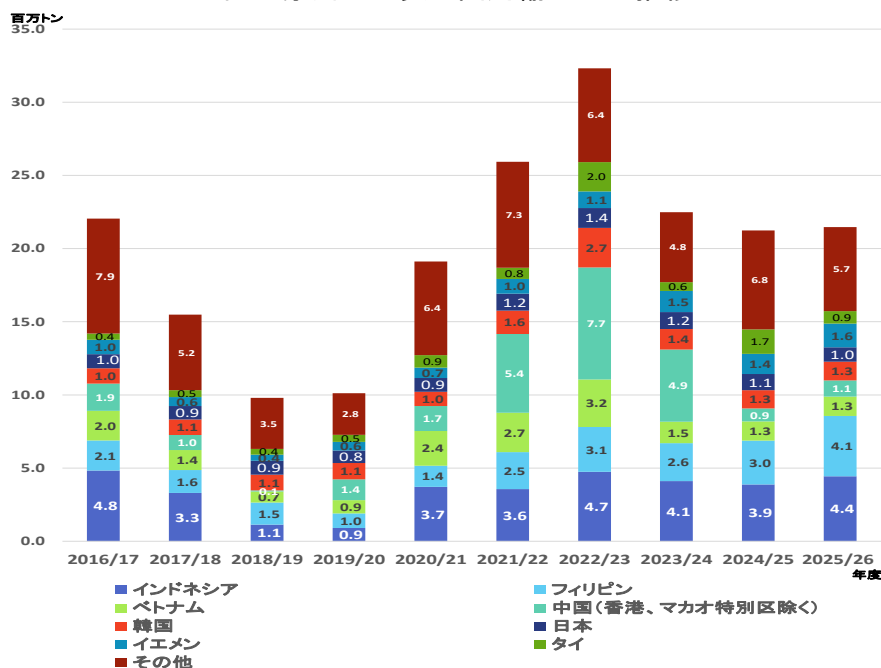


資料:ABARES「Australian Crop Report」(2026.6)をもとに農林水産省で作成

(5)小麦の輸出動向

米国農務省（USDA）「Grain and Feed Annual」（2026.4.28）によれば、2026/27 年度の小麦の輸出量は、生産量が2025/26年度から7.0百万トン減少することを受け、前年度（26.0 百万トン）から2.5百万トン減の23.5百万トンと見込まれている。生産量の減少に比べ輸出量の減少幅が小さいのは、2025/26 年度の輸出ペースが予測より鈍化し、繰越在庫が増加したことによる。

図6 豪州の小麦の国別輸出量の推移



資料:ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

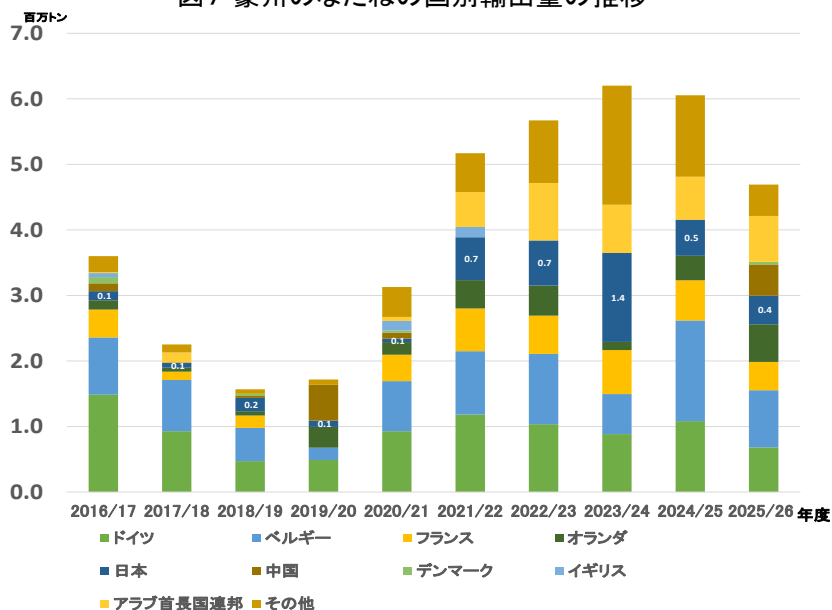
豪州は従来、50 以上の市場に小麦を輸出してきた。過去5年間で、インドネシアが最大の輸出先として台頭し、総輸出量の約5分の1を占めるようになった。一方、中国への輸出は減少し、タイ、ベトナム、韓国、日本といった国と並ぶ「第2の市場」へと後退(図6)したものの、依然として潜在的に重要な輸出先であり、その輸入量は通常、同国内生産の不足や備蓄の補充サイクルにより左右される。しかし現時点では 2026/27 年度において中国の需要が大幅に増加する兆候は見られない。2025/26 年度の中国の小麦需要は、前年度に比べ堅調であるものの、依然として低調な水準に留まっている。更に中国は2025/26 年度に、豪州からの調達の一部をカナダからの輸入に切り替えている。

(6)なたねの輸出動向

同「Oilseeds and Products Annual」（2026.4.6）によれば、2026/27 年度のなたねの輸出量は、主に中東情勢に起因したディーゼル燃料及び窒素系肥料の価格高騰に伴う生産量の低下を反映し、前年度から0.9百万トン減の4.7百万トンとなるものの、記録史上6番目の規模と見込まれている。

豪州は、カナダに次ぐ世界第2位のなたね輸出国であり、近年世界貿易の約3分の1を占める。

図7 豪州のなたねの国別輸出量の推移



資料:ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

過去 10 年間で輸出市場の動向は大きく変化し、従来豪州にとって主要な輸出市場であった欧州連合(EU)への輸出シェアは、約 90%から一時 40%まで低下したものの、2024/25 年度には約 66%まで回復した。2025/26 年度の第一四半期において、アラブ首長国連邦及び中国への輸出が大幅に増加する一方、パキスタンへの輸出は急減した。こうした変化は、中東情勢の緊迫化に先立って生じたものであり、同情勢は今後も世界貿易の流れに更なる影響を与えると予測される(図7)。豪州は世界市場におけるなたねの主要供給国という立場にあるため、需要動向の変化に柔軟に対応することができる。中東情勢の推移、とりわけエネルギー市場への影響により、バイオディーゼル原料としてのなたね需要が増加する可能性があり、輸出先が再編される可能性がある。

2 我が国の穀物輸入への影響

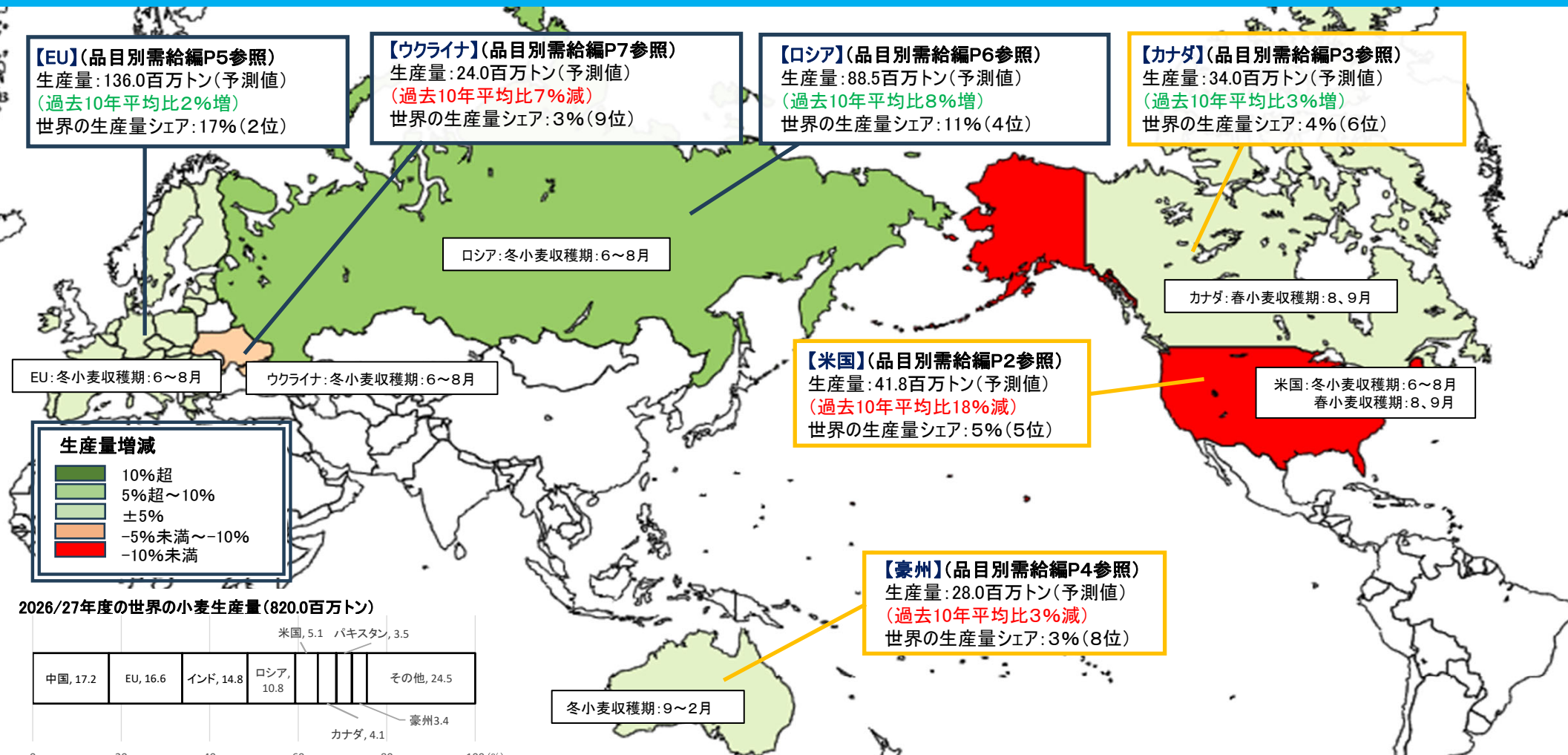
我が国は、豪州から長年、小麦となたねを継続的に輸入している。小麦については、過去 10 年平均で約 1.0 百万トン、5年平均では約 1.2 百万トンと堅調な輸入を継続している。上記1の(3)の小麦の生産動向では、2026/27 年度の小麦の作付面積は、豪州全体では前年度減となっている一方、豪州小麦の最大生産州である WA 州では、2026/27 年度の小麦の作付面積は前年度から増加、生産量は前年度からは減少するものの、過去 10 年平均からは増加すると予測されている。我が国にとって、WA 州の生産動向は重要であり、今後、特に気候の影響がないか注視していきたい。

なたねに関し、我が国は、豪州から過去 10 年平均で約 0.4 百万トン、5年平均で約 0.7 百万トンと増加傾向で輸入をしている。2023/24 年度には、豪州から日本への輸出量は、1.4 百万トンと最大の輸出先国となった(図7)。これは、日本が長年、なたねを多く輸出していたカナダが 2021 年に干ばつの影響を受け生産減となったことにより、その後徐々に日本が輸入先をシフトしていったことによると思われる。なたねの輸出動向については、世界最大の生産国であるカナダの生産動向が影響してくると考えられる。

豪州の今後の生産動向については、中東情勢やエルニーニョ現象を含めた気候の影響を注視していきたい。

また、来月の食料安全保障月報において、カナダの小麦及びなたねの生産及び輸出動向についてみていきたい。

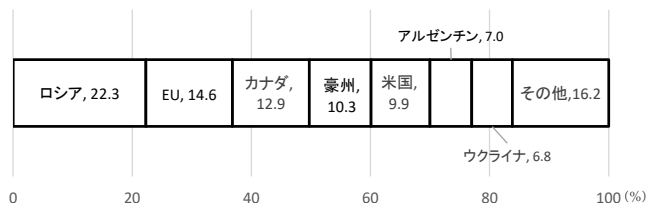
資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2026/27年度(7月版)



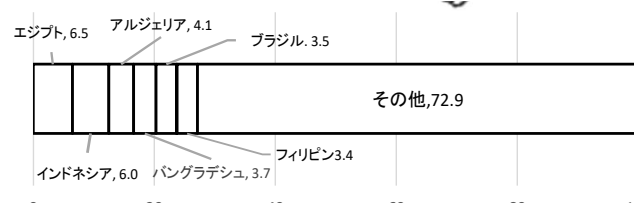
2026/27年度の世界の小麦生産量(820.0百万トン)



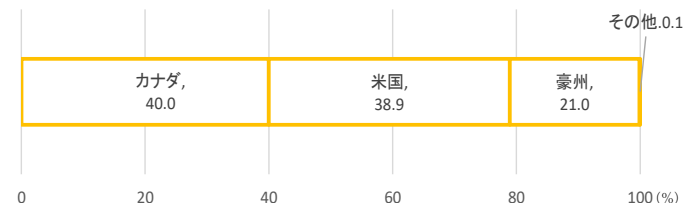
2026/27年度の世界の小麦輸出货量(213.1百万トン)



2026/27年度の世界の小麦輸入量(208.2百万トン)



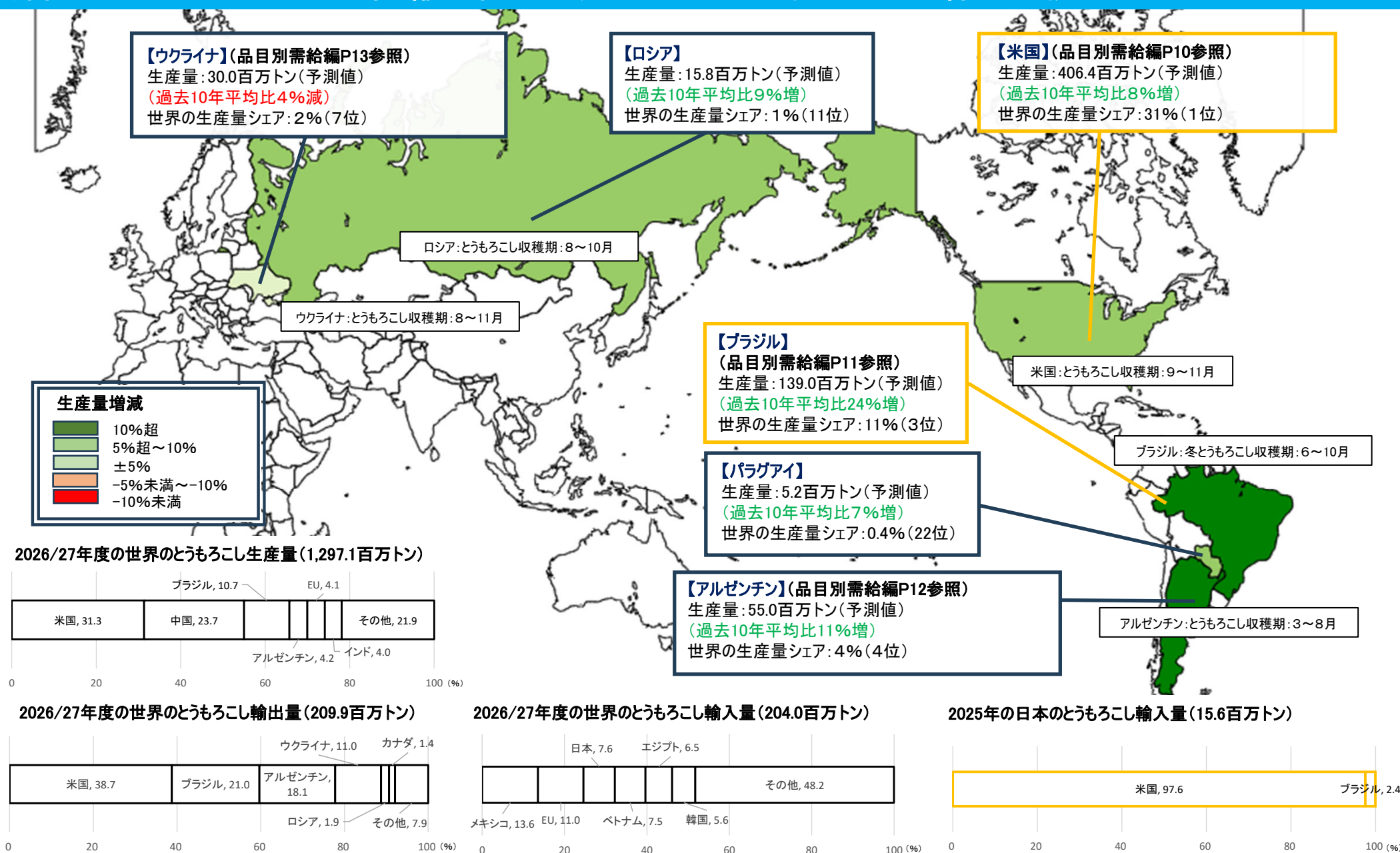
2025年の日本の小麦輸入量(5.3百万トン)



- 2024年度の日本の小麦輸入量は533万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(650万トン、うち食用は512万トン)の82.0%を占める。
- 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は256kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,248kcal)の11.4%を占める(2024年度)。

出典:USDA「PS&D」(2026.7)、財務省「貿易統計」(2025年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

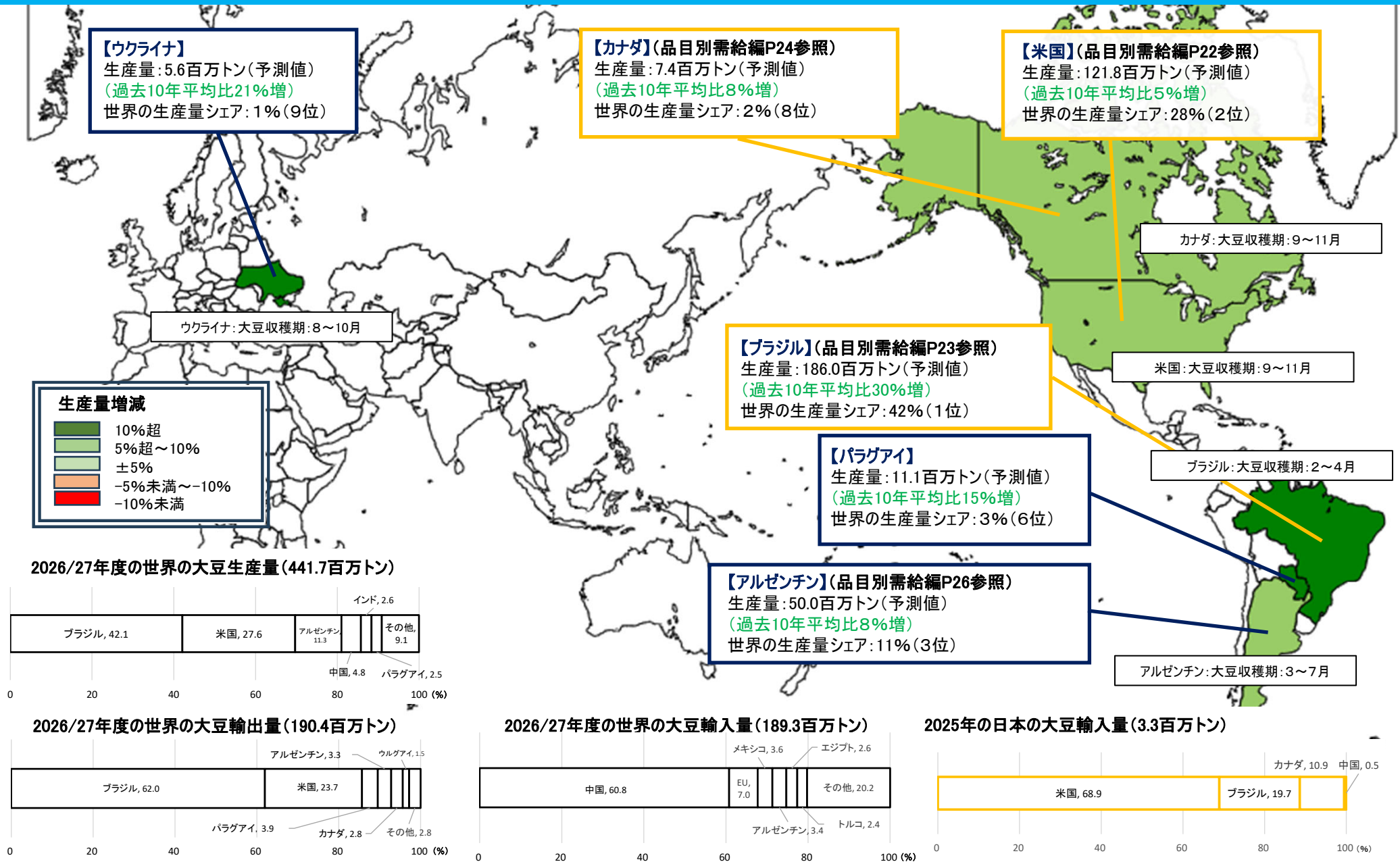
資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2026/27年度(7月版)



○ 2024年度の日本のとうもろこし輸入量は1,522万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,518万トン、うち飼料用は1,194万トン)のほぼ全量を占める。

出典: USDA「PS&D」(2026.7)、財務省「貿易統計」(2025年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2026/27年度(7月版)



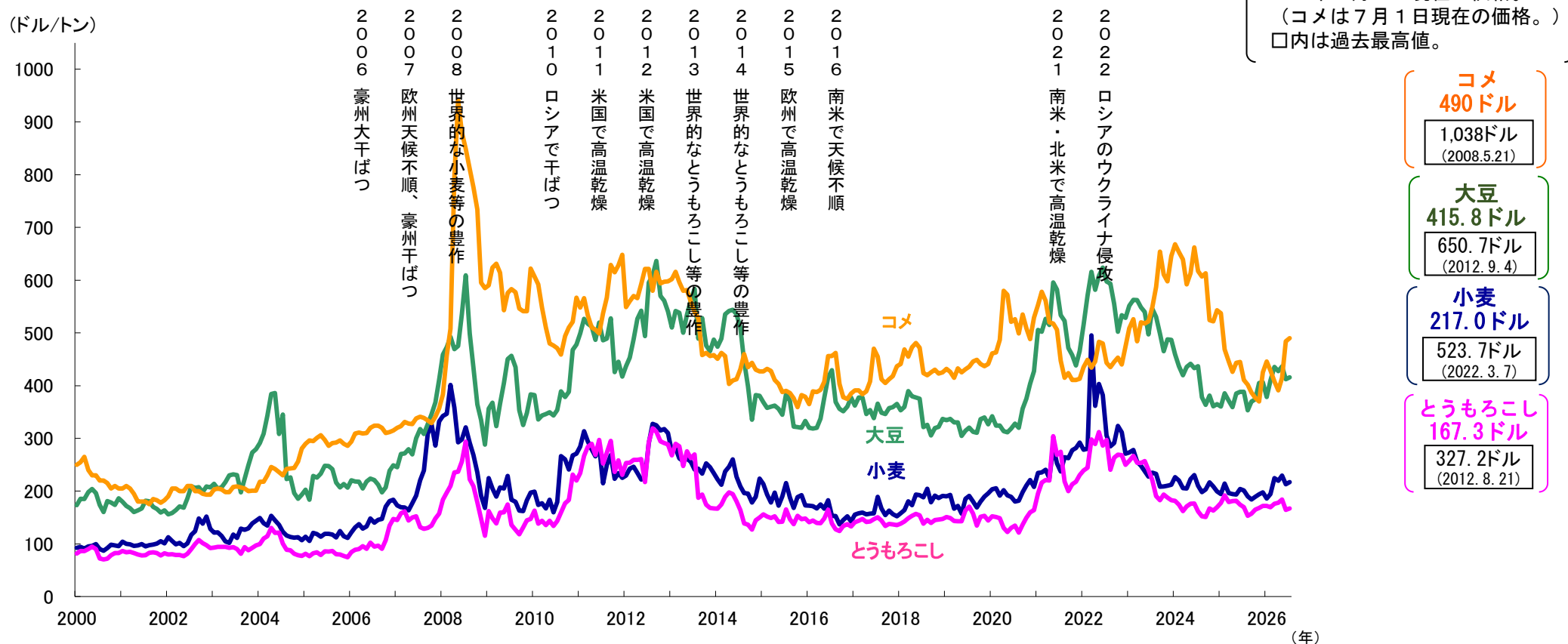
- 2024年度の日本の大豆輸入量は309万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(359万トン、うち大豆油などの加工用は256万トン、食用は88万トン)の86.2%を占める。
- 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は58kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,248kcal)の2.6%を占める(2024年度)。

出典: USDA「PS&D」(2026.7)、財務省「貿易統計」(2025年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料 1 — 4 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- 穀物等価格は、とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から下落。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥、2022年のロシアのウクライナ侵攻等により上昇も、侵攻前の水準まで下落。
- とうもろこし、大豆は、ウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで下落。直近では、中東情勢の緊迫化等により上昇傾向。
- 小麦は、2022年、ウクライナ侵攻により史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで下落。
- コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、2024年以降、インドの輸出規制解除等を受け下落し、直近では、中東情勢の影響に加え、エルニーニョ現象の影響による次期作の見通しの不確実性を受け大きく上昇。

□ 穀物等の国際価格の動向



注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。なお、今月は7月3日(金)が休場のため、7月2日(木)の価格。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料 1－5 サプライチェーン等に関する状況

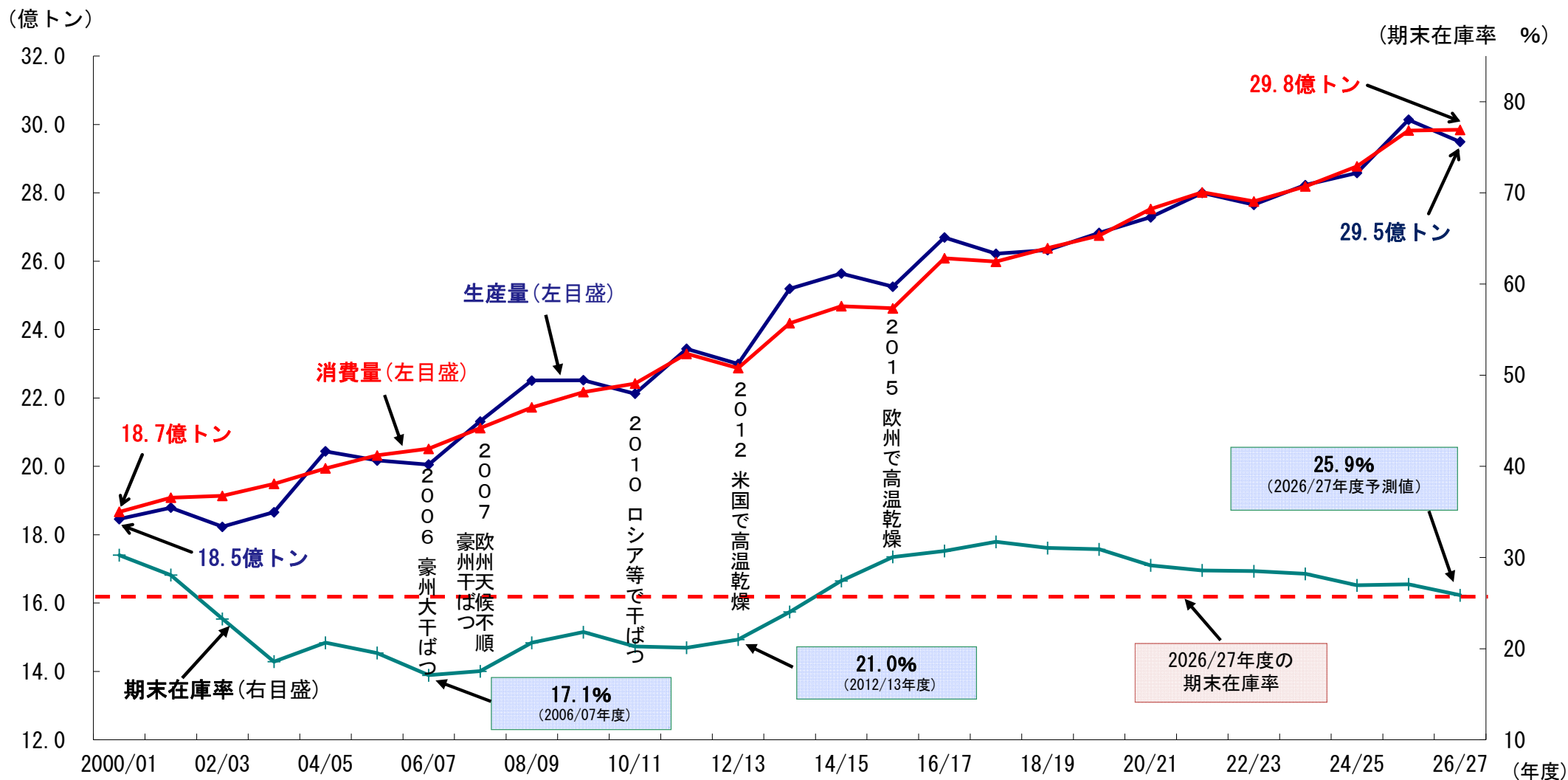
○黒海及びアゾフ海での攻撃激化により穀物等の輸出に懸念（2026年7月17日時点）

生産国の情報	チョークポイント情報	その他
○米国 ①USDA「Grain Exports Dashboard」によれば、6月のメキシコ湾から日本向け穀物の海上運賃は、前月70.81ドル/トンからわずかに上昇し71.19ドル/トン（2月54.19ドル/トン、前年同月46.88ドル/トン）。 太平洋岸北西部（PNW）から日本向けは、前月37.00ドル/トンからわずかに下落し36.75ドル/トン（2月30.50ドル/トン、前年同月27.00ドル/トン）。 ②USDA「Transportation Updates and Regulatory News」によれば、7月のクラス I 鉄道会社の穀物積載量加重平均燃料サーチャージは、前月から1車両マイル当たり0.02ドル上昇し、0.61ドルとなり、2008年9月を上回り過去最高を記録。燃料サーチャージは、米国とイランの対立以降、ディーゼル価格が高騰していることを反映し、3月以降1車両マイル当たり0.43ドル上昇。 先月からCSXトランスポーテーションは、一般運賃表に基づく輸送に対して燃料サーチャージを再開、これは2021年12月以来初めて。 なお、大部分のクラス I 鉄道会社は、燃料サーチャージの算定基準として2か月前の米国平均ディーゼル価格を採用しているため、来月、燃料サーチャージが大幅に低下すると見込まれる。 ○カナダ Quorum Corporation「Grain Monitoring Program Report for: June 2026」によれば、6月のカナダ西部の鉄道による穀物輸送量は、5月の587万トンと比べ8.3%減の538万トン。年度初め（2025年8月）からの輸送量は、前年同期と比べ8.0%増の5,985万トン。 6月の港湾出荷量は、5月の461万トンと比べ17.8%減の378万トン。年度初めからの出荷量は、前年同期と比べ6.7%増の4,335万トン。 6月の船舶の港での待機日数は、5月の7.5日から6.9日に減少。年度初めからの平均待機日数は、前年同期と比べ24.5%減の8.3日。6月の港別の待機日数は、バンクーバー港が5月12.2日から10.9日、サンダーベイ港が同2.4日から2.1日にそれぞれ減少した一方、プリンス・ルパート港が同5.0日から9.2日に増加。	○パナマ運河 ①6月のパナマ運河通航数は、975隻で1日平均32.50隻と前月37.06隻から減少。これは計画されていた保守工事の影響とみられる。なお、パナマックス閘門において、7～9月にも複数の保守工事が予定されている。 ②パナマ運河のガトゥン湖の水位は、7月16日現在、84.7フィートで同月過去5年平均（84.7フィート）と同水準。 ③USDA「Transportation Updates and Regulatory News」によれば、パナマ運河では、ネオパナマックス閘門を通航する船舶の最大許容喫水について、現在の49.5フィートを7月24日から49フィートに、8月15日から48.5フィートに引き下げ。なお、大部分の穀物輸送船舶が通航するパナマックス閘門については、喫水制限の予定はない。 ○黒海及びアゾフ海 報道によれば、7月16日、ロシアとウクライナは黒海及びアゾフ海において船舶への攻撃を行った。穀物等の主要な輸出ルートである当該地域での攻撃激化により穀物等の輸出に懸念が生じている。	○肥料価格 農業市場情報システム（AMIS）「Market Monitor No. 139」によれば、6月末の週時点のAMIS肥料コスト指数（AMIS対象作物の1ヘクタール当たりの肥料費の週次推移を把握する指標。2019年の平均価格を100として計算。）は、コメを除き下落。 フランスの小麦の肥料コスト指数は、窒素肥料価格の下落を受け前月比15.0ポイント減となるものの、前年同月比37.1ポイント増の221.9。 米国のとうもろこしの同指標は、尿素価格の急落を受け前月比38.8ポイント減、前年同月比10.4ポイント減の169.8。 ブラジル大豆の同指標は、前月比7.1ポイント減となるものの、前年同月比22.6ポイント増。 中国のコメの同指標は、リン酸塩市場の堅調さと生産コストの上昇を受け前月比7.1ポイント増、前年同月比11.5ポイント増の130.6。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2026/27年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2026/27年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、25.9%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

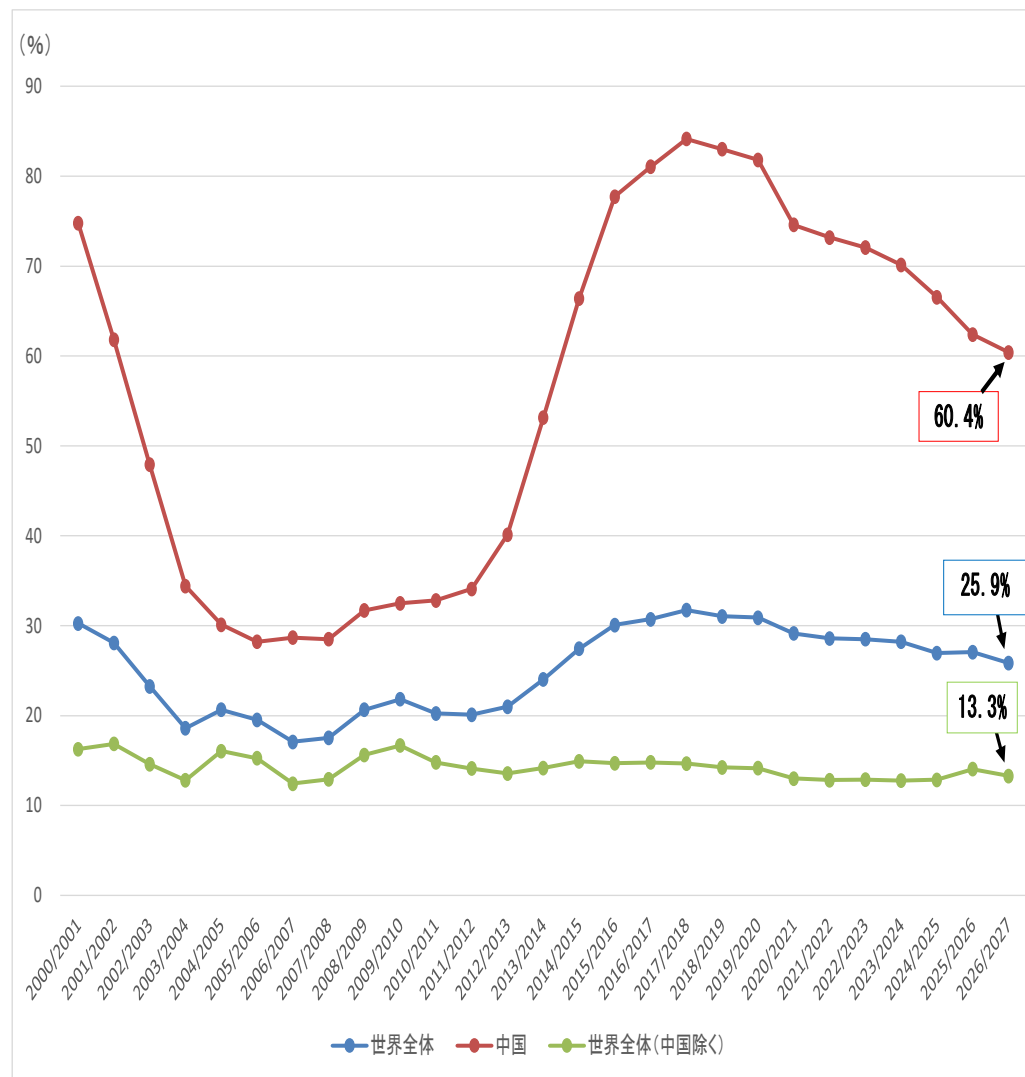


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 2026)、「PS&D」

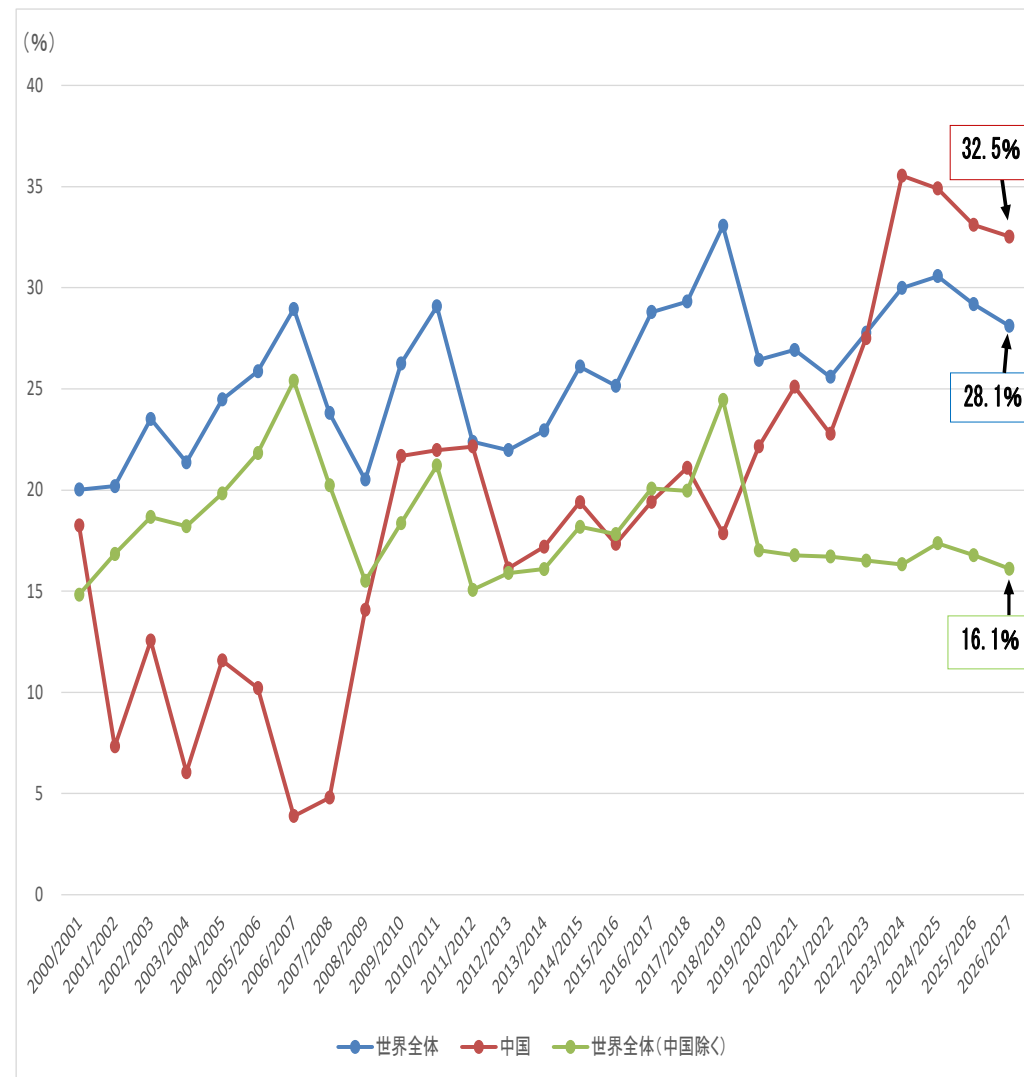
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(July 10, 2026)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

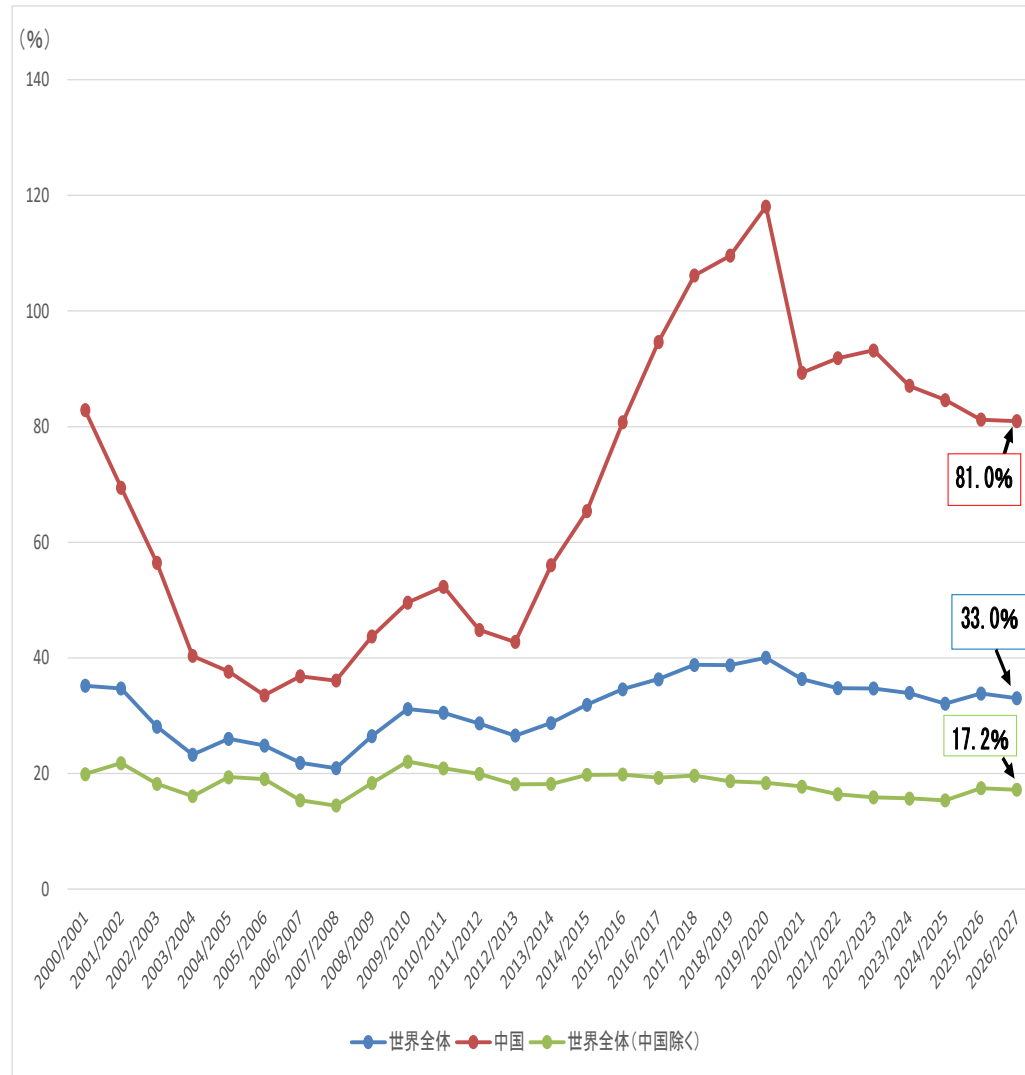
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

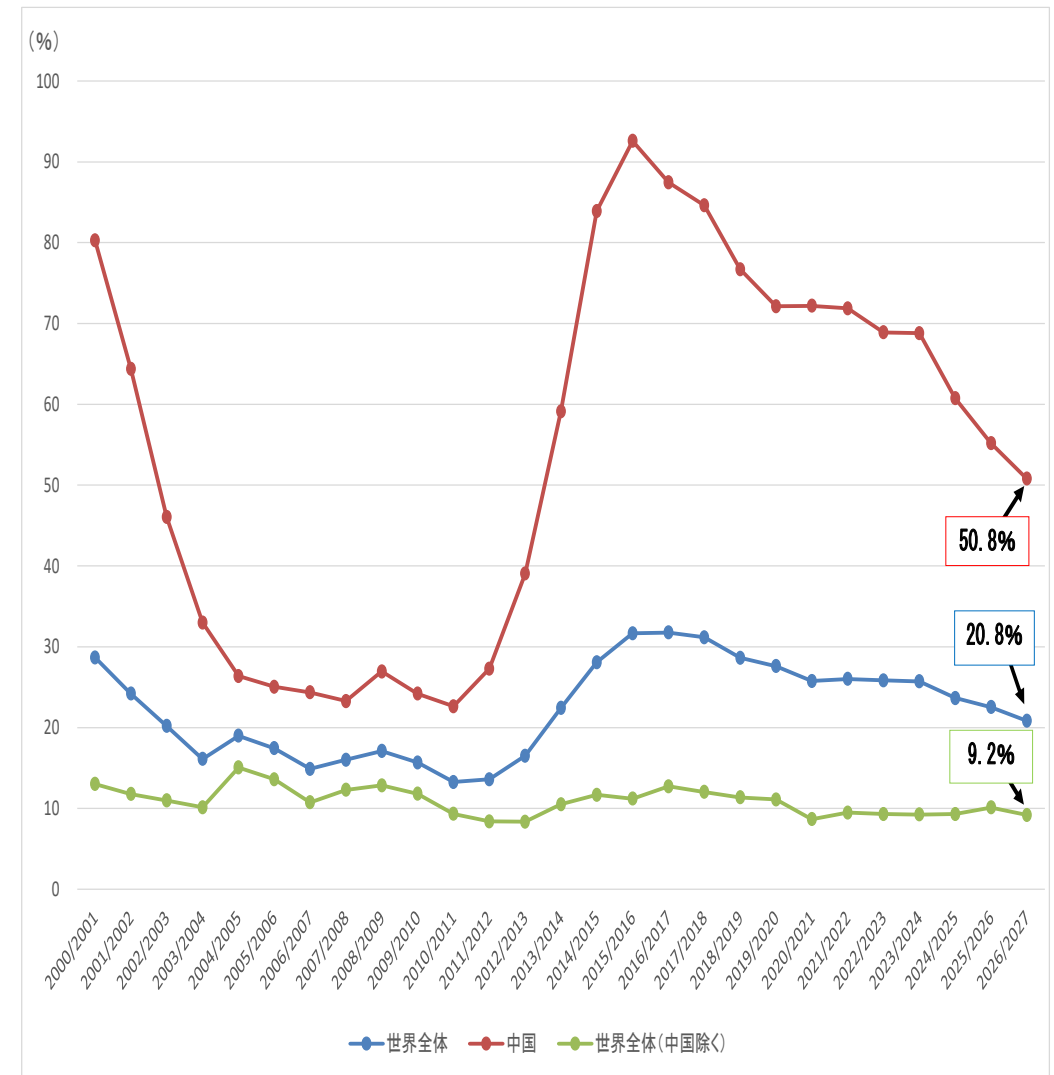
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料：米国農務省「P S & D」(July 10, 2026)

注：1) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

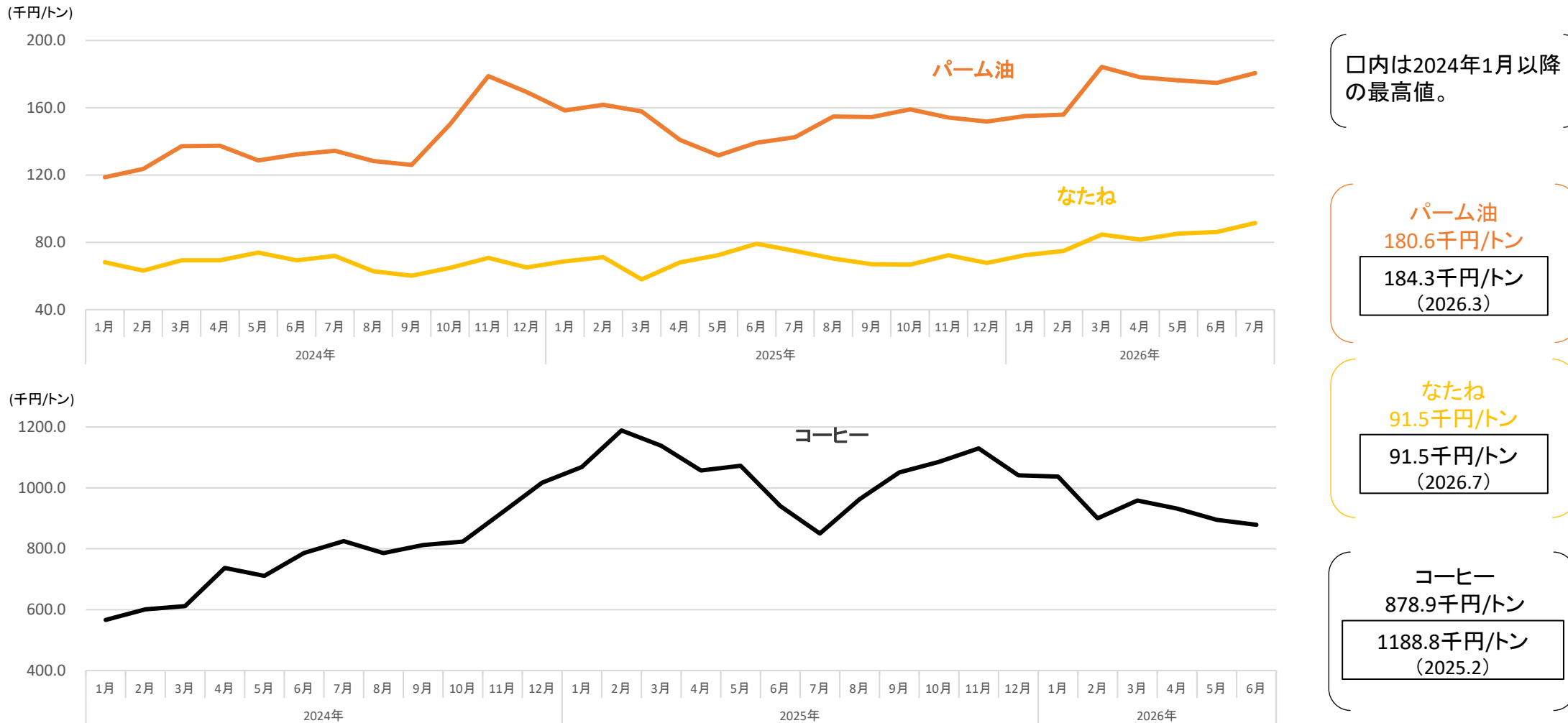
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 4－1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

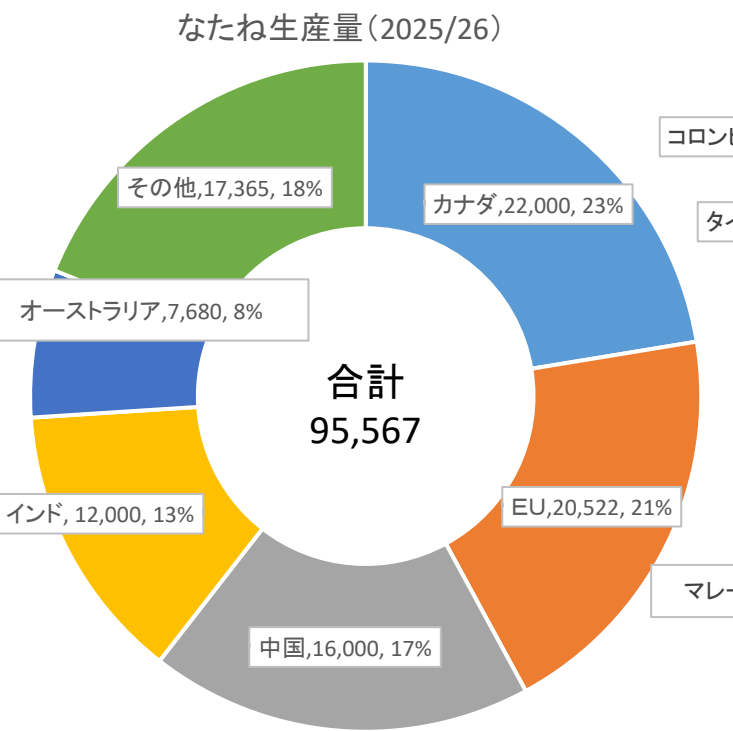
- パーム油の直近の動きとして、中東情勢の影響による原油価格相場の高騰等から上昇している。7月の月央値は180.6千円/トンとなり、前月の月央値を上回り、依然として高い水準で推移している。
- なたねの直近の動きとして、中東情勢の影響による原油価格相場の高騰、ウクライナ情勢による影響等から上昇している。7月の月央値は91.5千円/トンとなり、2024年1月以降の最高値だった2026年6月の86.2千円を5.3千円上回る高値になった。
- コーヒーについては、2025年11月以降、供給見通しの改善を背景に下落傾向で推移している。2026年6月には、中東情勢の再燃やスーパーエルニーニョ発生への懸念、ブラジル産地の天候不順等により下旬頃から上昇に転じたが、月間平均では前月の平均を下回った。



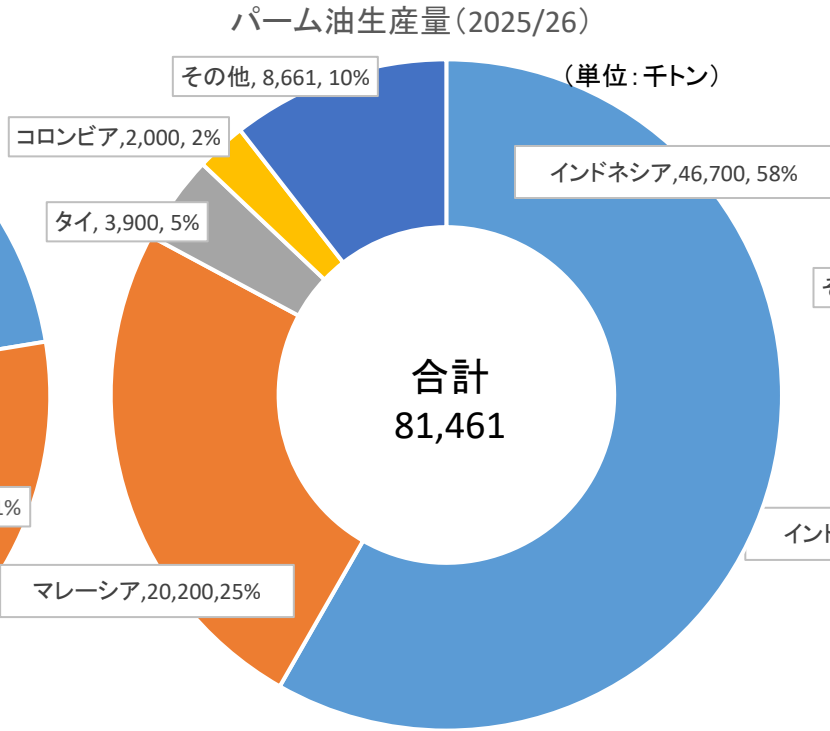
※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグなたね市場の先物価格(期近物)の月央値を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格(期近物)の月央値を使用し、為替レートから円に換算して算出。コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関(ICO)の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

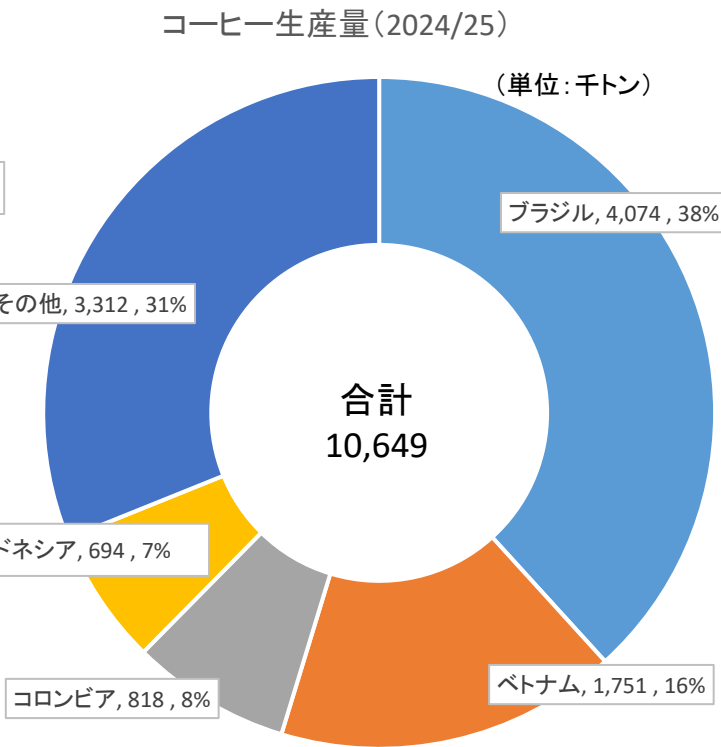
○主要生産国の生産状況（単位：千トン）



※米国農務省 (PS&D)
2026年7月時点



※米国農務省 (PS&D)
2026年7月時点



※国際コーヒー機関 (ICO) 統計資料
2025年7月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2025年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	1,722	80.1%
オーストラリア	429	19.9%
その他	0	0.0%
合計	2,151	100.0%

※財務省「貿易統計」(HSコード：1205)

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	568	87.6%
インドネシア	79	12.2%
その他	1	0.2%
合計	648	100.0%

※財務省「貿易統計」(HSコード：1511)

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	147	40.9%
ベトナム	90	25.1%
コロンビア	38	10.6%
その他	84	23.4%
合計	359	100.0%

※財務省「貿易統計」(HSコード：0901.11～0901.12)

資料 4－3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね 単位(千円/トン)

	2024年												2025年												2026年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9	69.4	71.9	62.8	60.2	64.8	70.8	65.1	68.7	71.2	58.0	68.2	72.4	79.2	74.9	70.4	67.0	66.7	72.3	67.8	72.4	74.9	84.7	81.7	85.2	86.2	91.5					
前月比	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6	93.8	103.7	87.3	126.1	107.7	109.3	91.9	105.7	103.7	81.4	117.6	106.3	109.4	94.6	93.9	95.2	99.6	108.4	93.7	106.8	103.5	113.0	96.4	104.4	101.1	106.2					
前年同月比	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1	91.4	83.5	73.5	812.1	81.5	89.0	94.9	100.7	112.9	83.5	98.3	98.0	114.2	104.2	112.1	111.4	103.0	102.1	104.3	105.4	105.2	146.1	119.8	117.6	108.7	122.1					

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値(期近物)から算出

②パーム油 単位(千円/トン)

	2024年												2025年												2026年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7	132.2	134.4	128.3	126.1	150.1	178.8	169.4	158.4	161.8	157.8	140.9	131.7	139.2	142.5	154.8	154.5	159.0	154.2	151.8	155.1	155.9	184.3	178.1	176.3	174.8	180.6					
前月比	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7	102.7	101.7	95.4	98.2	119.1	119.1	94.7	93.5	102.2	97.6	89.2	93.5	105.7	102.3	108.7	99.8	102.9	97.0	98.4	102.1	100.5	118.2	96.7	98.9	99.2	103.3					
前年同月比	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2	124.1	114.0	107.1	109.5	127.3	141.8	151.8	133.4	130.8	115.0	102.5	102.3	105.3	106.0	120.7	122.6	106.0	86.2	89.6	97.9	96.4	116.7	126.5	133.8	125.6	126.8					

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値(期近物)から算出

③コーヒー

単位(千円/トン)

	2024年												2025年												2026年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コー ヒー	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5	812.1	823.4	920.3	1017.3	1068.8	1188.8	1138.7	1057.4	1072.9	940.6	850.2	963.0	1050.9	1085.8	1129.9	1041.6	1037.4	900.1	958.9	932.2	895.4	878.9						
前月 比	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2	103.4	101.4	111.8	110.5	105.1	111.2	95.8	92.9	101.5	87.7	90.4	113.3	109.1	103.3	104.1	92.2	99.6	86.8	106.5	97.2	96.1	98.2						
前年 同月 比	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7	163.3	164.6	170.9	184.9	188.8	197.8	186.2	143.5	150.9	119.6	103.1	122.6	129.4	131.9	122.8	102.4	97.1	75.7	84.2	88.2	83.5	93.4						

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関(ICO)の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和8年6月の国内の主な加工食品の消費者物価指数は123.6～162.4(前年同月比は-1.5%～11.2%)の範囲内。

消費者物価指数(総務省)

	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	直近6か月						
品目	年平均	年平均	年平均	R8 1月	2月	3月	4月	5月	6月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	118.7	122.0	126.8	126.8	126.4	126.8	125.7	125.4	125.8	-1.5%
即席めん	119.7	122.4	119.4	120.3	116.7	117.6	122.5	123.6	123.6	3.6%
豆腐	114.6	118.2	121.4	122.8	123.2	123.5	123.5	123.5	124.6	2.3%
食用油 (キャノーラ油)	160.2	148.6	149.2	154.0	157.0	153.8	155.6	156.6	159.2	6.3%
みそ	108.1	113.6	119.5	129.3	128.8	130.2	130.4	129.3	129.4	9.9%
マヨネーズ	149.5	153.1	155.8	163.3	163.1	162.2	161.9	162.8	162.4	7.0%
チーズ	131.1	133.0	139.1	140.3	143.4	142.4	146.5	136.9	143.3	4.7%
バター	108.6	119.7	130.4	139.1	137.6	138.6	139.1	140.3	140.7	11.2%
生鮮食品を 除く食料	112.6	116.9	125.2	128.4	128.5	128.9	128.7	129.0	129.3	3.1%

資料:総務省「消費者物価指数」
注:令和2年の平均値を100とした指数で表記。

【参考】

食品価格動向調査(農林水産省)

	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	直近7か月								
品目	年平均	年平均	年平均	R8 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	114.5	117.9	124.3	124.5	124.5	124.2	123.8	125.1	123.2	127.9	3.8%	2.1%
即席めん	117.5	118.8	117.0	117.9	117.3	117.9	122.2	123.4	123.4	124.6	1.0%	5.1%
豆腐	113.0	116.4	119.3	120.7	120.2	119.3	121.1	120.7	121.5	127.2	4.7%	7.3%
食用油 (キャノーラ油)	159.4	145.8	142.0	144.1	145.4	146.7	146.4	144.5	147.0	152.4	3.7%	7.9%
みそ	105.9	109.5	114.9	126.5	126.9	128.6	128.1	127.7	128.6	128.8	0.2%	13.4%
マヨネーズ	139.8	141.2	142.5	150.3	151.3	149.6	150.9	152.0	150.9	152.0	0.7%	8.9%
チーズ	126.5	127.0	133.8	133.7	139.7	140.2	140.7	131.7	137.2	139.2	1.5%	3.7%
バター	108.0	119.3	131.4	138.9	137.4	138.9	139.4	139.8	139.6	139.2	-0.3%	2.2%

資料:農林水産省「食品価格動向調査」
注1:令和2年の平均値を100とした指数で表記。
注2:調査は原則、各都道府県10店舗で実施。

資料6 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を『月報 畜産の情報』（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000168.html）で公表

○2026年8月号（7月24日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

◆牛肉

（米国）26年5月の牛肉生産量は前年同月比8.1%減、26年予測も下方修正

（カナダ）26年4月の牛肉輸出量は大幅増、米国や中国向けがけん引

（豪州）降雨と輸出需要で牛価格上昇、中国セーフガード発動で先行き不透明

（アルゼンチン）26年1～4月の牛肉生産量は減少ながら、輸出量は増加

◆豚肉

（米国）26年4月の豚肉輸出量、日本など主要輸出国の強い引き合いにより5.6%増

（EU）26年1～3月の豚肉生産量は前年比2.4%増

（中国）豚の適正飼養頭数への削減進まず、4月の繁殖雌豚頭数は公表なし

◆牛乳・乳製品

（EU）生乳取引価格は前月割れも、生乳出荷量は増加基調が継続

（豪州）生乳生産量は6カ月連続で前年同月比増、輸出量は主要3品目で減少

（NZ）25/26年度の生乳生産量は過去最高を記録

◆飼料穀物

（世界・トウモロコシ）26/27年度の期末在庫はかなりの程度減少

（世界・大豆）大豆の生産量は下方修正となるも、期末在庫は上方修正

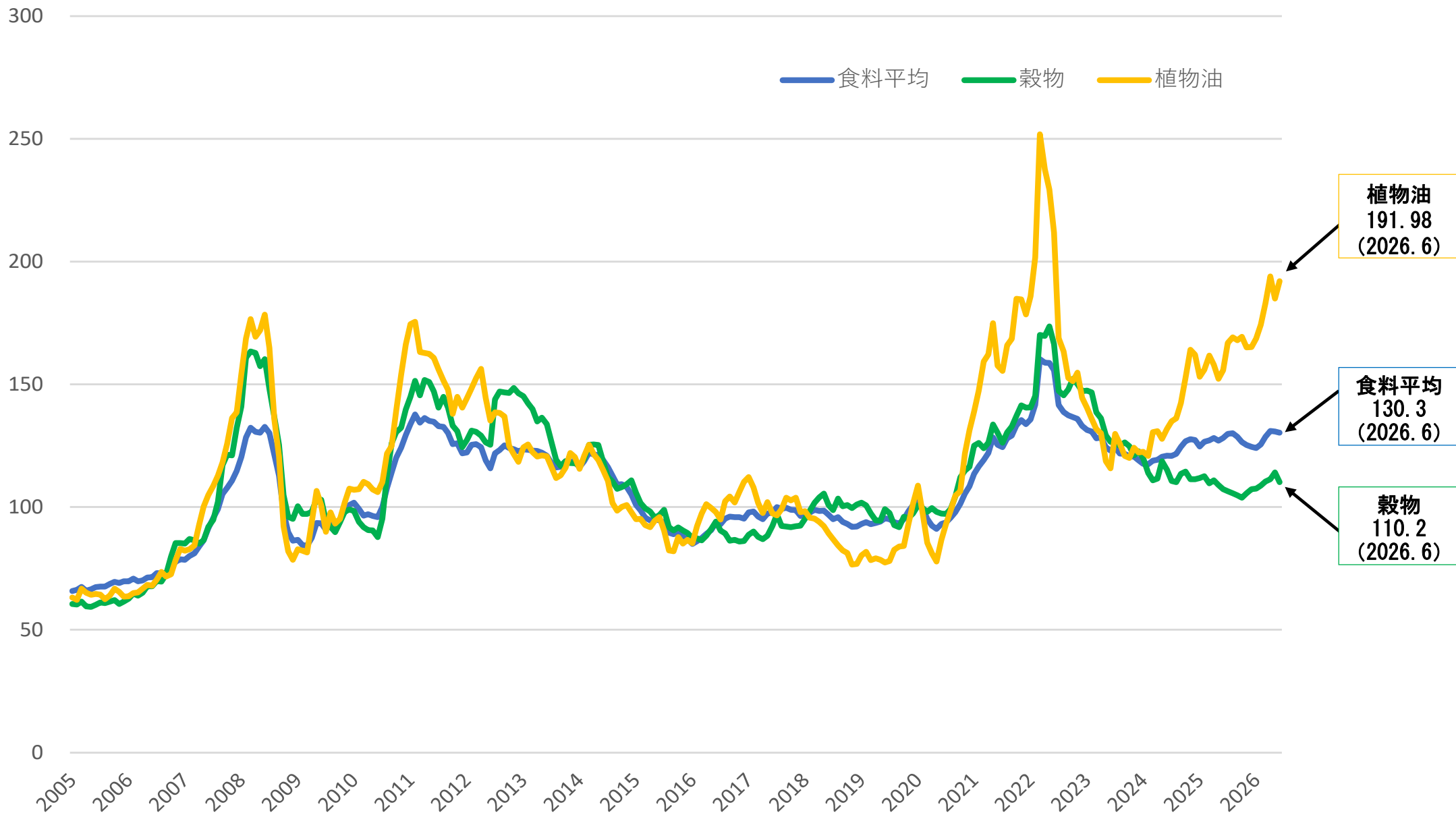
（米国）米国は生産量の減少などから期末在庫はかなりの程度減少

（ブラジル）25/26年度の大豆生産量は過去最大の見込み

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-2016平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2026.6)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

【今月のコラム】

南米・チリの食事情②: チリにおける肉を巡る食料安全保障

チリでは、前回ご紹介したようにアサードを中心とした肉食文化が広く根付いており、肉は日常生活に欠かせない存在となっています。週末や祝日には家族や友人同士で肉を囲む光景が各地で見られ、肉は単なる食材を超えて、社会的なつながりを形成する重要な役割も担っています。このような背景から、チリは南米の中でも特に肉の消費が多い国の一つといえます。

このように肉の需要が大きいチリですが、その供給構造を見てみると特徴的な点が浮かび上がります。特に牛肉については、国内でも生産は行われているものの需要を十分に満たすには至っておらず、多くを海外からの輸入に依存しています。実際に貿易統計をみると、食品分野の輸入品目の中で牛肉は金額ベースで最も大きな割合を占めており、チリが「肉を多く消費する国」であると同時に、「牛肉を海外から調達する国」であることが明確に表れています(図1)。

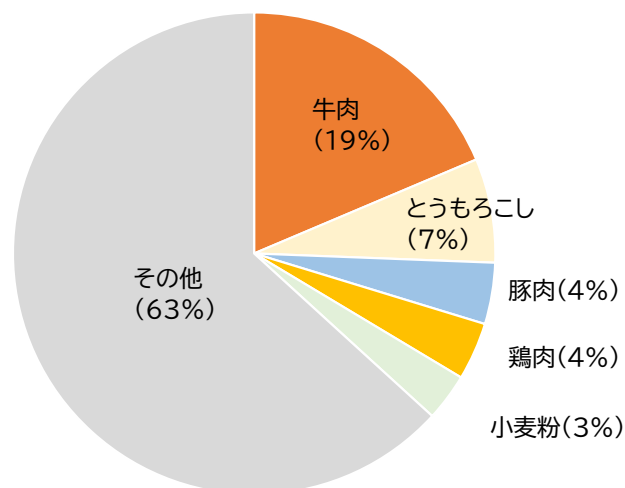


図1: 食品分野主要輸入5品目(金額ベース・2025年・輸入総額92億米ドル)[出典:チリ農業省統計]

その主な供給先は、アルゼンチンやブラジルといった近隣の牛肉大国です。これらの国は世界有数の畜産国であり、地理的な近さや物流面での利点も相まって、チリにとって安定的な供給源となっています。一方で、このように特定の国や地域に供給を依存する構造は、国際価格の変動や為替、あるいは気候条件や政策変更といった外的要因の影響を受けやすいという側面も有しています。

さらに、肉の需給を考える上では、飼料の問題も見逃せません。チリでは養鶏や養豚も盛んですが、その生産を支える飼料用のトウモロコシや大豆についても、相当量を海外からの輸入に依存しています。つまり、仮に国内で肉の生産が行われている場合であっても、その背景には国際市場に依存した供給構造が存在しているといえます。この点は、食料安全保障の観点からも重要

【今月のコラム】

なポイントです。

このように見ていくと、チリの食料安全保障は単純な自給率の議論だけでは捉えきれず、特に肉という主要なタンパク源に着目することで、その構造的な特徴がより明確になります。すなわち、チリは農林水産物の輸出国として国際市場で一定の役割を果たしつつも、自国民の食生活を支える上では重要な部分を外部に依存しているという、いわば二面性を持った構造となっています。

前回ご紹介したアサードのような食文化は、人々が日常的に肉を消費する背景にあります。その結果、肉の需要が常に高い水準で維持され、安定的に供給を確保する必要性が生じています。こうした状況を踏まえると、チリにおける食料安全保障は単に生産量の問題ではなく、肉という主要な食材をいかに安定的に確保するかという点に大きく左右されていることが分かります。すなわち、アサードに象徴される食文化そのものが、輸入依存という需給構造を生み出す一因となっているといえます。



写真1：スーパーで売られている肉の様子

今回は、このようなチリの肉文化を踏まえつつ、アサード文化の国において、日本食・日本食文化の可能性にスポットを当てたいと思います。

※原稿に含まれる見解は個人の見解であり、所属組織の見解を示すものではありません。

文責：吉川 隆史（在チリ日本国大使館 一等書記官）

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

I 穀物

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2026/27 年度

生産量

前年度比



前月比



・ロシア、ウクライナ等で上方修正されたものの、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。

消費量

前年度比



前月比



・モザンビーク等で下方修正されたものの、インド、イエメン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量

前年度比



前月比



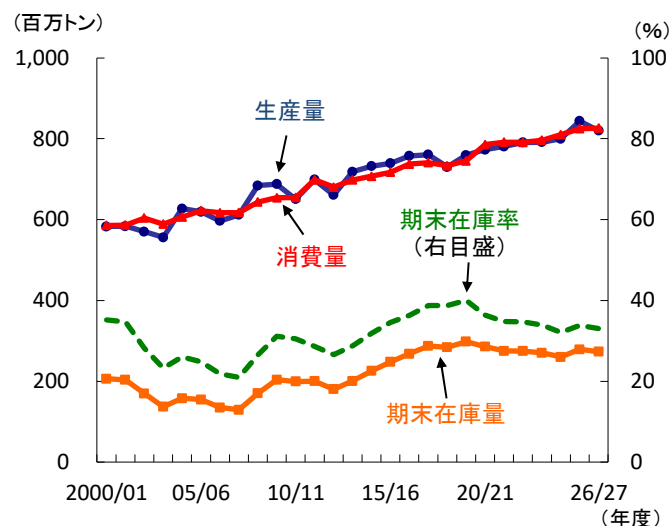
・カナダで下方修正されたものの、ロシア、アルゼンチン、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量

前年度比



前月比



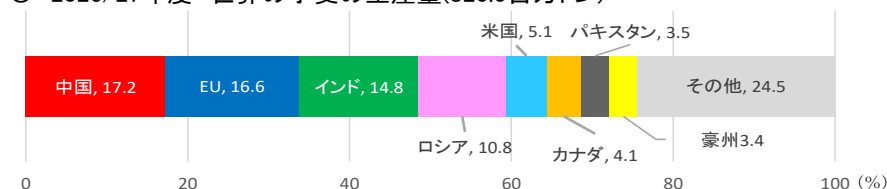
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

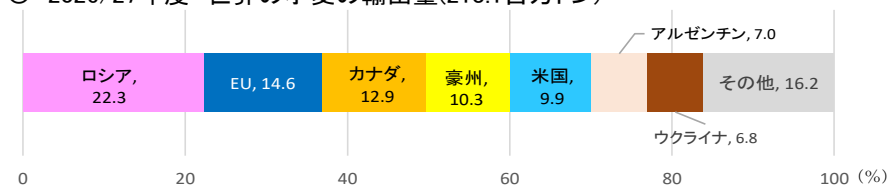
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	799.7	843.8	820.0	▲ 0.1	▲ 2.8
消費量	809.9	824.6	826.2	1.6	0.2
うち飼料用	157.3	169.3	162.3	0.1	▲ 4.2
輸出量	210.5	227.1	213.1	1.1	▲ 6.2
輸入量	200.9	222.0	208.2	0.9	▲ 6.2
期末在庫量	259.9	279.0	272.8	▲ 2.6	▲ 2.2
期末在庫率	32.1%	33.8%	33.0%	▲ 0.4	▲ 0.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 July 2026)

○ 2026/27年度 世界の小麦の生産量(820.0百万トン)



○ 2026/27年度 世界の小麦の輸出量(213.1百万トン)



○ 2026/27年度 世界の小麦の輸入量(208.2百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2026/27 年度の作付面積は前年度から 5.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の生産量は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、収穫面積及び単収が大きく減少することから前年度から 22.6%減、過去5年平均(49.3 百万トン)から 15.2%減の 41.8 百万トンとなる見込み。同「Wheat Outlook」(2026.7.14)によれば、2026/27 年度の実産量は、1970/71 年度(36.8 百万トン)以来の低水準で、全ての品種で前年度から減少が見込まれている。特に Hard Red Winter は深刻な乾燥により 12.8 百万トンと 1957/58 年度(11.7 百万トン)以来の低水準、Hard Red Spring が 11.9 百万トン、Soft Red Winter が 7.8 百万トン、White 小麦が 7.4 百万トン、デュラム小麦が 1.9 百万トンとなる見込み。

同「Acreage」(2026.6.30)によれば、2026/27 年度の作付面積は、前年度から 5.7%減の 1,729.6 万ヘクタールとなる見込み。種類別には、冬小麦が同 4.9%減の 1,275.6 万ヘクタール、デュラム小麦が同 16.2%減の 74.1 万ヘクタール、その他春小麦が同 6.0%減の 380.0 万ヘクタール。2026/27 年度の収穫面積は、前年度から 13.9%減の 1,297.6 万ヘクタールとなる見込み。種類別には、冬小麦が同 16.8%減の 858.3 万ヘクタール、デュラム小麦が同 16.3%減の 72.0 万ヘクタール、その他春小麦が同 5.6%減の 367.3 万ヘクタール(表1)。

同「Crop Progress」(2026.7.13)によれば、7月 12 日現在、2026/27 年度の冬小麦の収穫進捗率は 67%と、前年同期 62%、過去5年平均 61%を上回るペースで進捗している。また、春小麦の作柄評価は、「良～優良」の割合が 58%と、前年同期 54%を上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 14.6%減、過去5年平均(21.8 百万トン)から 3.1%減の 21.1 百万トンとなる見込み。

同「Global Agricultural Trade System」によれば、2025/26 年度の輸出量は、前年同期(2,200.9 万トン)に比べ 9.8%増の 2,417.5 万トン。輸出先国別には、メキシコ 441.0 万トン(18.2%)、フィリピン 254.3 万トン(10.5%)、日本 210.1 万トン(8.7%)の順となっている(表2)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 0.6 百万トン下方修正され、前年度から 21.5%減の 19.7 百万トンとなる見込み。同「Wheat Outlook」(2026.7.14)によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、3年ぶりの低水準で全ての品種で前年度から減少が見込まれている。

小麦－米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年6月～27年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	53.9	54.0	41.8	▲ 0.2	▲ 22.6
消 費 量	31.1	30.9	29.9	-	▲ 3.3
うち飼料用	3.0	3.2	2.2	-	▲ 32.3
輸 出 量	22.6	24.7	21.1	-	▲ 14.6
輸 入 量	4.1	3.4	3.8	-	12.1
期末在庫量	23.3	25.0	19.7	▲ 0.6	▲ 21.5
期末在庫率	43.4%	45.0%	38.5%	▲ 1.2	▲ 6.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.63	15.07	12.98	▲ 0.32	▲ 13.9
単収(t/ha)	3.44	3.58	3.22	0.06	▲ 10.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、World Agricultural Production(10 July 2026)

表1 米国の小麦の作付面積及び収穫面積

	作付面積			収穫面積		
	2025/26年度 (万ha)	2026/27年度 (万ha)	対前年度 増減率 (%)	2025/26年度 (万ha)	2026/27年度 (万ha)	対前年度 増減率 (%)
冬小麦	1,341.7	1,275.6	-4.9	1,032.3	858.3	-16.8
デュラム小麦	88.4	74.1	-16.2	85.9	72.0	-16.3
その他春小麦	404.3	380.0	-6.0	388.9	367.3	-5.6
小麦計	1,834.4	1,729.6	-5.7	1,507.1	1,297.6	-13.9

資料:USDA「Acreage」(2026.6.30)をもとに農林水産省で作成

表2 米国の小麦の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年6月～2025年5月)			2025/26年度 (2025年6月～2026年5月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
メキシコ	403.7	18.3	メキシコ	441.0	18.2
フィリピン	244.9	11.1	フィリピン	254.3	10.5
韓国	239.7	10.9	日本	210.1	8.7
日本	215.1	9.8	韓国	187.5	7.8
台湾	101.4	4.6	ナイジェリア	165.2	6.8
タイ	93.6	4.3	インドネシア	109.4	4.5
その他	902.4	41.0	その他	1,049.9	43.4
計	2,200.9	100.0	計	2,417.5	100.0

資料:USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2026/27 年度の作付面積は前年度から 5.6%減少する見込み(カナダ統計局)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2026.7.20)によれば、2026/27 年度の生産量は、単収の引上げを受け前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、収穫面積及び単収が減少することを受け史上最高の前年度から 11.8%減となるものの、過去5年平均(33.3 百万トン)から 5.8%増の 35.3 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦は、単収の引上げを受け前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、史上最高の前年度(32.8 百万トン)から 11.0%減となるものの、過去5年平均(28.0 百万トン)から 4.3%増の 29.2 百万トンとなる見込み。デュラム小麦も、単収の引上げを受け前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度(7.1 百万トン)から 15.3%減となるものの、過去5年平均(5.3 百万トン)から 13.6%増の 6.0 百万トンとなる見込み。

カナダ統計局(2026.6.30)によれば、2026/27 年度の作付面積は、前年度から 5.6%減、過去5年平均から 1.7%減の 1,032.2 万ヘクタールとなる見込み。種類別には、春小麦が前年度から 3.9%減の 731.2 万ヘクタール、デュラム小麦が同 10.3%減の 237.1 万ヘクタール、冬小麦が同 6.7%減の 63.9 万ヘクタール(図)。

USDA「World Agricultural Production」(2026.7.10)によれば、2026/27 年度の春小麦の作付けは、スタートが遅れたものの、5月末までにはほぼ完了した。また、カナダ干ばつモニターによれば、6月末現在、全農地のうち「異常乾燥(D0)」及び「干ばつ」の割合は 13%となっており、プレーリー地方の干ばつは改善している。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、前年度から 2.2%減の 28.4 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦は前月予測からの変更はなく、前年度から 0.9%減の 23.2 百万トン。デュラム小麦は世界的な供給増により北アフリカ等向け輸出で競合が見込まれることから前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、前年度から 8.0%減の 5.2 百万トン。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月～2026 年5月の輸出量は、前年同期(2,453.0 万トン)に比べ 1.9%減の 2,407.5 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期(1,953.7 万トン)に比べ 1.7%減の 1,920.9 万トンで、輸出先国別には、中国 221.4 万トン(11.5%)、インドネシア 202.5 万トン(10.5%)、日本 174.5 万トン(9.1%)の順。デュラム小麦は前年同期(499.3 万トン)に比べ 2.6%減の 486.6 万トンで、輸出先国別には、アルジェリア 134.3 万トン(27.6%)、イタリア 96.5 万トン(19.8%)、モロッコ 86.2 万トン(17.7%)の順(表)。

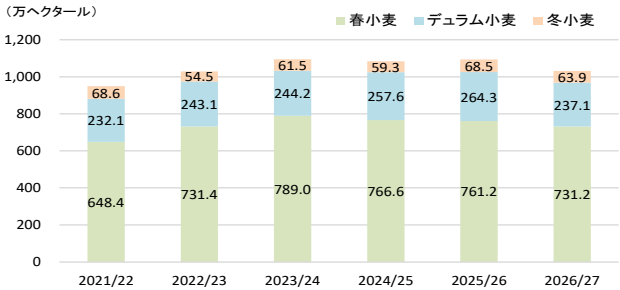
AAFC によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、消費量の引上げ等を受け前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度から 15.4%減の 5.5 百万トンとなる見込み。

小麦－カナダ(春小麦を主に栽培)

年 度	(単位:百万トン)									
	2024/25		2025/26		2026/27(26年8月～27年7月)					
	(見込み)		(見込み)		予測値		前月予測からの変更		対前年度増減率(%)	
生産量	35.9	40.0	(40.0)		34.0	(35.3)	▲1.0	(0.7)	▲14.9	(▲11.8)
消費量	8.3	8.9	(8.7)		8.9	(8.0)	-	(0.6)	-	(▲8.1)
うち飼料用	3.0	3.5	(4.2)		3.5	(3.6)	-	(0.6)	-	(▲14.5)
輸出量	29.4	30.0	(29.0)		27.5	(28.4)	▲0.5	(▲0.2)	▲8.3	(▲2.2)
輸入量	0.6	0.6	(0.2)		0.7	(0.1)	0.1	(-)	3.2	(▲33.5)
期末在庫量	4.2	5.9	(6.5)		4.2	(5.5)	▲0.4	(▲0.1)	▲28.8	(▲15.4)
期末在庫率	11.1%	15.2%	(17.2%)		11.6%	(15.1%)	▲1.0	(▲0.5)	▲3.6	(▲2.1)
(参考)										
収穫面積(百万ha)	10.65	10.62	(10.62)		10.00	(10.12)	▲0.30	(▲0.38)	▲5.8	(▲4.7)
単収(t/ha)	3.37	3.76	(3.76)		3.40	(3.49)	-	(0.19)	▲9.6	(▲7.2)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、World Agricultural Production(10 July 2026)
AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(20 July 2026) ※()書き。

図 カナダの小麦の作付面積の推移



資料:カナダ統計局(2026.6.30)のデータをもとに農林水産省で作成

表 カナダの小麦の輸出先国と輸出量

	2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年5月)			2025/26年度 (2025年8月～2026年5月)		
	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
	普通小麦			普通小麦			普通小麦		
普通小麦	インドネシア	247.0	10.3	インドネシア	209.7	10.7	中国	221.4	11.5
	中国	210.7	8.8	中国	161.1	8.2	インドネシア	202.5	10.5
	日本	191.2	8.0	日本	158.9	8.1	日本	174.5	9.1
	ベルギー	164.2	6.9	ベルギー	136.5	7.0	パナマ	134.4	7.0
	コロンビア	143.1	6.0	コロンビア	121.2	6.2	コロンビア	112.9	5.9
	その他	1,434.8	60.0	その他	1,166.3	59.7	その他	1,075.3	56.0
	小計	2,390.8	100.0	小計	1,953.7	100.0	小計	1,920.9	100.0
デュラム小麦	アルジェリア	156.8	27.2	アルジェリア	141.5	28.3	アルジェリア	134.3	27.6
	モロッコ	124.2	21.5	モロッコ	94.4	18.9	イタリア	96.5	19.8
	イタリア	83.8	14.5	イタリア	78.6	15.7	モロッコ	86.2	17.7
	米国	51.0	8.8	米国	45.4	9.1	米国	31.7	6.5
	日本	22.7	3.9	日本	19.2	3.8	日本	19.6	4.0
	その他	138.4	24.0	その他	120.1	24.1	その他	118.4	24.3
	小計	576.8	100.0	小計	499.3	100.0	小計	486.6	100.0
小麦計		2,967.7		小麦計	2,453.0		小麦計	2,407.5	

資料:CGC のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2026/27 年度の輸出量は前年度から 30.8%減少する見込み(ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2026.6.2)によれば、2026/27 年度の生産量は、史上3番目の前年度から 25.7%減、過去5年平均(34.6 百万トン)から 22.6%減の 26.7 百万トンとなる見込み(図)。州別には、ウェスタンオーストラリア州(WA)は前年度から 29.3%減の 9.5 百万トン。ニューサウスウェールズ州(NSW)は同 37.5%減の 7.0 百万トン。サウスオーストラリア州(SA)は同 1.6%減の 4.7 百万トン。ビクトリア州(VIC)は同 0.8%減の 4.2 百万トン。クイーンズランド州(QLD)は同 42.9%減の 1.3 百万トン(今月の注目情報の図4参照)。

2026/27 年度の小麦の作付面積は、小麦と他作物の収益性格差の拡大と豪州北部の乾燥した気象条件により、前年度から 12%減の 10.9 百万ヘクタールとなり 2019/20 年度以来の低水準となる見込み。

USDA「World Agricultural Production」(2026.6.11)によれば、2026/27 年度の実産量は、前年度から 22.2%減、過去5年平均(34.6 百万トン)から 19.0%減の 28.0 百万トンとなる見込み。NSW 州及び QLD 州南部では、5月中旬から下旬にかけて降雨があったものの、土壌水分を改善するには不十分であり、広範囲の乾燥により作付けが遅れ、作付面積が減少した。両州では、さらなる降雨が必要となっている。

西豪州穀物産業協会(GIWA)「Crop Report」(2026.7.17)によれば、WA 州の小麦を含む冬作物の生育は、作付け開始が早かったことや、温暖な冬の気象条件により、平年に比べ1ヶ月ほど進んでおり、非常に良好となっている。一方、春の乾燥と高温が予測されており生育が急速に悪化する可能性がある。2026/27 年度の小麦の作付面積は、前月予測からわずかに下方修正され、365 万ヘクタールとなる見込み。2026/27 年度の小麦の実産量は、955 万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2026/27 年度の輸出量は、生産量の減少を受け前年度から 30.8%減、過去5年平均(26.1 百万トン)から 26.1%減の 19.3 百万トンとなる見込み(図)。

USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 12.0%減、過去5年平均(25.6 百万トン)から 13.9%減の 22.0 百万トンとなる見込み。

ABARES「Trade dashboard」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年5月の輸出量は、前年同期(1,515.7 万トン)に比べ 1.7%増の 1,541.3 万トン。輸出先国別には、インドネシア 315.7 万トン(20.5%)、フィリピン 298.9 万トン(19.4%)、イエメン 130.4 万トン(8.5%)の順(表)。ABARES によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、生産量の減少等を受け前年度から 36.2%減の 2.5 百万トンとなる見込み。

小麦一豪州(冬小麦を主に栽培)

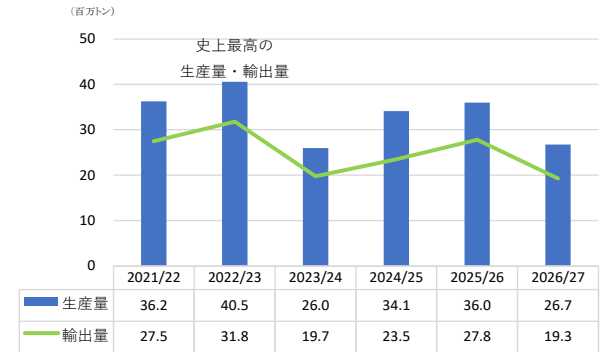
(単位:百万トン)

年 度	2024/25		2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)			
				予測値	前月(前回)予測 からの変更	対前年度増減率(%)	
生 産 量	34.1	36.0	(36.0)	28.0	(26.7)	-	(-)
消 費 量	9.1	9.6	(8.8)	8.7	(8.9)	-	(-)
うち飼料用	5.6	6.0	...	5.0	...	-	...
輸 出 量	23.7	25.0	(27.8)	22.0	(19.3)	-	(-)
輸 入 量	0.2	0.2	...	0.2	...	-	...
期末在庫量	4.0	5.6	(3.9)	3.2	(2.5)	-	(-)
期末在庫率	12.2%	16.2%	(10.5%)	10.4%	(8.7%)	-	(-)
(参考)							
収穫面積(百万ha)	13.06	12.41	(12.41)	11.00	(10.93)	-	(-)
単収(t/ha)	2.61	2.90	(2.90)	2.55	(2.45)	-	(-)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(10 July 2026)

ABARES「Australian Crop Report」(2 June 2026) ※()書き。

図 豪州の小麦の実産量・輸出量の推移



資料:ABARES「Australian Crop Report」(2026.6.2)をもとに農林水産省で作成

表 豪州の小麦の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年5月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年5月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
インドネシア	449.6	19.0	インドネシア	256.4	16.9	インドネシア	315.7	20.5
フィリピン	352.7	14.9	フィリピン	206.4	13.6	フィリピン	298.9	19.4
タイ	170.9	7.2	タイ	139.6	9.2	イエメン	130.4	8.5
ベトナム	157.4	6.7	ベトナム	103.2	6.8	中国	91.9	6.0
韓国	146.5	6.2	韓国	98.2	6.5	ベトナム	85.2	5.5
イエメン	137.6	5.8	イエメン	95.5	6.3	韓国	79.6	5.2
その他	946.6	40.1	その他	616.4	40.7	その他	539.5	35.0
計	2,361.3	100.0	計	1,515.7	100.0	計	1,541.3	100.0

資料: ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 6.4%減少する見込み(EC)

【生育・生産状況】欧州委員会(EC)「EU Cereals Balance Sheets」(2026.6.25)によれば、2026/27 年度の実産量は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から 0.6 百万トン下方修正され、生育に好ましい気象条件により増産となった前年度から 6.4%減、過去5年平均(133.0 百万トン)から 0.9%増の 134.2 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦が前月予測からフランス、ポーランド等の引下げを受け 0.6 百万トン下方修正され、前年度から 6.7%減、過去5年平均(125.3 百万トン)から 0.8%増の 126.3 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は、前月予測からイタリア等の引上げを受けわずかに上方修正されたものの、前年度から 1.7%減、過去5年平均(7.7 百万トン)から 2.3%増の 7.9 百万トンとなる見込み(図)。USDA「World Agricultural Production」(2026.5.12)によれば、2026/27 年度の実産について、欧州の中央及び南東部では 2025 年秋の豪雨により作付けが遅延し作付面積が減少した。また、農家は小麦よりも利益率の高いひまわりや果樹へ作付けをシフトしている。

EC「JRC MARS Bulletin – Crop monitoring in Europe」(2026.6.22)によれば、欧州全域で 2026/27 年度の作物の生育状況は概ね良好で、冬作物は成熟期、夏作物も大部分の地域で順調に生育している。しかし、乾燥した春と5月の熱波により、欧州の西及び中央、東の一部地域では冬作物の収量見通しが低下し、夏作物も土壌水分の不足による生育への懸念が高まっている。

【貿易情報・その他】EC によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からわずかに下方修正され、前年度と同水準の 112.5 百万トンとなる見込み。2026/27 年度の輸入量は、前月予測から 0.7 百万トン上方修正されたものの、前年度から 0.5%減の 6.6 百万トンとなる見込み。同「Cereals exports and imports」(2026.7.16)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～2026 年5月の輸入量は、前年同期(963.6 万トン)に比べ 36.2%減の 614.8 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期に比べ 44.5%減の 426.9 万トン。デュラム小麦は同 3.3%減の 188.0 万トン(表)。ロシアのウクライナ侵攻以降、ウクライナからの輸入が大きく増加していたが、関税割当制度の再開等により同国からの輸入は大きく減少している。2026/27 年度の輸出量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度から 6.5%増の 31.0 百万トンとなる見込み。同「Cereals exports and imports」(2026.7.16)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～2026 年5月の輸出量は、前年同期(2,451.1 万トン)に比べ 13.2%増の 2,774.9 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期に比べ 13.1%増の 2,681.2 万トン。デュラム小麦が同 16.2%増の 93.8 万トン(表)。2026/27 年度の期末在庫量は、輸入量の引上げ等を受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正されたものの、前年度から 15.7%減の 14.6 百万トンとなる見込み。

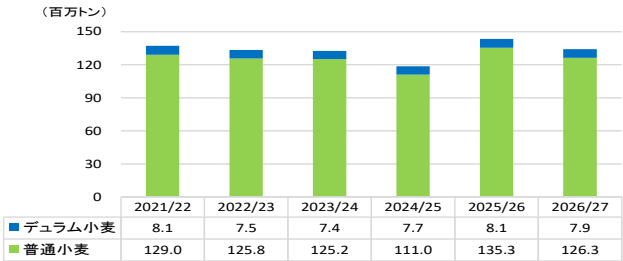
小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)			
			予測値	前月予測 からの変更		対前年度増減率(%)
生 産 量	121.1	145.1 (143.4)	136.0 (134.2)	-	(▲0.6)	▲6.3 (▲6.4)
消 費 量	108.5	115.5 (112.5)	113.8 (112.5)	-	(▲0.04)	▲1.5 (0.02)
うち飼料用	44.5	51.0 (47.1)	49.0 (47.1)	-	(-)	▲3.9 (-)
輸 出 量	27.9	31.5 (29.1)	31.0 (31.0)	-	(0.3)	▲1.6 (6.5)
輸 入 量	10.7	7.2 (6.6)	6.5 (6.6)	-	(0.7)	▲9.7 (▲0.5)
期末在庫量	11.3	16.6 (17.3)	14.3 (14.6)	▲0.3	(0.1)	▲13.6 (▲15.7)
期末在庫率	8.3%	11.3% (12.2%)	9.9% (10.2%)	▲0.2	(0.1)	▲1.4 (▲2.1)
(参考)						
収穫面積(百万ha)	22.71	23.96 (23.70)	23.60 (23.53)	-	(▲0.09)	▲1.5 (▲0.7)
単収(t/ha)	5.33	6.06 (6.05)	5.76 (5.70)	-	(▲0.001)	▲5.0 (▲5.7)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(10 July 2026)
EC「EU Cereals Balance Sheets」(25 June 2026) ※()書き。

図 EU の種類別小麦生産量の推移



資料:EC「EU cereals production (usable), area and yield」(2026.6.25)をもとに農林水産省で作成

表 EU の小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量						O輸入量						
2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年5月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年5月)			
	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
普通小麦	モロッコ	342.2	13.5	モロッコ	389.2	14.5	ウクライナ	450.4	56.0	カナダ	142.5	33.4
	アルジェリア	324.4	12.8	アルジェリア	263.7	9.8	カナダ	134.4	16.7	ウクライナ	98.0	23.0
	ナイジェリア	281.5	11.1	エジプト	221.0	8.2	モルドバ	63.1	7.8	セネガル	60.6	14.2
	その他	1,593.8	62.7	その他	1,807.3	67.4	その他	155.7	19.4	その他	125.8	29.5
	小計	2,541.8	100	小計	2,681.2	100	小計	803.6	100	小計	426.9	100
	チェルニジア	21.4	25.5	チェルニジア	20.4	21.7	カナダ	108.2	52.4	カナダ	101.5	54.0
デュラム小麦	アルジェリア	11.3	13.5	サウジアラビア	20.0	21.4	トルコ	34.3	16.6	カザフスタン	40.2	21.4
	エジプト	10.0	11.9	英国	7.7	8.2	カザフスタン	29.6	14.3	米国	22.2	11.8
	その他	41.2	49.0	その他	45.6	48.7	その他	34.4	16.7	その他	24.1	12.8
	小計	83.9	100	小計	93.8	100	小計	206.5	100	小計	188.0	100
	小麦計	2,625.8		小麦計	2,774.9		小麦計	1,010.1		小麦計	614.8	

資料:EC「Cereals exports and imports」(2026.7.16)をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2026/27 年度の生産量は前年度から 2.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量(クリミア地域分を含まず)は、単収の引上げを受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、収穫面積が減少することを受け前年度から 2.0%減となるものの、過去5年平均(86.1 百万トン)から 2.8%増の 88.5 百万トンと史上4番目の生産量となる見込み。種類別には、冬小麦は、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度(63.0 百万トン)から 4.8%増の 66.0 百万トン。春小麦は、前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、前年度(27.3 百万トン)から 17.6%減の 22.5 百万トンとなる見込み。

同「World Agricultural Production」(2026.7.10)によれば、2026/27 年度の冬小麦は、休眠明けから十分な降雨と適度な気温が維持され、主要な冬小麦生産地域で収穫見通しが向上した。一方、春小麦は、湿潤な春の気象条件により作付けが遅延し、6月 19 日現在、11.1 百万ヘクタールの作付計画に対して 9.7 百万ヘクタールの作付けにとどまっている。

ロシア農業省によれば、6月 23 日現在、2026/27 年度の春小麦の作付面積は、前年同期と比べ 146 万ヘクタール減の 977 万ヘクタールで、作付進捗率は 88%となっている。悪天候による作付期前半の作付遅延をある程度取り戻したものの、最終的な作付面積は作付予定面積(1,114 万ヘクタール)を下回るとみられる。

現地調査会社によれば、2026/27 年度の小麦全体の作付面積は、2,580 万ヘクタールと、春小麦の作付面積減少により 2014/15 年度の水準まで減少するとみられ、種類別には冬小麦 1,590 万ヘクタール、春小麦 990 万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、生産量の引上げを受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度から 1.0%減となるものの、過去5年平均(45.9 百万トン)から 3.5%増の 47.5 百万トンとなり、史上4番目の輸出量となる見込み。

ロシア連邦政府は、2025/26 年度後半(2026 年2月 15 日～6月 30 日)の穀物(小麦・メスリン、大麦及びとうもろこし)の輸出枠を 2,500 万トン(前年度は小麦・メスリンのみ 1,060 万トン)に設定したが、ロシア穀物同盟の速報値によれば、輸出されたのは約 1,900 万トンで消化率は 76%となった。

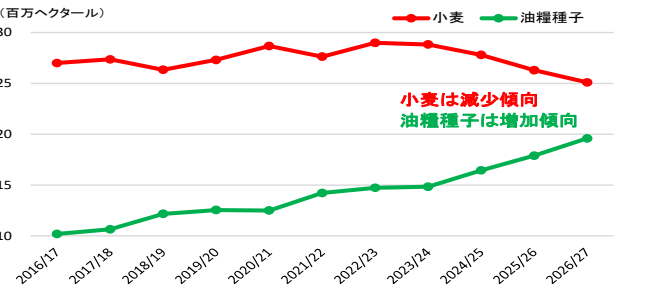
現地情報会社によれば、2025/26 年度の輸出量は、前年度(4,336.5 万トン)に比べ 5.3%増の 4,567.8 万トン。輸出先国別には、エジプト 890.3 万トン(19.5%)、トルコ 669.4 万トン(14.7%)、スーダン 229.4 万トン(5.0%)の順(表)。USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 0.8%増の 12.1 百万トンとなる見込み。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	81.6	90.3	88.5 (89.0)	0.5	▲ 2.0	
消 費 量	40.0	41.2	41.2 (42.0)	-	-	
うち飼料用	17.0	18.0	18.0 (18.2)	-	-	
輸 出 量	43.0	48.0	47.5 (47.7)	0.5	▲ 1.0	
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (1.0)	-	-	
期末在庫量	10.6	12.0	12.1 (12.5)	-	0.8	
期末在庫率	12.8%	13.4%	13.6% (13.9%)	▲ 0.1	0.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.80	26.30	25.10 (25.40)	▲ 0.70	▲ 4.6	
単収(t/ha)	2.94	3.43	3.53 (3.51)	0.12	2.9	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、(World Agricultural Production)(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026)

図 ロシアの小麦及び油糧種子の収穫面積の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.7.10)をもとに農林水産省で作成

表 ロシアの小麦の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年6月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
エジプト	922.3	21.3	エジプト	890.3	19.5
トルコ	337.7	7.8	トルコ	669.4	14.7
バングラデシュ	279.2	6.4	スーダン	229.4	5.0
サウジアラビア	184.5	4.3	ケニア	209.3	4.6
アルジェリア	182.4	4.2	イスラエル	207.8	4.5
その他	2,430.4	56.0	その他	2,361.6	51.7
合計	4,336.5	100.0	合計	4,567.8	100.0

資料:現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ ウクライナ ＞ 2026/27 年度の生産量は前年度から 0.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、単収の引上げを受け前月予測から0.5百万トン上方修正されたものの、収穫面積が減少することから前年度から0.4%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、27.9百万トン)から14.1%減の24.0百万トンとなる見込み(図)。

同「World Agricultural Production」(2026.6.11)によれば、小麦は、単収に重要な影響を与える生育期間が5月上旬から中旬であり、6月中旬から下旬にかけて成熟期を迎える。5月の降雨量が良好だったため、重要な生育期に十分な土壌水分が供給され、生育が促進されるとともに生産見通しが向上した。

現地情報会社によれば、2026/27年度の冬小麦の単収は、乾燥の影響があった前年度を上回るのは確実と予測されている。2026/27年度の春小麦の作付けは、ほぼ完了しているとみられ、作付面積は18.9万ヘクタール。7月13日現在、2026/27年度の小麦の収穫進捗率は5.5%で111.3万トンが収穫されている。ウクライナ経済・環境・農業省(2026.6.19)によれば、2026/27年度の小麦の収穫見通しは、2,200～2,300万トンとなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27年度の輸出量は、生産量の引上げを受け前月予測から0.5百万トン上方修正され、前年度から3.6%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均(18.1百万トン)から19.9%減の14.5百万トンとなる見込み(図)。

EUは、ウクライナ産品の輸入に関し、「深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)」に基づき、関税割当制度等の適用を再開した。小麦及びメスリン等に対する年間輸入割当数量は130万トン、小麦粉等は同3万トンで、農業団体の「ウクライナ・アグリビジネスクラブ」によれば、6月1日時点で輸入割当数量130万トンは全て消化されており、年末までのEUへの小麦及びメスリン等の輸出については関税が課されることとなる。

現地情報会社によれば、2025/26年度の輸出量は、前年度(1,562.2万トン)に比べ10.5%減の1,398.4万トン。輸出先国別には、エジプト385.5万トン(27.6%)、アルジェリア278.4万トン(19.9%)、インドネシア206.8万トン(14.8%)の順(表)。前年度からの減少は、輸出先第1位であったスペインへの輸出が大きく減少したことや、主要輸出先である北アフリカや中東におけるロシア産小麦等との競合が要因。7月中旬からロシアによるオデーサ港等への攻撃が激しくなっている。ロシア、ウクライナ双方が相手の重要な輸送ルートへの攻撃を強めており、輸出に対する懸念材料となっている。

USDAによれば、2026/27年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から18.8%増の2.5百万トンとなる見込み。

小麦－ウクライナ(主に冬小麦を栽培)

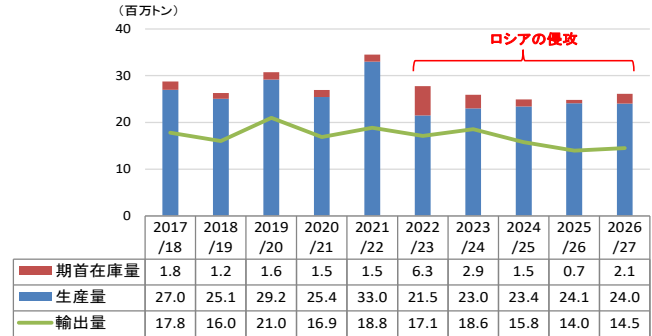
(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	23.4	24.1	24.0 (26.1)	0.5	▲ 0.4	
消 費 量	8.5	8.8	9.2 (10.4)	-	4.5	
うち飼料用	3.6	3.8	4.2 (3.0)	-	10.5	
輸 出 量	15.8	14.0	14.5 (16.0)	0.5	3.6	
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	
期末在庫量	0.7	2.1	2.5 (1.8)	-	18.8	
期末在庫率	3.0%	9.3%	10.7% (6.8%)	▲ 0.2	1.3	

(参考)
収穫面積(百万ha) 5.20 5.65 5.20 (6.20) - ▲ 8.0
単収(t/ha) 4.50 4.27 4.62 (4.21) 0.10 8.2

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.7.10)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナの小麦の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年6月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
スペイン	326.1	20.9	エジプト	385.5	27.6
エジプト	211.1	13.5	アルジェリア	278.4	19.9
アルジェリア	195.1	12.5	インドネシア	206.8	14.8
インドネシア	158.8	10.2	イエメン	104.8	7.5
ベトナム	104.7	6.7	スペイン	67.8	4.9
その他	566.5	36.3	その他	355.0	25.4
合計	1,562.2	100.0	合計	1,398.4	100.0

資料:APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2026/27年度の生産量は史上最高となる見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 0.7%増、過去5年平均(138.3 百万トン)から 2.0%増の 141.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家统计局(2026.7.10)によれば、2026/27 年度の夏季産小麦の作付面積は、前年度から 0.3%減(6.7 万ヘクタール減)の 23.01 百万ヘクタール。単収は、前年度から 0.9%増(0.05 トン/ヘクタール増)の 6.04 トン/ヘクタール。生産量は、前年度から 0.6%増(0.78 百万トン増)の 139.0 百万トン。

中国中央气象台「全国農業気象週報」(2026.7.13)によれば、7月5～11 日の期間、2026/27 年度春小麦について、主要生産地である新疆ウイグル自治区では最高気温が 41～44℃の日が継続し、一部地域では土壌水分も不足した。このため、登熟期にある春小麦の生育には不利な条件となった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度及び過去5年平均(149.9 百万トン)から 1.3%減の 148.0 百万トンとなる見込み。

2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 3.4%増となるものの、過去5年平均(9.3 百万トン)から 35.4%減の 6.0 百万トンとなる見込み。

同「Grain and Feed Update」(2026.7.3)によれば、中国は、主に特定の品質要件(高たんぱく質等)を満たすために小麦を輸入している。消費者の嗜好は高品質な製品へとシフトし続けていることから、高品質を求める需要は比較的安定して推移する見込み。一方、飼料用小麦の輸入については、中国国内の穀物供給が潤沢で、代替飼料原料もあることから、引き続き限定的となる可能性が高い。

2026 年5月 14 日の米中首脳会談後、ホワイトハウスは、5月 17 日付のファクトシートで中国が 2026 年から 2028 年の各年に少なくとも 170 億ドルの米国農産物を購入すると発表した。なお、具体的な品目は公表されていない。

中国商務部「米中経済貿易協議の暫定的な成果解説」(2026.5.21)によれば、米中双方が農産物の貿易拡大に向けて努力していく考えが示された。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～2026 年5月の輸入量は、前年同期(351.1 万トン)に比べ 34.9%増の 473.7 万トン。輸入先国別には、カナダ 269.6 万トン(56.9%)、豪州 118.6 万トン(25.0%)、アルゼンチン 35.0 万トン(7.4%)の順(表、図)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げを受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、前年度から 1.6%減の 120.7 百万トンとなる見込み。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの差	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	140.1	140.1	141.0 (140.5)	-	0.7	
消 費 量	150.0	150.0	148.0 (146.9)	-	▲ 1.3	
うち飼料用	33.0	33.0	31.0 (28.0)	-	▲ 6.1	
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	-	
輸 入 量	4.2	5.8	6.0 (6.3)	-	3.4	
期末在庫量	127.8	122.7	120.7 (134.3)	▲ 0.2	▲ 1.6	
期末在庫率	84.6%	81.2%	81.0% (90.7%)	▲ 0.1	▲ 0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.59	23.58	23.60 (23.59)	-	0.1	
単収(t/ha)	5.94	5.94	5.97 (5.96)	-	0.5	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10月2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、World Agricultural Production」(10 July 2026)

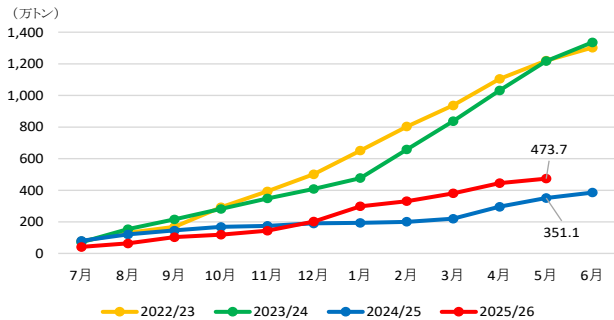
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026)

表 中国の小麦の輸入先国と輸入量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年5月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年5月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
カナダ	185.9	48.2	カナダ	152.8	43.5	カナダ	269.6	56.9
豪州	86.9	22.5	豪州	86.3	24.6	豪州	118.6	25.0
米国	46.2	12.0	米国	46.2	13.2	アルゼンチン	35.0	7.4
カザフスタン	30.8	8.0	カザフスタン	30.5	8.7	米国	26.8	5.6
ロシア	29.7	7.7	ロシア	29.4	8.4	ロシア	12.8	2.7
日本	4.9	1.3	日本	4.5	1.3	カザフスタン	5.8	1.2
その他	1.5	0.4	その他	1.4	0.4	その他	5.1	1.1
合計	385.9	100.0	合計	351.1	100.0	合計	473.7	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

図 中国の小麦輸入量の推移(累計)



資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2026/27 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・カナダ等で上方修正されたものの、EU、ケニアで下方修正され、前月から下方修正された。

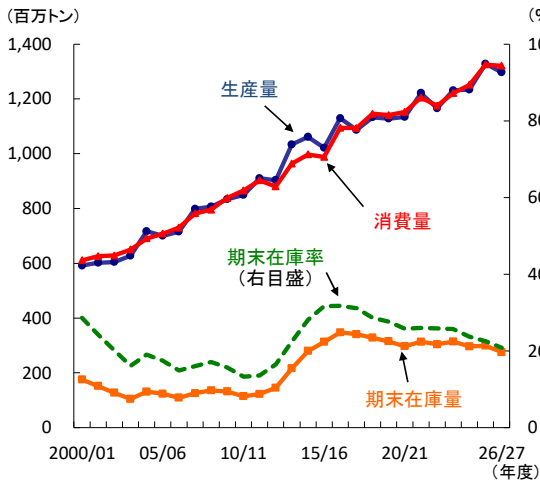
消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・カナダ、ヨルダン、イラク等で上方修正されたものの、ケニア、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・米国、カナダで上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料:USDA「PS&D」(2026.7.10)をもとに農林水産省で作成

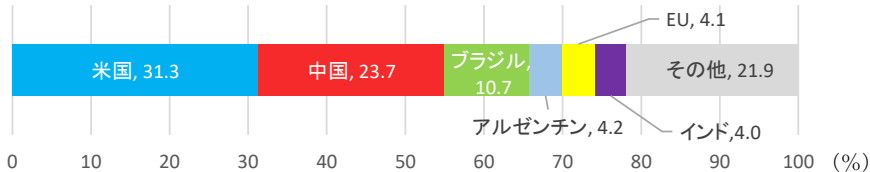
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

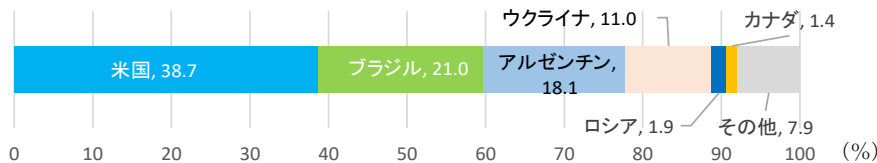
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,233.9	1,327.7	1,297.1	▲ 3.3	▲ 2.3
消 費 量	1,251.6	1,325.2	1,320.5	▲ 2.0	▲ 0.4
うち飼料用	784.0	825.5	833.1	0.5	0.9
輸 出 量	187.5	220.7	209.9	2.3	▲ 4.9
輸 入 量	186.2	196.7	204.0	4.4	3.7
期末在庫量	296.2	298.7	275.3	▲ 6.0	▲ 7.8
期末在庫率	23.7%	22.5%	20.8%	▲ 0.4	▲ 1.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 July 2026)

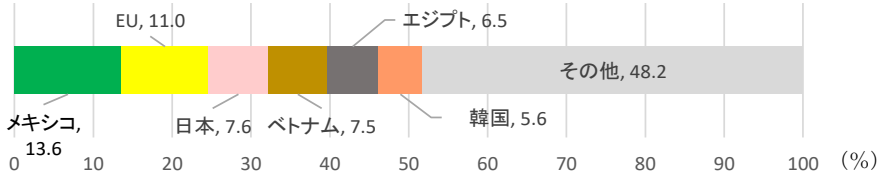
○ 2026/27 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,297.1 百万トン)



○ 2026/27 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (209.9 百万トン)



○ 2026/27 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (204.0 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 6.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正されたものの、とうもろこしから大豆に作付けがシフトすることを受け前年度から 6.0%減少、過去5年平均(385.7 百万トン)からは 5.4%増の 406.4 百万トンと史上2番目の見込み。同「Acreage」(2026.6.30)によれば、2026/27 年度の作付面積は、前年度から 3.5%減の 38.58 百万ヘクタールとなるものの、1944 年以降で4番目となる見込み。

同「Crop Progress」(2026.7.13)によれば、7月 12 日現在、シルキング進捗率は 34%と、前年同期(32%)、過去5年平均(30%)を上回っている。作柄評価は「良～優良」の割合が 68%と、前年同期(74%)を下回っている。

FAO「Crop Prospects and Food Situation Triannual Global Report, No.2, July 2026」(2026.7.3)によれば、2026/27 年度の実生産量の減少は、価格低迷と肥料・燃料費の上昇が収益性を圧迫し、農家が大豆等の代替作物へ作付けを転換したことが主な要因。また、とうもろこしの水需要がピークを迎える7～9月にかけて降雨量が平年を下回るとの予報が、生産量を押し下げる潜在的なリスクとなっている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール用等需要は増加するものの、飼料用消費の減少等を受け、前年度から 1.5%減の 331.6 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、2025/26 年度の実輸出が引き続き好調であること及び EU の生産量が下方修正されたことを受け前月予測から 1.3 百万トン上方修正されたものの、他の輸出国との競争等を受け前年度から 3.8%減の 81.3 百万トンとなる見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年9月～2026 年6月の輸出量は、前年同期(5,572.2 万トン)に比べ 26.0%増の 7,022.9 万トン。輸先国別には、メキシコ 2,029.3 万トン(28.9%)、日本 1,268.7 万トン(18.1%)、韓国 746.4 万トン(10.6%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の実在庫量は、期首在庫量の引下げ及び輸出量の引上げを受け前月予測から 4.3 百万トン下方修正され、生産量の減少を受け前年度から 11.4%減、過去5年平均(41.0 百万トン)からは 10.9%増の 45.5 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 1.2 ポイント減の 11.0%となる見込み。

とうもろこしー米国

(4～5月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年9月～27年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	378.3	432.3	406.4	0.1	▲ 6.0
消費量	311.2	336.7	331.6	-	▲ 1.5
うち飼料用	138.1	161.3	155.0	-	▲ 3.9
エタノール用等	138.1	141.0	142.2	-	0.9
輸 出 量	73.0	84.5	81.3	1.3	▲ 3.8
輸 入 量	0.6	0.7	0.6	-	▲ 9.9
期末在庫量	39.4	51.3	45.5	▲ 4.3	▲ 11.4
期末在庫率	10.3%	12.2%	11.0%	▲ 1.1	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.61	36.93	35.38	0.01	▲ 4.2
単収(t/ha)	11.26	11.71	11.49	-	▲ 1.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2026)

写真 中西部オハイオ州の圃場



当圃場では、概ね栄養生長期の終盤を迎えている。
(7月2日撮影)

表 米国のとうもろこしの輸先国と輸出量

2024/25年度 (2024年9月～2025年8月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年9月～2026年6月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
メキシコ	2,212.2	32.6	メキシコ	1,786.5	32.1	メキシコ	2,029.3	28.9
日本	1,344.0	19.8	日本	1,077.0	19.3	日本	1,268.7	18.1
コロンビア	743.7	11.0	コロンビア	609.6	10.9	韓国	746.4	10.6
韓国	617.4	9.1	韓国	495.1	8.9	コロンビア	683.9	9.7
台湾	241.7	3.6	スペイン	215.3	3.9	スペイン	380.9	5.4
その他	1,617.3	23.9	その他	1,388.6	24.9	その他	1,913.7	27.2
合計	6,776.2	100.0	合計	5,572.2	100.0	合計	7,022.9	100.0

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

＜ ブラジル ＞ 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積増を受け前年度から 0.7%増、過去5年平均(129.2 百万トン)から 7.6%増の 139.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2026.7.14)によれば、2025/26 年度の実産量は、作付面積の増加を受け前年度から 0.4%増の 141.7 百万トンとなる見込み。作期別には、第1期作(南部が主産地)の実産量は、前年度から 18.7%増の 29.6 百万トンとなる見込み。収穫はほぼ完了。良好な気象条件に恵まれ単収は史上最高となった。第2期作(中西部が主産地)の実産量は、前年度から 3.4%減の 109.4 百万トンとなる見込み。収穫進捗率は、7月第1週時点で 28.5%に達した。6月には大半の実産地域で平年を上回る降雨があったが、主にゴイアス州、ミナスジェライス州、ピアウイ州では4、5月に少雨であったため、収穫が遅い作物は大幅に単収が低下し、一部地域では収穫が皆無となった。一方、マツ・グロッソ・ド・スール州、ロンドニア州、パラー州、マツ・グロッソ州では、生育期の気象条件は良好であった。第3期作(北東部が主産地)の実産量は、前年度から 10.0%減の 2.7 百万トンとなる見込み。作付けは全て完了。大半の実産地域で降雨が不足又は減少し、実産量は前月予測から 0.6 百万トン下方修正された(図)。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール用需要の増加を受け前年度から 2.1%増の 98.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出品量は、前月予測からの変更はなく、実産量の増加を受け前年度から 2.3%増の 44.0 百万トンとなる見込み。ブラジル貿易統計によれば、2025/26 年度のうち 2026 年3～6月の輸出品量は、前年同期(145.3 万トン)に比べ 47.0%増の 213.5 万トン。輸出品先国別には、エジプト 117.9 万トン(55.2%)、ベトナム 22.3 万トン(10.5%)、マレーシア 15.5 万トン(7.3%)の順となっている(表)。

USDAによれば、2026/27年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量及び輸出品量の増加を受け前年度から 9.8%減となるものの、過去5年平均(9.1 百万トン)から 22.3%増の 11.1 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 1.0 ポイント減の 7.8%となる見込み。

写真 中西部マツ・グロッソ州の圃場



とうもろこしの
収穫は大部分
で終了した。
(7月6日撮影)

とうもろこしーブラジル

(第1期作は、10～12 月に作付けされ、2～6月に収穫される。第2期作は、大豆収穫後の1～2月に作付けされ、6～9月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (27年3月～28年2月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	136.0	138.0 (141.7)	139.0 (-)	- (-)	0.7 (-)
消 費 量	91.5	96.0 (94.9)	98.0 (-)	- (-)	2.1 (-)
うち飼料用	64.0	64.0 ...	65.0 ...	- ...	1.6 ...
輸 出 量	42.0	43.0 (46.5)	44.0 (-)	- (-)	2.3 (-)
輸 入 量	1.8	1.7 (1.7)	1.8 (-)	- (-)	5.9 (-)
期末在庫量	11.6	12.3 (14.5)	11.1 (-)	- (-)	▲9.8 (-)
期末在庫率	8.7%	8.8% (10.3%)	7.8% (-)	- (-)	▲1.0 (-)
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.30	22.80 (22.62)	23.20 (-)	- (-)	1.8 (-)
単収(t/ha)	6.10	6.05 (6.27)	5.99 (-)	- (-)	▲1.0 (-)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
CONAB「Graos」(14 July 2026) ※()書き。なお、CONABの収穫面積は作付面積である。

図 ブラジルのクロップカレンダー

2025/26年度	2025年				2026年											
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
とうもろこし 第1期作			作付け 4.1百万ha													
とうもろこし 第2期作							作付け 17.8百万ha									
とうもろこし 第3期作																
大豆																

大豆収穫後の一部圃場で第2期作とうもろこし作付け

資料: CONAB「Graos」(2026.7.14)等をもとに農林水産省で作成。
なお、作付け及び収穫の時期は目安である。

表 ブラジルのとうもろこしの輸出品先国と輸出品量

2024/25年度 (2025年 3月～2026年 2月)			2024/25年度 (2025年 3～6月)			2025/26年度 (2026年 3～6月)		
国名	輸出品 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出品 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出品 (万トン)	シェア (%)
イラン	871.3	20.9	イラン	60.6	41.7	エジプト	117.9	55.2
エジプト	724.2	17.4	サウジアラビア	27.5	18.9	ベトナム	22.3	10.5
ベトナム	527.6	12.7	エジプト	12.8	8.8	マレーシア	15.5	7.3
サウジアラビア	219.6	5.3	ベトナム	10.3	7.1	サウジアラビア	13.6	6.4
中国	192.9	4.6	ヨルダン	8.1	5.6	イラン	13.6	6.4
その他	1,634.1	39.2	その他	26.0	17.9	その他	30.6	14.3
合計	4,169.7	100.0	合計	145.3	100.0	合計	213.5	100.0

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

＜ アルゼンチン ＞ 2026/27 年度の生産量は、前年度から 12.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の減少を受け前年度から 12.7%減となるものの、過去5年平均(50.5 百万トン)から 8.9%増の 55.0 百万トンとなる見込み。同「World Agricultural Production」(2026.7.10)によれば、2025/26 年度の実産量は、前年度から 28.6%増の 63.0 百万トンと、史上最高の見込み。今年は早植えとうもろこしの割合が多く、1月下旬から2月上旬の一時的な乾燥を前に、重要な生育段階を終えることができた。7月上旬時点で、主要生産地における早植えとうもろこしの収穫量は例年を上回る水準となっている。遅植えとうもろこしの収穫作業は8月いっぱい継続される。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2026.7.2)によれば、7月2日時点の 2025/26 年度のとうもろこしの収穫進捗率は 65%と前年同期(71%)を下回っており、主要生産州では、ブエノス・アイレス州 71%(前年同期 71%)、コルドバ州 69%(同 79%)、サンタフェ州 84%(同 84%)、ラ・パンパ州 24%(同 49%)となっている。全体として穀粒の水分含有量が高止まりしているため、収穫が遅延している。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の減少を受け前年度から 4.8%減の 17.7 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少を受け前年度から 15.6%減の 38.0 百万トンとなる見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2025/26 年度のうち 2026 年3～5月の輸出量は、前年同期(989.8 万トン)に比べ 41.4%増の 1,399.5 万トン。輸出先国別には、ベトナム 243.0 万トン(17.4%)、エジプト 211.1 万トン(15.1%)、アルジェリア 165.2 万トン(11.8%)の順となっている(表)。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2026.7.10)によれば、7月7日現在の輸出価格は、アルゼンチンは過去最高の輸出量による価格押し上げ効果により 11 ドル/トン上昇し 207 ドル/トン。米国は堅調な海外需要と高温乾燥の影響懸念を受け前月から 14 ドル/トン上昇し 219 ドル/トン。ブラジルは国内の堅調な需要と、競合国の価格上昇を受け 14 ドル/トン上昇し 222 ドル/トンとなった(図)。USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少を受け前年度から 14.9%減、過去5年平均(3.9 百万トン)からは 2.8%増の 4.0 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 0.2 ポイント減の 7.2%となる見込み。

とうもろこしーアルゼンチン

(早植えとうもろこしは、9月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、12 月前半～翌年2月前半に作付けされる。3～8月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (27年3月～28年2月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	49.0	63.0	55.0 (63.0)	-	▲ 12.7
消 費 量	17.1	18.6	17.7 (22.2)	-	▲ 4.8
うち飼料用	12.7	14.0	13.0 (17.0)	-	▲ 7.1
輸 出 量	29.1	45.0	38.0 (41.0)	-	▲ 15.6
輸 入 量	0.01	0.01	0.01 (0.001)	-	-
期末在庫量	5.3	4.7	4.0 (7.2)	-	▲ 14.9
期末在庫率	11.5%	7.4%	7.2% (11.4%)	-	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.83	8.20	7.90 (8.80)	-	▲ 3.7
単収(t/ha)	7.18	7.68	6.96 (7.16)	-	▲ 9.4

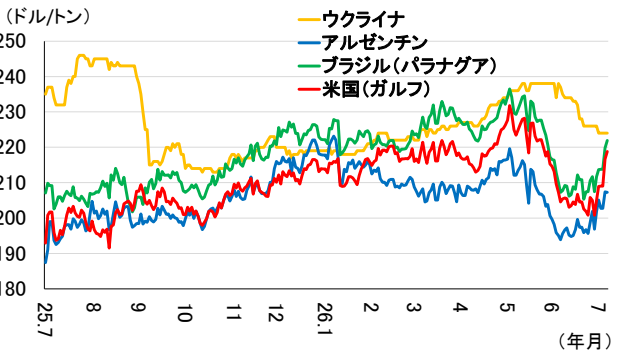
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026)

表 アルゼンチンのとうもろこしの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2025年3月～2026年2月)			2024/25年度 (2025年3～5月)			2025/26年度 (2026年3～5月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
ベトナム	534.1	18.4	ベトナム	171.3	17.3	ベトナム	243.0	17.4
ペルー	462.8	15.9	ペルー	114.9	11.6	エジプト	211.1	15.1
マレーシア	309.5	10.6	エジプト	111.3	11.2	アルジェリア	165.2	11.8
アルジェリア	259.0	8.9	アルジェリア	97.4	9.8	サウジアラビア	124.8	8.9
サウジアラビア	214.9	7.4	マレーシア	96.2	9.7	ペルー	116.0	8.3
その他	1,125.7	38.7	その他	398.7	40.3	その他	539.4	38.5
合計	2,905.9	100.0	合計	989.8	100.0	合計	1,399.5	100.0

資料:アルゼンチン国家統計局(INDEC)をもとに農林水産省で作成。なお、その他には秘匿「Confidential」の数量を含む。

図 各国のとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料:IGC のデータをもとに農林水産省で作成

＜ ウクライナ ＞ 2026/27 年度の生産量は、前年度から 2.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受け前年度から 2.9%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22 年度、33.6 百万トン)から 10.8%減の 30.0 百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、とうもろこしの作付けはほぼ完了しているとみられ、作付面積は 4.38 百万ヘクタールとなっている。ウクライナ経済・環境・農業省(2026.6.19)によれば、とうもろこしの収穫量は、32.0 百万トン超の見通し。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要の増加等を受け前年度から 10.8%増の 7.2 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度同の 23.0 百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年6月の輸出量は、前年同期(1,910.8 万トン)に比べ 6.3%増の 2,031.7 万トン。輸出先国別には、トルコ 622.7 万トン(30.6%)、イタリア 363.3 万トン(17.9%)、スペイン 192.6 万トン(9.5%)の順となっている(表)。7月 10 日時点では、前年同期に比べ輸出量が上回っているが、7月中旬以降、ロシアによるオデーサ諸港等への攻撃が激化し、輸出が難しくなっている。ウクライナ産穀物輸出量の8割以上がオデーサ諸港から出荷されるため、今後の安定した輸出が危ぶまれる状態となっている。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2026.7.10)によれば、7月7日現在のウクライナの輸出価格は、中東地域の主要輸出先(トルコを含む。)における国内供給見通しの改善によりウクライナ産とうもろこしに対する需要が軟化し、前月から 11 ドル/トン下落し 224 ドル/トンとなった(＜アルゼンチン＞図参照)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、生産量の減少及び消費量の増加を受け前年度から 8.4%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2.5 百万トン)から 18.1%減の 2.1 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 0.8 ポイント減の 6.8%となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

(4～5月に作付けされ、8～11 月に収穫される。)

(単位:百万トン)						
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	26.8	30.9	30.0 (32.0)	-	▲ 2.9	
消 費 量	6.5	6.5	7.2 (6.9)	-	10.8	
うち飼料用	5.3	5.0	5.5 (4.7)	-	10.0	
輸 出 量	20.0	23.0	23.0 (25.0)	-	-	
輸 入 量	0.02	0.01	0.01 (0.002)	-	-	
期末在庫量	0.8	2.3	2.1 (2.9)	▲ 0.5	▲ 8.4	
期末在庫率	3.2%	7.6%	6.8% (9.1%)	▲ 1.7	▲ 0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.10	4.40	4.20 (4.40)	-	▲ 4.5	
単収(t/ha)	6.54	7.02	7.14 (7.27)	-	1.7	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026)

写真 中部ポルタヴァ州の圃場



今春は、気温が低かったため、とうもろこしの作付開始がやや遅れた。生育ステージは6～8葉期を迎えている。
(7月6日撮影)

表 ウクライナのとうもろこしの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年6月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
トルコ	568.8	28.4	トルコ	545.5	28.5	トルコ	622.7	30.6
イタリア	273.6	13.7	イタリア	257.6	13.5	イタリア	363.3	17.9
スペイン	240.7	12.0	スペイン	240.7	12.6	スペイン	192.6	9.5
オランダ	199.1	10.0	オランダ	187.4	9.8	オランダ	155.9	7.7
エジプト	162.5	8.1	エジプト	160.6	8.4	イスラエル	93.4	4.6
その他	556.1	27.8	その他	519.0	27.2	その他	603.8	29.7
合計	2,000.8	100.0	合計	1,910.8	100.0	合計	2,031.7	100.0

資料:APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 1.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 1.9%増、過去5年平均(287.0 百万トン)から 7.0%増の 307.0 百万トンと史上最高の見込み。同「Grain and Feed Update」(2026.7.3)によれば、2025 年後半からの比較的堅調なとうもろこし価格に支えられ、特に中国東北部の農家は作付面積を拡大すると予測されている。

中国中央气象台「全国農業気象週報」(2026.7.13)によれば、7月5～11 日の期間、春とうもろこしは、黒龍江省、吉林省、内モンゴル自治区、遼寧省、河北省、山西省では節間伸長期、新疆ウイグル自治区、甘肅省、寧夏回族自治区ではシルキング期、四川省、広西チワン族自治区、重慶市、貴州省ではシルキング期から乳熟期、成熟期が中心となっている。一方、夏とうもろこしは、四川省では3葉期、山東省では3～7葉期、河北省、江蘇省、陝西省、山西省では7葉期、河南省及び安徽省では7葉期から節間伸長期、新疆ウイグル自治区では3～7葉期が中心となっている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.2%増の 325.0 百万トンと史上最高の見込み。同「World Agricultural Production」(2026.5.12)によれば、家禽肉生産の堅調な伸び、養豚部門及び国内加工業界からの安定した需要により消費量は増加すると見込まれる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 20.0%増の 6.0 百万トンとなる見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年5月の輸入量は、前年同期(151.8 万トン)に比べ 70.6%増の 258.9 万トン。輸入先国別には、ブラジル 192.9 万トン(74.5%)、ロシア 35.6 万トン(13.7%)、ミャンマー19.9 万トン(7.7%)の順となっている(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2026 年5月号」によれば、5月の国内価格は前月(2,480 元/トン)から横ばいの 2,480 元/トンとなった。今後、とうもろこし価格は、コーリャン(もろこし)、大麦の輸入増加等の影響を受け安定的にやや弱含みで推移する見込み。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、消費量の増加を受け前年度から 6.8%減、過去5年平均(199.1 百万トン)から 17.1%減の 165.1 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 4.4 ポイント減の 50.8%となる見込み。

とうもろこしー中国

(春とうもろこしは、2～4月に作付けされ、7～9月に収穫される。夏とうもろこしは、4～6月に作付けされ、9～10 月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	294.9	301.2	307.0 (306.0)	-	1.9
消費量	316.0	321.0	325.0 (314.4)	-	1.2
うち飼料用	234.0	239.0	243.0 (212.0)	-	1.7
輸 出 量	0.00	0.02	0.02 (0.0)	-	-
輸 入 量	1.8	5.0	6.0 (4.5)	-	20.0
期末在庫量	191.9	177.2	165.1 (173.4)	▲ 1.0	▲ 6.8
期末在庫率	60.7%	55.2%	50.8% (55.1%)	▲ 0.3	▲ 4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.74	44.96	45.40 (45.13)	-	1.0
単収(t/ha)	6.59	6.70	6.76 (6.78)	-	0.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026)

表 中国のとうもろこしの輸入先国と輸入量

2024/25 年度 (2024年10月～2025年 9 月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年 5 月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年 5 月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ブラジル	72.4	39.7	ブラジル	72.4	47.7	ブラジル	192.9	74.5
ウクライナ	37.6	20.6	ウクライナ	31.0	20.4	ロシア	35.6	13.7
ロシア	36.8	20.2	ミャンマー	19.2	12.7	ミャンマー	19.9	7.7
ミャンマー	22.8	12.5	ロシア	16.7	11.0	ウクライナ	6.2	2.4
ラオス	6.4	3.5	ラオス	6.2	4.1	ラオス	4.3	1.7
米国	3.9	2.1	米国	3.9	2.6	ペルー	0.0	0.0
その他	2.3	1.3	その他	2.3	1.5	その他	0.0	0.0
計	182.3	100.0	計	151.8	100.0	計	258.9	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2026/27年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・エクアドルで上方修正されたものの、米国、韓国、メキシコで下方修正され、前月から下方修正された。

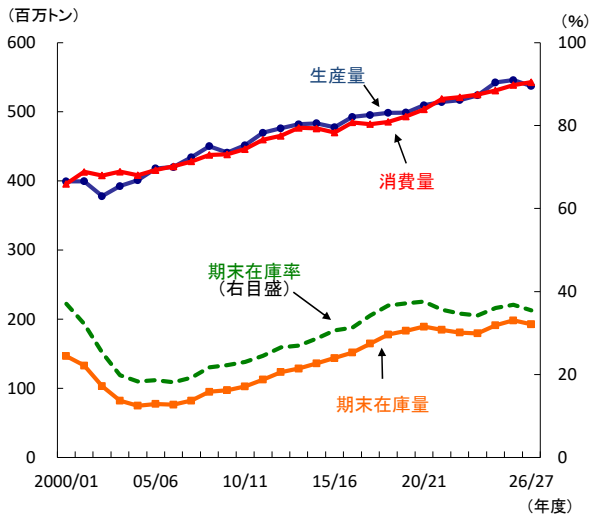
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、バングラデシュ、ベトナム等で下方修正されたものの、中国、エクアドル、カンボジア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ベトナムで上方修正されたものの、カンボジア、米国で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料:USDA「PS&D」(2026.7.10)をもとに農林水産省にて作成

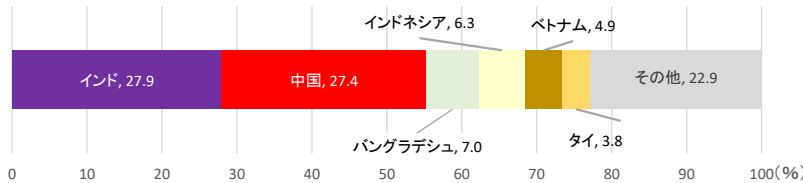
◎世界のコメ需給

(単位:百万精米トン)

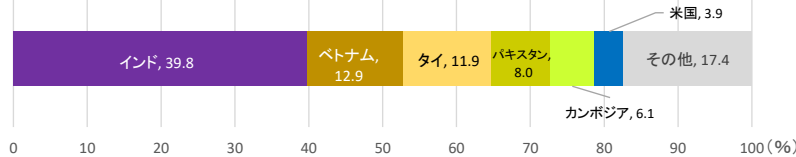
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	542.4	545.7	537.2	▲ 0.6	▲ 1.6
消 費 量	530.9	538.7	542.8	1.6	0.8
輸 出 量	61.5	60.3	62.8	▲ 0.2	4.1
輸 入 量	58.0	56.9	60.2	0.5	5.8
期末在庫量	191.1	198.2	192.6	▲ 0.2	▲ 2.8
期末在庫率	36.0%	36.8%	35.5%	▲ 0.1	▲ 1.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 July 2026)

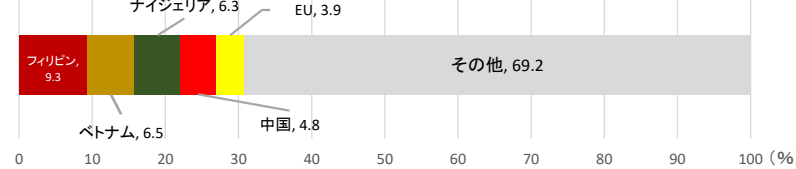
○ 2026/27年度 世界のコメの生産量(537.2百万トン)



○ 2026/27年度 世界のコメの輸出量(62.8百万トン)



○ 2026/27年度 世界のコメの輸入量(60.2百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2026/27 年度の輸出量は、前年度から 7.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が前年度から 0.1 百万ヘクタール減少(前年度比 0.9%減)することから、前年度から 1.9%減の 20.3 百万トンの見込み。単収は、前年度から 1.1%減の 2.82 トン/ヘクタールとなる見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局(2026.6)によれば、2026/27 年度の雨季米の作付面積は、コメの市場価格が低水準にあることから、作付面積及び作付回数の削減を受け前年度から 0.2%減の 9.79 百万ヘクタールと見込まれている。また中東紛争に起因する肥料価格の高騰を受けた資材費の上昇も懸念されており、作付面積は更に減少する可能性もある。

アセアン食料安全保障情報システム(2026.6)によれば、2026/27 年度の雨季米は、現在、作付期及び出穂初期の段階にあり、米価の下落や、肥料、農薬、燃料等の投入資材費の上昇により、作付面積は減少が見込まれている。干ばつや施肥量の減少により、生産量も減少すると予測され、昨年度を下回ると見込まれている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、アフリカや東南アジアの主要市場からの需要拡大を受け、前年度から 7.1%増加し、7.5 百万トンの見込み。同「Grain and Feed Monthly」(2026.7.6)によれば、タイ商務省(MOC)は、年間 7.0 百万トンという輸出目標の達成を支援するため、複数の市場開拓に関し輸出業者等との調整を進めている。また中国との政府間販売も主要な販路として継続し、かつ既存の覚書外でも中糧集団(COFCO)との協議を進めている。

タイ関税局によれば、2025/26 年度の輸出量のうち 2026 年1～5月の輸出量は、前年同期(333.2 万トン)に比べ 17.9%減の 273.6 万トンで、輸出先国別には、南アフリカ 42.8 万トン(15.6%)、米国 29.9 万トン(10.9%)、マレーシア 24.4 万トン(8.9%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.3%増の 3.9 百万トンとなる見込み。同「Grain and Feed Annual」(2026.3.31)によれば、堅調な国内生産、輸出量の減少(2024/25 年度比)及び安定した消費が相まり、過去5年間で最高水準に達する見込み。

コメ・タイ

夏の雨季作(5～10 月作付け、同年7月～翌年5月収穫)と冬の乾季作(11 月～翌年4月作付け、翌年2～10 月収穫)で行われる。主にインディカ米を栽培。

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(27年1月～27年12月)		
			予測値、0はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.8	20.7	20.3 (20.7)	-	▲ 1.9
消 費 量	12.5	12.7	12.8 (12.7)	-	0.8
輸 出 量	7.9	7.0	7.5 (7.0)	-	7.1
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.02)	-	-
期末在庫量	2.8	3.8	3.9 (3.9)	-	1.3
期末在庫率	13.5%	19.3%	19.0% (19.8%)	-	▲ 0.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	11.08	11.00	10.90 (11.00)	-	▲ 0.9
単収(穂t/ha)	2.85	2.85	2.82 (1.87)	-	▲ 1.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026) (単収は精米t/ha)

写真 田植え後 18 日目のジャポニカ米圃場



6 月 20
日に田
植えを
実施。
(タイ東
北部ウ
ンタニ
県で7
月 8 日
撮影)。

表 タイのコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2025年1～12月)			2024/25年度 (2025年1～5月)			2025/26年度 (2026年1～5月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
イラク	101.1	12.4	イラク	42.3	12.7	南アフリカ	42.8	15.6
南アフリカ	96.3	11.8	米国	37.4	11.2	米国	29.9	10.9
米国	81.8	10.0	南アフリカ	37.1	11.1	マレーシア	24.4	8.9
中国	65.5	8.0	中国	25.3	7.6	フィリピン	20.7	7.6
セネガル	32.4	4.0	セネガル	16.1	4.8	中国	13.9	5.1
マレーシア	28.0	3.4	フィリピン	13.2	4.0	セネガル	12.6	4.6
その他	411.0	50.4	その他	161.8	48.6	その他	129.2	47.2
計	816.1	100.0	計	333.2	100.0	計	273.6	100.0

資料:タイ関税局「Electronic Service」をもとに農林水産省で作成

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 25.8%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA「Rice Outlook: July 2026」(2026.7.14)によれば、2026/27年度の実産量は、収穫面積が前月予測から0.12百万ヘクタール下方修正されたことを受け、前月予測から0.7百万トン下方修正、前年度から25.8%減の4.9百万トンと39年ぶり(1987/88年度4.1百万トン)の低水準となる見込み。2026/27年度の実産面積は、コメ価格の低迷や生産資材費の高騰を要因に生産者が代替作物の栽培に転じ、主要生産州6州全てで作付面積が減少したこと、前年度に比べ27.9%減の0.80百万ヘクタールと、1972/73年度以来の最低水準となる見込み。特に南部生産州(アーカンソー州、ルイジアナ州、ミシシッピ州、ミズーリ州、テキサス州)において長粒種の作付面積が減少している。一方単収は、前月予測から0.01トン/ヘクタールとわずかに上方修正され、前年度から2.7%増の8.68トン/ヘクタールとなっている。

同「Crop Progress」(2026.7.13)によれば、7月12日現在、主要生産6州の作柄評価は「良～優良」が78%と、前年同期(77%)を上回る。カリフォルニア州の作柄評価は「良～優良」が80%となっている。

【貿易情報・その他】同「Rice Outlook: July 2026」(2026.7.14)によれば、2026/27 年度の実輸入量は、主に長粒種米の増加により、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度から 15.3%増の 1.6 百万トンと史上最高の実見込み。輸入する長粒種米はタイ産のジャスミン米やインド、パキスタン産のバスマティ米が大部分を占めると見込まれている。

2026/27 年度の実輸出量は、前月予測から 0.03 百万トン下方修正され、前年度から 6.1%減の 2.5 百万トンの見込み。同「Rice Outlook: July 2026」(2026.7.14)によれば、当該下方修正は、中・短粒種の北東アジア(主に日本)への輸出の鈍化が要因とされている。

同「Exports Sales Query System」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月～2026 年6月の実輸出量は 229.8 万トンで、輸出先国別には、日本 43.2 万トン(18.8%)、メキシコ 36.4 万トン(15.8%)、ハイチ 31.4 万トン(13.6%)の順(表)。種類別には、長粒種は、実輸出量 153.9 万トンで、輸出先国別には、メキシコ 31.7 万トン(国別シェア 20.6%)、ハイチ 31.4 万トン(同 20.4%)、コロンビア 17.9 万トン(同 11.6%)。中・短粒種は、実輸出量 75.9 万トンで、輸出先国別には、日本 43.2 万トン(国別シェア 56.9%)、韓国 14.8 万トン(同 19.5%)、メキシコ 4.7 万トン(同 6.2%)。USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、長粒種が前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、前年度から 40.2%減の 1.0 百万トンと4年ぶりの低水準となる見込み。

コメ・米国

長粒種の実産量は7割、中・短粒種の実産量は3割を占め、長粒種の6割をアーカンソー州が、中・短粒種の7割をカリフォルニア州が占める。

(単位:百万精米トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年8月～27年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.1	6.6	4.9	▲ 0.7	▲ 25.8
消 費 量	5.3	5.4	4.6	▲ 0.3	▲ 13.6
輸 出 量	2.9	2.6	2.5	▲ 0.03	▲ 6.1
輸 入 量	1.6	1.4	1.6	0.1	15.3
期末在庫量	1.7	1.6	1.0	▲ 0.4	▲ 40.2
期末在庫率	20.9%	20.5%	13.8%	▲ 4.6	▲ 6.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.16	1.11	0.80	▲ 0.12	▲ 27.9
単収(精t/ha)	8.69	8.45	8.68	0.01	2.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(10 July 2026)

表 米国のコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年8月～2026年6月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
メキシコ	68.6	23.8	メキシコ	66.8	24.7	日本	43.2	18.8
日本	39.4	13.7	日本	34.1	12.6	メキシコ	36.4	15.8
ハイチ	28.6	9.9	ハイチ	28.6	10.6	ハイチ	31.4	13.6
ホンジュラス	27.4	9.5	ホンジュラス	24.4	9.0	コロンビア	18.0	7.8
イラク	22.0	7.6	イラク	17.6	6.5	ホンジュラス	17.8	7.7
韓国	13.4	4.6	ニカラグア	13.0	4.8	韓国	14.8	6.5
その他	89.3	31.0	その他	85.8	31.7	その他	68.4	29.7
合計	288.6	100.0	合計	270.3	100.0	合計	229.8	100.0

資料:USDA「Exports Sales Query System」をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2026/27 年度の消費量は、前年度からわずか(0.02%)に減少する見込み

【生育・生産状況】USDA「Grain and Feed Update」(2026.7.3)によれば、2026/27 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が安定し、単収が前年度を上回るとの予測から、前年度から 0.5%増の 147.0 百万トン(精米ベース)となる見込み。春先の中国南部では、好天に恵まれたため、育苗や田植えが順調に進んだ。結果、今年度の早稲米の作付面積は横ばいで推移すると見込まれている。

中国中央气象台「一期作稲生育段階」及び「二期作早稲生育段階」(2026.7.5～7.11)によれば、二期作早稲は、福建省、浙江省で乳熟期、広東省、広西チワン族自治区で乳熟期から成熟期、湖南省及び江西省では出穂期から乳熟期に進んでいる。多くの産地では、登熟から成熟にかけて順調に推移したが、広東省及び広西チワン族自治区では台風の影響による強雨により、一部で収穫・乾化作業に支障が生じた。一方、一期作は、黒龍江省では分げつ期から節間伸長期、吉林省、遼寧省、江蘇省、安徽省、雲南省、浙江省で活着期から分げつ期及び節間伸長期、湖北省、四川省、重慶市、貴州省では分げつ期から節間伸長期、更に穂ばらみ期へと進んでいる。全国の主要産地で、分げつ期から穂ばらみ期を中心に順調に生育しているが、吉林省と遼寧省の一部で過湿・湛水の影響に注意が必要である。

【貿易情報・その他】USDA「Grain and Feed Update」(2026.7.3)によれば、2026/27 年度の消費量は、飼料用の古米入札が再開されたことを受け、前月予測から 2.1 百万トン上方修正されたものの、前年度からはわずか(0.02%)に減少し 147.2 百万トンとなる見込み。

同「Grain and Feed Update」(2026.7.3)によれば、2026/27年度の輸入量は、国際市場におけるコメ価格の低迷とコメ輸出国の過剰在庫を背景に、前月予測から0.6百万トン上方修正され、前年度からの変更はなく3.9百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2025/26年度のうち2025年7月～2026年5月の輸入量は、前年同期(210.9万吨)に比べ72.5%増の363.8万吨となっている。輸入先国別には、ミャンマー123.4万吨(33.9%)、ベトナム94.8万吨(26.0%)、タイ50.0万吨(13.8%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、在庫が豊富であること等を受け、前年度から 10.0%増の 2.2 百万トンの見込み。同「Grain and Feed Update」(2026.7.3)によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、中国政府による古米(2019 年及び 2021 年)の古米入札を受け、前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、前年度から 1.4%増の 107.0 百万トンの見込み(図)。

コメー中国

中国の主要コメ生産地域は、南部稲作地域(華南、華中、西南高原地域)で、インディカ米とジャポニカ米を栽培。北部稲作地域では、主にジャポニカ米を栽培。

(単位:百万精米トン)					
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)		
			予測値、〇はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	145.3	146.3	147.0 (146.3)	-	0.5
消 費 量	145.0	147.2	147.2 (145.7)	2.1	▲ 0.02
輸 出 量	1.2	2.0	2.2 (2.0)	-	10.0
輸 入 量	2.3	3.9	3.9 (2.8)	0.6	-
期末在庫量	104.5	105.5	107.0 (103.5)	▲ 1.0	1.4
期末在庫率	71.5%	70.7%	71.6% (70.1%)	▲ 1.7	0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.01	29.00	29.00 (29.00)	-	-
単収(穂t/ha)	7.15	7.21	7.24 (5.06)	-	0.4

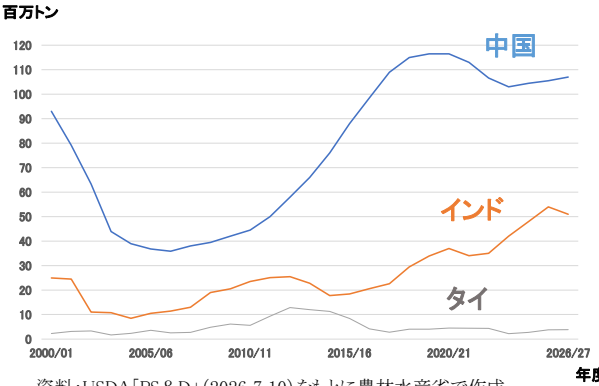
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026) (単収は精米t/ha)

表 中国のコメの輸入先国と輸入量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2024/25年度 2024年7月～2025年5月			2025/26年度 2025年7月～2026年5月		
国名	輸入量 (万吨)	シェア (%)	国名	輸入量 (万吨)	シェア (%)	国名	輸入量 (万吨)	シェア (%)
ミャンマー	67.4	28.9	ミャンマー	58.5	27.7	ミャンマー	123.4	33.9
タイ	56.1	24.0	タイ	50.6	24.0	ベトナム	94.8	26.0
ベトナム	49.6	21.3	ベトナム	45.9	21.8	タイ	50.0	13.8
インド	24.1	10.3	インド	21.8	10.4	インド	35.3	9.7
パキスタン	20.7	8.9	パキスタン	19.8	9.4	パキスタン	31.8	8.7
カンボジア	11.7	5.0	カンボジア	10.5	5.0	カンボジア	25.7	7.1
その他	3.8	1.6	その他	3.8	1.8	その他	2.8	0.8
合計	233.5	100.0	合計	210.9	100.0	合計	363.8	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

図 中国、インド及びタイの期末在庫量推移



資料:USDA「PS&D」(2026.7.10)をもとに農林水産省で作成

＜ インド ＞ 2026/27 年度の期末在庫量は、前年度から 5.6%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.6%減、過去5年平均(141.5 百万トン)から 6.0%増の 150.0 百万トンとなる見込み。同「Grain and Feed Update」(2026.6.18)によれば、記録的な生産量の前年度と比べ、作付面積の減少が見込まれることによる。2026 年のモンスーンが適切な時期にかつ広範囲に渡り、順調に推移することが極めて重要となる。インド気象局(2026.5.29)によれば、2026 年6月から9月にかけての南西モンスーン期の降水量は平年を下回ると予測されている(概要編 P3 2インド参照)。

インド農業・農民福祉省「作付進捗週報」によれば、2026/27 年度のカリフ米の作付面積は、6月 26 日時点で前年同期(3.44 百万ヘクタール)から 25.15%減の 2.58 百万ヘクタールとなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.8%増の 128.0 百万トンと予測されている。同「Grain and Feed Annual」(2026.4.2)によれば、当該増加は、主に食料安全保障向けの政府補助米の供給増、民間取引増及びインド政府が実施するエタノール混合プログラム(EBP)によるエタノール製造者への補助金付きコメ販売によるインド国内市場へのコメ供給量増が要因となっている。また、インド政府は人口増加と食料安全保障を確保するための政府による公的配給制度(PDS)による配給も継続しており、400 万トン増の過去最高の消費量となる見込み。

USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.4%増の 25.0 百万トンとなる見込み。同「Grain and Feed Update」(2026.6.18)によれば、インド産米の価格競争力の維持と国内の供給余剰を背景とする。インド輸出入統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年4月の輸出量は、1,342.3 万トンと前年同期(1,469.8 万トン)に比べ 8.4%減となっている。輸出先国別には、ベナン 125.0 万トン(9.3%)、バングラデシュ 78.2 万トン(5.8%)、サウジアラビア 76.1 万トン(5.7%)の順となっている(表)。

USDA「Rice Outlook: July 2026」(2026.7.14)によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、政府が国内価格の安定化と食料安全保障の目的で引き続き十分な在庫を保有するとの予測を受け、前月予測から 1.0 百万トン上方修正されたものの、前年度からは 5.6%減の 51.0 百万トンとなる見込み(＜中国＞図参照)。

インド食料公社(Food Cooperation India)によれば、2026 年5月時点の期末在庫量は、38.96 百万トン(精米)と前年同期(38.15 百万トン)に比べ 2.1%増の見込み。

コメーインド

カリフ米: 雨季/モンスーン期(5～10 月)に栽培。
ラビ米: 冬季の 11 月～翌3月に栽培。
夏季米: 3～6月に栽培。

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値、OはIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	150.2	154.0	150.0 (154.0)	-	▲ 2.6
消 費 量	121.4	124.5	128.0 (125.2)	-	2.8
輸 出 量	22.8	23.5	25.0 (21.6)	-	6.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	48.0	54.0	51.0 (55.7)	1.0	▲ 5.6
期末在庫率	33.3%	36.5%	33.3% (38.0%)	0.7	▲ 3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	51.27	52.83	51.50 (52.70)	-	▲ 2.5
単収(t/ha)	4.39	4.37	4.37 (2.93)	-	-

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026) (単収は精米t/ha)

写真 西ベンガル州の苗代



2026/27 年度の雨季米(カリフ米)の移植・作付けが進行中。写真は、苗代の稲苗(苗齢約5～6日)(7月2日撮影)。

表 インドのコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年4月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年4月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
ベナン	216.7	9.4	ベナン	144.1	9.8	ベナン	125.0	9.3
バングラデシュ	149.9	6.5	バングラデシュ	99.4	6.8	バングラデシュ	78.2	5.8
サウジアラビア	139.8	6.1	サウジアラビア	91.3	6.2	サウジアラビア	76.1	5.7
ギニア	114.5	5.0	コートジボワール	86.1	5.9	アラブ首長国連邦	68.4	5.1
トーゴ	113.9	5.0	ギニア	82.6	5.6	ギニア	65.8	4.9
コートジボワール	111.2	4.8	イラク	61.0	4.1	トーゴ	60.0	4.5
その他	1,454.8	63.2	その他	905.4	61.6	その他	868.8	64.7
計	2,300.8	100.0	計	1,469.8	100.0	計	1,342.3	100.0

資料:インド農業・加工食品輸出振興局(APEDA)「Agri Xchange」をもとに農林水産省で作成

＜ ベトナム ＞ 2026/27 年度の輸入量は、前年度から 15.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、コメ農家がより収益性の高い作物等(果物・野菜・養殖)ヘシフトする傾向が続き、収穫面積が前年度から 1.5%減少し、前年度から 0.4%減の 26.1 百万トンとなる見込み。

ベトナム総統計局(2026.7.3)によれば、2026年(USDA:2025/26年度)の全国の冬春作の収穫は、6月20日時点で概ね完了した。全国の平均単収は、6.98トン/ヘクタールと、前年と比べ0.12トン増が見込まれている。

全国の雨季米(夏秋作)の作付面積は、6月20日時点で、約171.2万ヘクタールと前年同期の95.7%に相当する。北部で約16.3万ヘクタールと前年同期の98.4%に相当。南部で約154.9万ヘクタールが作付けられ、前年同期の95.5%となった。内メコンデルタ地域は、約114.4万ヘクタールで、前年同期の94.4%となった。

アセアン食料安全保障情報システム(2026.6)によれば、北部では乾季米(冬春作)の収穫が進んでおり、収穫面積は0.36百万ヘクタールに達している。雨季を目前に収穫作業は加速している。好天に恵まれ、灌漑用水も十分に確保されていることから、単収の見通しは概ね良好である。南部では、雨季米(夏秋作)が作付け及び分げつ期にある。作付面積は0.83百万ヘクタールに達したが、乾季米(冬春作)の収穫遅れ、一部地域での猛暑の長期化及び肥料・農薬価格の高騰により作付進捗は前年に比べ遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、生産量の減少を受け前年度から 0.2%減の 22.2 百万トンとなる見込み。

2026/27 年度の輸入量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正されたものの、前年度から 15.2%増の 3.8 百万トンと、過去最高を記録すると予測されている。同「Rice Outlook: June 2026」(2026.6.15)によれば、カンボジアからの粳米の輸入減(20.0 万トン)が予測されている。

同「Rice Outlook: July 2026」(2026.7.14)によれば、2026/27 年度の輸出量は、特にタイ米の価格上昇により、ベトナム産米価格が競争力を得てきたことを背景に増加が予測され、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度からの変更はなく 8.1 百万トンとなる見込み。ベトナム税関総局によれば、2025/26 年度のうち 2026 年1～6月の輸出量は、502.5 万トンと前年同期(471.7 万トン)に比べ 6.5%増。輸出先国別には、フィリピン 239.2 万トン(47.6%)、中国 91.5 万トン(18.2%)、ガーナ 44.6 万トン(8.9%)の順(表)。USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、生産量の減少を受け前年度から 16.0%減の 2.1 百万トンとなる見込み。

コメベトナム

北部で二期作、南部で三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培。

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(27年1月～27年12月)		
			予測値、0はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.9	26.2	26.1 (28.2)	-	▲ 0.4
消 費 量	22.3	22.3	22.2 (23.3)	▲ 0.1	▲ 0.2
輸 出 量	8.1	8.1	8.1 (8.7)	0.1	-
輸 入 量	3.5	3.3	3.8 (3.5)	▲ 0.2	15.2
期末在庫量	3.4	2.5	2.1 (3.2)	▲ 0.1	▲ 16.0
期末在庫率	11.0%	8.2%	6.9% (10.1%)	▲ 0.3	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.02	6.80	6.70 (7.12)	-	▲ 1.5
単収(稲t/ha)	6.12	6.16	6.23 (3.98)	-	1.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026) (単収は精米t/ha)

写真 生育初期の稲(雨期米)(ベトナム南部)



カントー市
沿岸部(旧
ソクチャン
省)にある
稲作農家。
OM5451 品
種。播種後
53 日を迎え
た(7月 11
日撮影)。

表 ベトナムのコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2025年1～12月)			2024/25年度 (2025年1～6月)			2025/26年度 (2026年1～6月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
フィリピン	320.7	39.8	フィリピン	210.8	44.6	フィリピン	239.2	47.6
コートジボワール	105.3	13.1	コートジボワール	54.8	11.6	中国	91.5	18.2
ガーナ	91.9	11.4	ガーナ	47.8	10.1	ガーナ	44.6	8.9
中国	74.7	9.3	中国	44.7	9.5	コートジボワール	29.2	5.8
マレーシア	51.5	6.4	マレーシア	22.6	4.8	マレーシア	25.1	5.0
セネガル	16.8	2.1	バングラデシュ	10.5	2.2	シンガポール	7.5	1.5
その他	145.1	18.0	その他	80.9	17.2	その他	65.4	13.0
計	806.3	100.0	計	471.7	100.0	計	502.5	100.0

資料:ベトナム税関総局「月別主要輸出統計データ」をもとに農林水産省で作成

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2026/27 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ロシア等で下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

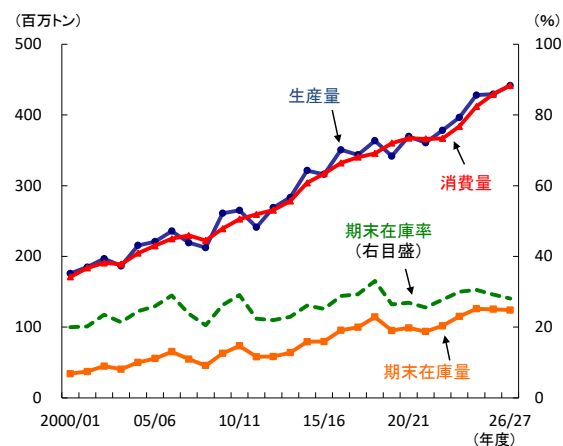
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ロシア等で下方修正されたものの、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ロシアで下方修正されたものの、米国、ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料:USDA「PS&D」(2026.7.10)をもとに農林水産省で作成

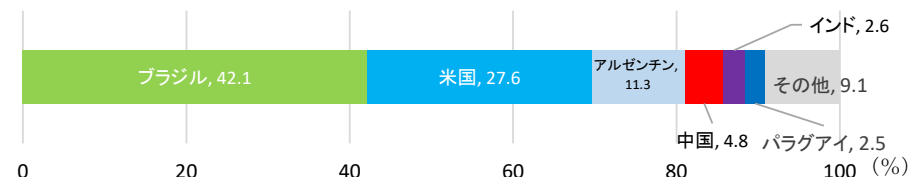
◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

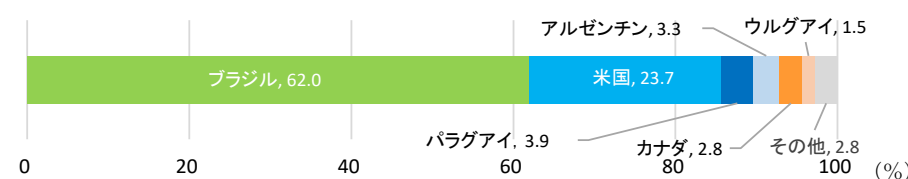
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	428.1	429.5	441.7	0.4	2.9
消 費 量	412.0	429.3	441.7	0.9	2.9
うち搾油用	359.1	372.5	384.2	1.1	3.1
輸 出 量	184.3	187.1	190.4	1.2	1.8
輸 入 量	179.2	186.3	189.3	1.3	1.6
期末在庫量	125.9	125.3	124.2	▲ 0.7	▲ 0.9
期末在庫率	30.6%	29.2%	28.1%	▲ 0.2	▲ 1.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 July 2026)

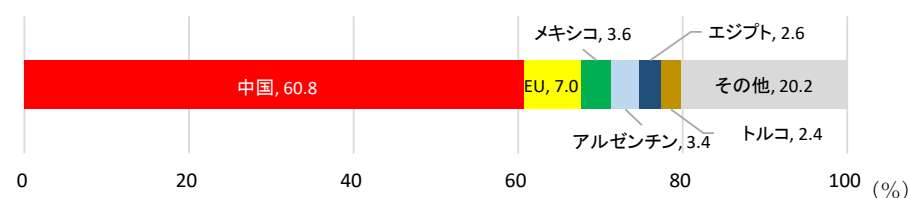
○ 2026/27 年度 世界の大豆の生産量(441.7 百万トン)



○ 2026/27 年度 世界の大豆の輸出量(190.4 百万トン)



○ 2026/27 年度 世界の大豆の輸入量(189.3 百万トン)



(2)国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 5.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測から 1.1 百万トン上方修正され、前年度から 5.0%増、過去5年平均(117.2 百万トン)から 3.9%増の 121.8 百万トンと史上最高の見込み。同「Acreage」(2026.6.30)によれば、2026/27 年度の作付面積は、前年度から 5.1%増の 34.55 百万ヘクタールとなる見込み。同「Oil Crops Outlook」(2026.7.14)によれば、大豆等の油糧作物の作付面積は予想される輪作に加え、特に小麦、とうもろこし等の飼料作物と比較して油糧作物の収益性が高いことを背景に増加した。同「Crop Progress」(2026.7.13)によれば、7月 12 日現在の開花進捗率は 50%と、前年同期(45%)、過去5年平均(44%)を上回っている。着莢進捗率も 19%と、前年同期(14%)、過去5年平均(13%)を上回っている。作柄評価は「良～優良」の割合が 65%と、前年同期(70%)を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測から 0.01 百万トン上方修正され、バイオディーゼル需要の増加等を受け前年度から 3.6%増の 77.8 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、生産量の増加を受け前年度から 9.2%増の 45.2 百万トンの見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 9月～2026 年6月の輸出量は、前年同期(4,618.5 万トン)に比べ 18.4%減の 3,770.2 万トン。輸出先国別には、中国 1,209.9 万トン(32.1%)、エジプト 455.6 万トン(12.1%)、メキシコ 432.3 万トン(11.5%)の順(表)。

同「Oilseeds: World Markets and Trade」(2026.7.10)によれば、米国大豆輸出価格は、中国による大豆購入報道や、米国の天候懸念を背景にここ1週間で上昇し、南米大豆価格についても追従して上昇した。国際穀物理事会(IGC)によれば、7月7日現在の輸出価格は、米国は前月(6月8日)から 34ドル/トン上昇し 483ドル/トン、ブラジルは前月から 34ドル/トン上昇し 475ドル/トン、アルゼンチンは前月から 36ドル/トン上昇し 447ドル/トンとなった(図)。

USDA によれば、2026/27 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量及び輸出量の増加を受け前年度から 6.0%減となるものの、過去5年平均(8.4 百万トン)から 0.9%増の 8.4 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 0.8 ポイント減の 6.9%となる見込み。

大豆－米国

(5～6月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年9月～27年8月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	119.1	116.0	121.8	1.1	5.0
消費量	68.8	75.2	77.8	0.01	3.6
うち搾油用	66.6	72.1	74.8	-	3.8
輸出量	51.5	41.4	45.2	0.8	9.2
輸入量	0.8	0.7	0.7	-	-
期末在庫量	8.8	9.0	8.4	-	▲ 6.0
期末在庫率	7.3%	7.7%	6.9%	▲ 0.05	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.89	32.55	34.16	0.29	4.9
単収(t/ha)	3.41	3.56	3.57	0.01	0.3

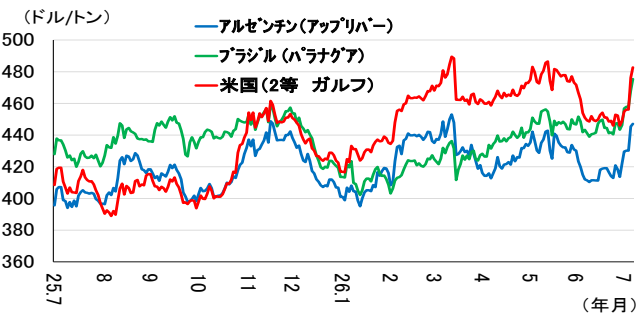
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(10 July 2026)

表 米国の大豆の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年9月～2025年8月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年9月～2026年6月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	2,232.5	44.6	中国	2,232.5	48.3	中国	1,209.9	32.1
メキシコ	498.5	10.0	メキシコ	404.0	8.7	エジプト	455.6	12.1
エジプト	369.2	7.4	エジプト	304.1	6.6	メキシコ	432.3	11.5
ドイツ	273.1	5.5	ドイツ	231.6	5.0	インドネシア	231.2	6.1
イタリア	210.0	4.2	イタリア	195.7	4.2	日本	183.2	4.9
その他	1,418.0	28.4	その他	1,250.6	27.1	その他	1,258.1	33.4
合計	5,001.5	100.0	合計	4,618.5	100.0	合計	3,770.2	100.0

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

図 各国大豆輸出価格(FOB)の推移



資料:IGC のデータをもとに農林水産省で作成

＜ ブラジル ＞ 2026/27 年度の生産量は前年度から 3.3%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 3.3%増、過去5年平均(159.9 百万トン)から 16.3%増の 186.0 百万トンと史上最高の見込み。同「Oilseeds and Products Update」(2026.7.6)によれば、生産量の増加の要因には、作付面積の増加のほか、栽培技術等の改善、これまでに行われた技術や機械への投資が挙げられる。また、作付面積の増加の大部分は、マトピバ地域(マラニオン州、トカンティンス州、ピアウイ州、バイーア州)が占めるとみられる。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2026.7.14)によれば、2025/26 年度の実産量は、作付面積及び単収の増加を受け前年度から 5.3%増の 180.6 百万トンの見込み。収穫は6月上旬までにほぼ終了した。一部地域では生育に不利な気象条件に見舞われたものの、全ての州で単収は良好となった。

【需要状況】USDAによれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 5.6%増の 69.6 百万トンと史上最高の見込み。同「Oilseeds: World Markets and Trade」(2026.7.10)によれば、記録的な生産量に加え大豆油及び大豆粕の需要増により消費量は増加する見込み。ブラジルの大豆生産量の約3分の2は輸出され海外で加工されるが、国内加工能力も生産量の増加や加工施設への投資に伴い拡大している。同「Oilseeds and Products Update」(2026.7.6)によれば、2026 年3月に予定されていたバイオディーゼル混合義務量の B16(16%混合)への引き上げは延期されているが、大豆油の需要は着実に増加する見込み。また、COFCO(中糧集団)が最近発表したマツグロソ州の大豆搾油工場を拡張する計画が、ブラジル国内の加工能力及び消費量に影響を与えるとみられている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2026/27 年度の実輸出量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、生産量の増加を受け前年度から 2.6%増の 118.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年6月の輸出量は、前年同期(7,421.6 万トン)に比べ 13.0%増の 8,388.4 万トン。輸出先国別には、中国 6,112.5 万トン(72.9%)、スペイン 317.9 万トン(3.8%)、タイ 281.3 万トン(3.4%)の順となっている(表)。

USDAによれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、消費量の増加等を受け前年度から 2.1%減となるものの、過去5年平均(33.9 百万トン)からは 8.9%増の 36.9 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 1.2 ポイント減の 19.7%となる見込み。

大豆－ブラジル

(9～12 月に作付けされ、1～4月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)			
			2026/27 年			対前年度 増減率(%)
			予測値	前月予測 からの変更	2026/27 年	
生 産 量	172.5	180.0 (180.6)	186.0 (－)	－ (－)	3.3 (－)	3.3 (－)
消 費 量	62.2	65.9 (66.3)	69.6 (－)	－ (－)	5.6 (－)	5.6 (－)
うち搾油用	58.2	61.5 ...	65.0 ...	－ ...	5.7 ...	5.7 ...
輸 出 量	103.1	115.0 (116.3)	118.0 (－)	0.5 (－)	2.6 (－)	2.6 (－)
輸 入 量	0.7	0.9 (0.9)	0.8 (－)	－ (－)	▲11.1 (－)	▲11.1 (－)
期末在庫量	37.7	37.7 (8.8)	36.9 (－)	▲0.5 (－)	▲2.1 (－)	▲2.1 (－)
期末在庫率	22.8%	20.8% (4.8%)	19.7% (－)	▲0.3 (－)	▲1.2 (－)	▲1.2 (－)
(参考)						
収穫面積(百万ha)	47.40	48.50 (48.64)	50.00 (－)	－ (－)	3.1 (－)	3.1 (－)
単収(t/ha)	3.64	3.71 (3.71)	3.72 (－)	－ (－)	0.3 (－)	0.3 (－)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
CONAB「Grãos」(14 July 2026)※()書き。なお、CONABの収穫面積は作付面積である。

表 ブラジルの大豆の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年6月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	7,968.8	77.3	中国	5,547.2	74.7	中国	6,112.5	72.9
スペイン	396.3	3.8	スペイン	288.8	3.9	スペイン	317.9	3.8
タイ	365.5	3.5	タイ	257.0	3.5	タイ	281.3	3.4
トルコ	184.8	1.8	トルコ	166.8	2.2	トルコ	257.3	3.1
イラン	146.3	1.4	イラン	144.9	2.0	パキスタン	174.9	2.1
その他	1,252.1	12.1	その他	1,016.8	13.7	その他	1,244.5	14.8
合計	10,313.8	100.0	合計	7,421.6	100.0	合計	8,388.4	100.0

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2026/27 年度の作付面積は前年度から 3.1%増加する見込み(カナダ統計局)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2026.7.20)によれば、2026/27 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から8.4%増の 7.5 百万トンとなる見込み。一方で 2024/25 年度の実生産量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 7.7 百万トン、2025/26 年度の実生産量も前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 6.9 百万トンとなった。

カナダ統計局(2026.6.30)によれば、2026/27 年度の作付面積は、前年度から 3.1%増、過去5年平均(223.0 万ヘクタール)から 8.2%増の 241.2 万ヘクタールとなる見込み(図)。他作物の投入コスト上昇及び価格下落による収益性低下により作付けが大豆へシフトしたとみられる。AAFC によれば、マニトバ州の作付面積は前年度から 16%増の 77.9 万ヘクタールとなる一方、オンタリオ州は前年度から1%減の 120 万ヘクタール、ケベック州は前年度から3%減の 42.4 万ヘクタール。

【需要状況】AAFC によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、飼料用消費等の増加を受け前年度から 7.3%増の 2.2 百万トンとなる見込み。このうち、搾油用消費量は、前年度と同水準、過去5年平均(1.74 百万トン)をわずかに上回り 1.8 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度から 1.8%増の 5.6 百万トンとなる見込み。

2025/26 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度(5.52 百万トン)から0.4%減の 5.5 百万トンとなるものの、史上3番目の輸出量となる見込み。カナダ統計局によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月～2026 年5月の輸出量は、前年同期(494.7 万トン)に比べ 0.3%増の 496.1 万トン。輸出先国別には、中国 196.3 万トン(39.6%)、アルジェリア 52.7 万トン (10.6%)、オランダ 52.4 万トン(10.6%)の順となっている(表)。

AAFC によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からわずかに上方修正され、生産量の増加等を受け前年度から 35.0%増の 0.4 百万トンとなるものの、依然として逼迫した水準となる見込み。期末在庫率は、前年度から 1.2 ポイント増の 4.9%となる見込み。

大豆－カナダ

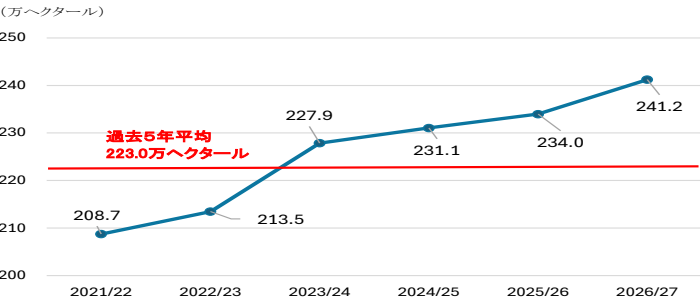
(5～6月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年8月～27年7月)			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	7.7	6.9 (6.9)	7.4 (7.5)	0.1 (－)	7.0 (8.4)	(8.4)
消 費 量	2.4	2.1 (2.1)	2.2 (2.2)	－ (▲0.1)	7.3 (7.3)	(7.3)
うち搾油用	1.7	1.4 (1.8)	1.5 (1.8)	－ (－)	7.1 (－)	(－)
輸 出 量	5.6	5.3 (5.5)	5.4 (5.6)	0.1 (0.2)	1.9 (1.8)	(1.8)
輸 入 量	0.3	0.3 (0.3)	0.3 (0.4)	－ (▲0.1)	▲3.2 (33.3)	(33.3)
期末在庫量	0.6	0.5 (0.3)	0.6 (0.4)	0.02 (0.01)	21.0 (35.0)	(35.0)
期末在庫率	7.5%	6.5% (3.8%)	7.6% (4.9%)	0.2 0.04	1.1 (1.2)	(1.2)

(参考)
収穫面積(百万ha) 2.29 2.32 (2.32) 2.40 (2.39) 0.05 (0.01) 3.4 (2.9)
単収(t/ha) 3.37 2.98 (2.98) 3.08 (3.14) ▲0.03 (▲0.01) 3.4 (5.4)
資料:USDA「PS&D」(10 July 2026)
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 July 2026)※()書き

図 カナダの大豆の作付面積の推移



資料:カナダ統計局(2026.6.30)のデータをもとに農林水産省で作成

表 カナダの大豆の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年 8 月～2025 年 7 月)			2024/25年度 (2024年 8 月～2025 年 5 月)			2025/26年度 (2025 年 8 月～2026 年 5 月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	104.2	19.0	中国	101.9	20.6	中国	196.3	39.6
イラン	83.9	15.3	イラン	83.9	17.0	アルジェリア	52.7	10.6
アルジェリア	52.1	9.5	アルジェリア	44.3	9.0	オランダ	52.4	10.6
米国	42.2	7.7	米国	33.1	6.7	イラン	43.1	8.7
日本	38.6	7.1	日本	30.7	6.2	日本	27.8	5.6
インドネシア	31.8	5.8	バングラデシュ	26.1	5.3	米国	25.4	5.1
その他	194.4	35.5	その他	174.9	35.3	その他	98.4	19.8
合計	547.2	100.0	合計	494.7	100.0	合計	496.1	100.0

資料:カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2026/27 年度の生産量は前年度から 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収増を受け前年度から 0.5%増、過去5年平均(19.8 百万トン)から 6.0%増の 21.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国中央気象台「全国農業気象週報」(2026.7.13)によれば、7月5～11 日の期間、黒龍江省、内モンゴル自治区、遼寧省では3葉期から開花期、吉林省及び山西省では分枝期から開花期、河南省及び江蘇省では出苗期から分枝期、安徽省及び河北省では3葉期となっている。黒龍江省、吉林省、遼寧省では降水に恵まれ、気温も適温であったことから、開花期や着莢初期に向かう生育は概ね順調だったが、吉林省中部及び遼寧省中北部では継続する過湿と日照不足により生育への悪影響が見られた。河北省、河南省、山西省では生育条件が良好で、大豆の生育に有利であったが、東北地域の一部では過湿が主要なリスクとなった。総合的にみると、大豆は出苗期から3葉期、分枝期、開花期へ順調に進展しているが、吉林省及び遼寧省の一部では農地の過湿・湛水による影響に留意する必要がある。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、家禽及び水産養殖部門の成長や養豚部門での飼料需要の安定を受け、前月予測から 1.0 百万トン上方修正、前年度から 1.6%増の 136.0 百万トンと史上最高の見込み。消費の伸びは食用需要にも支えられており、当該需要も GDP の増加に伴う拡大が見込まれている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸入量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度から 1.8%増の 115.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年5月の輸入量は、前年同期(6,029.0 万トン)に比べ 3.8%増の 6,257.4 万トン。輸入先国別には、ブラジル 4,129.8 万トン(66.0%)、アルゼンチン 872.1 万トン(13.9%)、米国 837.9 万トン(13.4%)の順(表)。報道情報によれば、最近の輸入増は、ブラジルからの供給が豊富であったことが要因とみられている。国内養豚業の需要回復や大豆の国際価格の競争力の高まりを反映しているとの業界関係者の分析もある。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2026 年5月号」によれば、5月の国際的な大豆価格は原油価格の上昇がバイオディーゼル需要を押し上げ、また米中首脳会談が市場の強気観測を下支えし、小幅に上昇した。国内価格は前月(5,000 元/トン)から横ばいの 5,000 元/トンとなった。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量の増加を受け前年度から 0.2%減となるものの、過去5年平均(37.9 百万トン)から 16.7%増の 44.3 百万トンとなる見込み。

大豆－中国

(4～6月に作付けされ、9～10 月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.7	20.9	21.0 (21.0)	-	0.5
消 費 量	127.4	133.9	136.0 (138.9)	1.0	1.6
うち搾油用	103.5	109.0	111.0 (114.5)	1.0	1.8
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	▲ 16.7
輸 入 量	108.0	113.0	115.0 (115.5)	1.0	1.8
期末在庫量	44.5	44.4	44.3 (48.7)	-	▲ 0.2
期末在庫率	34.9%	33.1%	32.5% (35.0%)	▲ 0.2	▲ 0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.33	10.30	10.30 (10.25)	-	-
単収(t/ha)	2.00	2.03	2.04 (-)	-	0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 July 2026)

IGC「Grain Market Report」(25 June 2026)

表 中国の大豆の輸入先国と輸入量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年5月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年5月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ブラジル	7,610.8	69.6	ブラジル	3,365.8	55.8	ブラジル	4,129.8	66.0
米国	2,440.9	22.3	米国	2,216.1	36.8	アルゼンチン	872.1	13.9
アルゼンチン	476.6	4.4	アルゼンチン	198.1	3.3	米国	837.9	13.4
ウルグアイ	244.3	2.2	ウルグアイ	110.6	1.8	ウルグアイ	179.6	2.9
カナダ	118.6	1.1	カナダ	109.6	1.8	カナダ	168.7	2.7
ロシア	45.0	0.4	ロシア	28.4	0.5	ロシア	63.7	1.0
その他	2.1	0.0	その他	0.3	0.0	その他	5.6	0.1
合計	10,938.3	100.0	合計	6,029.0	100.0	合計	6,257.4	100.0

資料:中国海関統計のデータをもとに農林水産省で作成

＜ アルゼンチン ＞ 2026/27 年度の生産量は前年度同の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度同、過去5年平均(43.6 百万トン)から 14.6%増の 50.0 百万トンとなる見込み。また、2025/26 年度の実産量は、単収は増加するものの収穫面積の減少を受け前年度から 2.2%減の 50.0 百万トンとなる見込み。同「Oilseeds and Products Update」(2026.7.6)によれば、2025/26 年度は、主要産地の大部分で、生育に重要な時期である3月下旬から4月にかけて、十分な降雨があったことにより、高水準の単収となった。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2026.7.2)によれば、7月2日現在の2025/26年度の収穫進捗率は99.6%とほぼ終了した。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加を受け前年度から2.0%増の49.9 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から31.1%減の6.2 百万トンとなる見込み。同「Oil Crops Outlook」(2026.5.14)によれば、2025/26 年度は、2025 年9月の輸出税一時撤廃を受け、輸出業者が特に中国向けに大量の輸出を行った。

同「Oilseeds and Products Update」(2026.7.6)によれば、アルゼンチン政府は、2026 年6月3日、政令423/2026号にて、小麦及び大麦の輸出税を即時引き下げるとともに、2027 年1月から2028 年12月にかけて、大豆、大豆製品(大豆油・大豆粕)、とうもろこし、ソルガム、ヒマワリの輸出税を段階的に引き下げることを発表した(表)。これらの引下げは同国の財政状況に応じて実施されることとなっている。輸出税の引下げは、直接的に農家の収入を増加させ、収益性の向上をもたらすとみられ、現地の農業界は、今回の発表を歓迎している。

USDA によれば、2026/27 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、アルゼンチン最大の輸入先国であるパラグアイにおける生産量減少を受け、前年度から7.8%減の6.5 百万トンとなる見込み。

USDA によれば、2026/27 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、輸出量の減少を受け前年度から1.7%増、過去5年平均(22.7 百万トン)から6.9%増の24.2 百万トンとなる見込み。実在庫率は、前年度から2.0 ポイント増の43.2%となる見込み。

大豆－アルゼンチン

(10～1月に作付けされ、3～7月に収穫される。)

(単位:百万トン)						
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	51.1	50.0	50.0 (51.0)	-	-	
消 費 量	48.9	48.9	49.9 (51.0)	-	2.0	
うち搾油用	43.2	42.0	43.0 (44.5)	-	2.4	
輸 出 量	7.9	9.0	6.2 (6.1)	-	▲ 31.1	
輸 入 量	6.3	7.1	6.5 (6.2)	-	▲ 7.8	
期末在庫量	24.7	23.8	24.2 (5.8)	-	1.7	
期末在庫率	43.4%	41.1%	43.2% (10.2%)	-	2.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.46	16.30	17.10 (17.15)	-	4.9	
単収(t/ha)	2.93	3.07	2.92 (-)	-	▲ 4.9	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2026)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2026)

表 アルゼンチンの輸出税率の推移

(2022 年 12 月 30 日以降)

(単位:%)

政令	公布日	小麦	とうもろこし	大豆	大豆油 大豆粕
政令851/2021号	2022年12月30日	12	12	33	31
政令38/2025号	2025年1月27日	9.5	9.5	26	24.5
政令439/2025号	6月27日	9.5	12	33	31
政令526/2025号	7月31日	9.5	9.5	26	24.5
政令682/2025号	9月22日	0	0	0	0
政令526/2025号	9月24日(※)	9.5	9.5	26	24.5
政令877/2025号	12月12日	7.5	8.5	24	22.5
政令423/2026号	2026年6月3日	5.5	2027年1月～2028年12月		
			5.5に段階 的に引下げ	15に段階 的に引下げ	14に段階 的に引下げ

※9月に一時的に輸出税を撤廃したものの、設定した輸出額の上限に達したため、以前の輸出税が復活した。
資料:アルゼンチン政府官報をもとに農林水産省で作成

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2026/27年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	26年6月～27年5月	26年9月～27年8月	26年8月～27年7月	26年9月～27年8月
カナダ	26年8月～27年7月			26年8月～27年7月
豪州	26年10月～27年9月		27年3月～28年2月	
EU	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月		
中国	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月
ロシア	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月		26年9月～27年8月
ウクライナ	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月		
ブラジル		27年3月～28年2月	27年4月～28年3月	26年10月～27年9月
アルゼンチン	26年12月～27年11月	27年3月～28年2月		26年10月～27年9月
タイ			27年1月～12月	
インド	26年4月～27年3月		26年10月～27年9月	
ベトナム			27年1月～12月	

※市場年度は、各国で概ね作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2026/27年度は、米国の小麦では2026年6月～2027年5月、ブラジルのとうもろこしでは2027年3月～2028年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216 メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772 メトリックトン	大麦	
	0.025401 メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515 メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359 メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469 ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16 ヘクタール	タイ
1 畝(ムー)	0.0667 ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536 リットル		英国
1ガロン	3.785 リットル		米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏(°F)	摂氏(°C) = (°F - 32) ÷ 1.8		

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (小 麦)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
EU 	145.1百万トン (シェア17.2%)	冬小麦																								
		春小麦																								
中国 	140.1百万トン (シェア16.6%)	冬小麦																								
		春小麦																								
インド 	117.9百万トン (シェア14.0%)																									
ロシア 	90.3百万トン (シェア10.7%)	冬小麦																								
		春小麦																								
米国 	54.0百万トン (シェア6.4%)	冬小麦																								
		春小麦																								
カナダ 	40.0百万トン (シェア4.7%)	春小麦																								
		冬小麦																								
豪州 	36.0百万トン (シェア4.3%)																									

資料: USDA「Crop Calendars」、 「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (コ メ)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
 インド 152.0百万トン (シェア28.0%)		カリフ(雨期)																								
		ラビ(乾期)																								
 中国 146.3百万トン (シェア27.0%)		一期作																								
		二期作遅植え																								
		二期作早植え																								
 バングラデシュ 37.7百万トン (シェア6.9%)		ボロ種																								
		アマン種																								
		アウス種																								
 インドネシア 33.8百万トン (シェア6.2%)		第1期作																								
		第2期作																								
		第3期作																								
 ベトナム 26.2百万トン (シェア4.8%)		南部冬春作																								
		北部冬春作																								
		南部夏秋作早植え																								
		北部冬作Lua Mua																								
		南部夏秋作遅植え																								
 タイ 20.7百万トン (シェア3.8%)		雨期作																								
		乾期作																								

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (と う も ろ こ し)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年												N+2年	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
米国  432.3百万トン (シェア32.9%)																												
中国  301.2百万トン (シェア22.9%)		北部																										
		南部																										
ブラジル  135.0百万トン (シェア10.3%)		第2期作																										
		第1期作																										
アルゼンチン  59.0百万トン (シェア4.5%)																												
EU  56.8百万トン (シェア4.3%)																												
インド  46.2百万トン (シェア3.5%)		カリフ(雨期)																										
		ラビ(乾期)																										

資料:USDA「Crop Calendars」、 「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (大 豆)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ブラジル 	180.0百万トン (シェア42.1%)																									
米国 	116.0百万トン (シェア27.1%)																									
アルゼンチン 	48.0百万トン (シェア11.2%)	第1期作																								
		第2期作																								
中国 	20.9百万トン (シェア4.9%)																									

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (な た ね)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	N年												N+1年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カナダ 	22.0百万トン (シェア23.0%)																								
EU 	20.5百万トン (シェア21.5%)																								
中国 	16.0百万トン (シェア16.8%)																								
インド 	12.0百万トン (シェア12.6%)																								
豪州 	7.7百万トン (シェア8.0%)																								
ロシア 	5.5百万トン (シェア5.8%)																								
ウクライナ 	3.5百万トン (シェア3.7%)																								

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2026 年 7 月中旬までに発表した情報を引用しています（最新年度は 2026/27 年度です）。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

<https://www.usda.gov/about-usda/reports-and-data/agency-reports>

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain: World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds: World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

- 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

・食料需給表: <https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>

・食品の価格動向: <https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>

・米に関するマンスリーレポート: <https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

・食料需給見通し(農林水産政策研究所): <https://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報 (ALIC の情報サイト): <https://www.alic.go.jp/>

ア 砂糖、でんぷん: <https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>

イ 野菜: <https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>

ウ 畜産物: <https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関(英語及び各国語となります)

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関 (FAO) : <https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会 (IGC) : <https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構 (OECD) (農業・水産業分野):
<https://www.oecd.org/en/topics/agriculture-and-fisheries.html>
- ・農業市場情報システム (AMIS) : <http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省 (USDA) : <https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社 (CONAB) : <https://www.gov.br/conab/pt-br>
- ・カナダ農務農産食品省 (AAFC) :
<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局 (ABARES) : <http://www.agriculture.gov.au/abares>

- データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、各国で概ね作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。以下サイトの「Reference Data」を参照ください。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。
- ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本資料の引用等につきましては、出所(農林水産省発行「食料安全保障月報」)を併記願います。
- 本資料の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
TEL:03-6744-2368(直通)

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html